

● 在清國及韓國本邦郵便局賣下收入印紙符號ノ件

明治三十二年十二月
大藏省令第四十九號

在清國及韓國本邦郵便局ニ於テ賣下ヘキ收入印紙ニハ赤色又ハ黑色ヲ以テ清國若クハ韓國ノ二字ヲ印
刷シ之カ符號トス
前項ノ收入印紙ハ清國又ハ韓國以外ニ於テ使用スルコトヲ得ス

● 在韓國本邦郵便局收入印紙賣下ニ關スル件 明治三十四年十二月
大藏省令第二十七號
韓國ニ於テハ自今明治三十二年大藏省令第四十九號ノ符號アル收入印紙及其ノ符號ナキ收入印紙ヲ併
セ賣下クヘシ

● 印紙類賣下賣捌規則 明治二十三年十一月 勅令第二百七十一號

改正 ● 明治三十一年八月 勅令第三百八十七號
● 明治三十七年三月 勅令第八十二號

朕印紙類賣下賣捌規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ニ依リ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類ハ左ノ如シ

證券印紙 手形用紙 共

煙草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

登記印紙

收入印紙

第二條 各府縣ニ左ノ印紙類賣捌ヲ置ク

元賣捌人

府縣廳ヨリ印紙類ヲ拂受ケ之ヲ其管内ニ於ケル賣捌人ニ賣渡スモノトス

賣捌人

元賣捌人ヨリ印紙類ヲ買受ケ之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 賣捌人ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ許可スヘシ但本條第三ニ該當スル者ハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ許可スルモノトス

一 陸海軍人其他公務ノ爲メニ受ケタル傷痕又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者

二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者
 三 一般人民

第四條 印紙類賣捌ヲ爲サントスル者ハ府縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第五條 (削除)

第六條 印紙類ノ賣下ハ其額面ニ對シ百分ノ七以内ノ割引ヲ爲スヘシ

第七條 印紙類ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ

印紙類ノ賣下代金一回貳千圓以上ハ公債證書ヲ抵當ト爲シ六箇月以内ノ延納ヲ許スコトヲ得

第八條 元賣捌人及賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ印紙類額面ニ對シ百分ノ十以内ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得但交換印紙ハ拾錢以上取纏ノタルモノニ限ル

一 印紙類損傷又ハ汚染シタルトキ
 一 印紙不用ニ歸シタルトキ

第九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ルトキハ其效ヲ失フモノトス

一 恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其權利消滅若クハ停止セラレタルトキ
 一 賣捌區域外ニ移住スルトキ

第十條 印紙類ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

印紙類ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ

前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス

第十一條 元賣捌人及賣捌人ノ配置並ニ第六條第八條ノ割引歩合其他此規則ニ關スル施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 此規則ハ府縣知事地方ノ實況ヲ量リ大藏大臣ノ認可ヲ經テ明治二十四年一月一日ヨリ漸次之ヲ施行スヘシ

第十三條 此規則中印紙類ノ割引ニ關スル條項ハ此規則ノ施行ニ拘ラス來ル明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十九年六月大藏省令第二十一號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 此規則ハ北海道及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ之ヲ施行セス

●印紙類賣下賣捌規則施行細則

明治二十三年十一月
大藏省令第三十四號

改正

- 明治二十四年三月 省令第三號
- 明治三十一年八月 省令第十五號
- 明治二十六年十月 省令第二十四號
- 明治三十五年十月 省令第二十三號
- 明治三十五年十一月 省令第二十八號

明治二十三年十一月勅令第二百七十一號印紙類賣下賣捌規則施行細則左ノ通り相定ム

印紙類賣下賣捌規則施行細則

第一條 元賣捌人ハ本店ヲ府縣廳所在ノ地ニ置キ各稅務署所轄内ニ支店又ハ代理店ヲ設クヘシ
賣捌人ハ各稅務署所轄内ヲ一區若クハ數區トシ其區内ノ地勢商業等ノ實況ニ應シ稅務監督局長適宜
其人員ヲ定ムヘシ

第二條 印紙類ハ額面ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下ケ又ハ賣渡スモノトス

一 稅務署ヨリ元賣捌人ニ賣下クルトキ 〔登記ノ印紙〕 百分ノ六
〔其他ノ印紙〕

一 元賣捌人ヨリ賣捌人ニ賣渡ストキ 〔登記ノ印紙〕 百分ノ四
〔其他ノ印紙〕

第三條 規則第八條ノ割引歩合ハ額面ニ對シテ左ノ如シ

一 賣捌人ヨリ元賣捌人ニ請求スルトキ 〔登記ノ印紙〕 百分ノ九
〔其他ノ印紙〕

一 元賣捌人ヨリ稅務署ニ請求スルトキ 〔登記ノ印紙〕 百分ノ八
〔其他ノ印紙〕

印紙類ノ交換又ハ買戻ヲ請求セントスルトキハ賣捌人ハ元賣捌人ニ元賣捌人ハ稅務署ニ申出ヘシ
第四條 規則第七條ノ公債證書ハ有利息ノモノニ限り其ノ擔保價格ハ稅務署長ニ於テ相當ト認ムル價
格ニ依ルヘシ

第五條 印紙類元賣捌人及ヒ賣捌人ハ各免許賣捌所ノ標札ヲ調製シ戶外ニ掲出スヘシ

第六條 規則第九條ノ場合ニ於テハ總テ廢業ノ取扱ニ依ルヘシ

第七條 印紙類元賣捌人及ヒ賣捌人ハ印紙類受拂帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ但賣捌人ニ於テ煙草印紙賣藥印紙ヲ賣捌キタルトキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

附則

第八條 印紙類賣下賣捌規則施行ノ前日ニ現在スル印紙類賣捌人ハ更ニ願出ツルヲ要セス將來該規則ニ從ヒ繼續賣捌ヲ爲スコトヲ得

●印紙類賣下賣捌規則(北海道、沖繩縣、東京府管下 小笠原島、伊豆七島ニ適用)

明治十九年六月一號 大藏省令第二十一號

改正

●明治二十一年十月 省令第十二號

●明治三十一年八月 省令第十四號

●明治三十一年十月 省令第十六號

●明治三十七年四月 省令第十四號

印紙類賣下賣捌規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前ノ印紙類賣捌規程ハ同日ヨリ廢止ス

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ヲ以テ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類左ノ如シ

證券印紙 手形用紙 共

煙草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

登記印紙

收入印紙

第二條 印紙類ノ賣下ハ地方廳之ヲ管理シ郡區役所ヲシテ其手續ヲ爲サシムヘシ

第三條 印紙類ハ第五條第六條ニ依リ賣捌ノ許可ヲ得タル者ノ外賣下ヲ爲サルモノトス

第四條 北海道廳長官府知事(縣令)ハ其管内各郡區ノ實況ニ應シ印紙類賣捌所ノ配置方ヲ計畫シ豫メ

其員數ヲ定メ之ヲ大藏省ニ届出ヘシ

第五條 印紙類ノ賣捌ハ左ノ資格アリテ其郡區内ニ居住スル者ニ限り之ヲ許ス

一 陸軍海軍及ヒ官吏恩給令ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一 巡查看守給助例ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一陸軍恩給令第二十一條第一項海軍恩給令第二十二條第一項官吏恩給令第十條ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者

一巡查看守給助例第二條第三項ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者

第六條 第五條ノ資格アル出願者其郡區内印紙賣捌所ノ定數ニ滿タサルトキハ其郡區内ニ居住シテ一般陸軍恩給令海軍恩給令官吏恩給令巡查看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツ可シ前項資格アル者ヲ以テスルモ猶定數ニ滿タサルトキハ二年以内ノ期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 (削除)

第八條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ居住地ノ郡區役所ヲ經由シ管廳ニ願出テ賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出ス可シ

第九條 印紙類賣捌人改名又ハ同郡區内ニ轉居ノ節ハ其郡區役所ニ申出テ標札ノ訂正ヲ受クヘシ但標札燒失毀損等ノ節ハ更ニ其下渡ヲ受クヘシ

第十條 印紙類ハ其代金上納ノ後之ヲ下渡ス可シ但公債證書ヲ抵當トナシ六箇月以内之レカ延納ヲ許スコトアル可シ

第十一條 印紙類ハ額面ニ對シ百分ノ四ノ割引ヲ以テ賣下ヲ爲スモノトス

第十二條 印紙類ハ賣捌所ノ外ニ於テ一切賣捌クヲ得ス

第十三條 印紙類ハ必ス定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌ノ外讓與貸與スルコトヲ許サス

第十四條 印紙類賣捌人ハ印紙受拂ノ帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類負數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ

但烟草印紙賣藥印紙ヲ賣捌タルトキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

第十五條 印紙類水火盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條 印紙類賣捌人所持ノ印紙ニシテ損傷又ハ汚染シ若クハ不用ニ歸ンタルモノハ十錢以上取纏メタルモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ之ヲ交換スヘシ

損傷印紙壹圓ニ對シ 交換下付印紙九十一錢

第十七條 (削除)

第十八條 烟草印紙賣藥印紙ハ他府縣居住ノ者ニ賣渡スコトヲ許サス

第十九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者ハ烟草印紙賣捌ニ關スル業務ヲ烟草營業者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス賣藥印紙ノ賣捌ニ關スル業務ヲ賣藥營業者請買者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス

第二十條 北海道廳長官府知事(縣令)ハ隨時主任官ヲ派遣シ印紙類賣捌ノ實況及ヒ現在高等ヲ検査セシムヘシ

第二十一條 此規則ニ違背シタル者アル時ハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府知事(縣令)ニ於テ其賣捌方ヲ禁止スルコトアル可シ

● 清國及韓國在留日本帝國臣民印紙賣捌規程

明治二十六年一月
勅令第一號

朕清國及朝鮮國在留日本帝國臣民印紙賣捌規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

清國及朝鮮國在留日本帝國臣民印紙賣捌規程

第一條 清國及朝鮮國在留日本帝國臣民ニシテ訴訟用印紙並ニ登記印紙ヲ賣捌カントスル者ハ其地ノ日本帝國領事館ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル印紙賣捌人ハ便宜各府縣印紙類元賣捌人ヨリ印紙ヲ買受ケ領事館ノ許可シタル區域内ニ於テ之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 印紙賣捌人ニハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外明治二十三年十一月勅令第二百七十一號印紙類賣下賣捌規則ヲ適用ス

臺灣總督府收入印紙賣下賣捌規則

明治三十二年二月
臺灣總督府令第十三號

改正

●明治三十二年八月 府令第九十八號
●明治三十二年十一月 府令第二百二十三號

收入印紙賣下賣捌規則左ノ通相定ム

收入印紙賣下賣捌規則

- 第一條 收入印紙ハ此規則ニ依リ賣下賣捌ヲ爲スモノトス
- 第二條 印紙ハ官廳ノ許可ヲ得タ●賣捌所ニ於テ發賣セシム但土地ノ情況ニ依リ稅關並稅關出張所及〔辨務署辨務支署〕ニ於テ直接賣下ヲ爲ス
- 第三條 印紙賣捌所ノ數及區域ハ地方長官之ヲ指定スヘシ
- 第四條 印紙ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ指定ノ地ニ賣捌所ヲ定メ地方廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
賣捌人賣捌所ヲ變更セントスルトキハ更ニ地方廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 賣捌人ハ地方廳ニ願出テ印紙ノ賣下ヲ受クヘシ
- 第六條 印紙ノ賣下ハ其額面ニ對シ百分ノ七ノ割引ヲ爲スヘシ
- 印紙ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ
- 第七條 賣捌人ハ印紙損傷又ハ汚染シタルトキ若ハ不用ニ歸シタルトキハ其額面ニ對シ百分ノ七ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ地方廳ニ請求スルコトヲ得
- 第八條 印紙ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス
印紙ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ
- 前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス
- 第九條 賣捌人ハ別記雛形ノ標札ヲ調製シ官廳ノ檢印ヲ受ケ戶外ニ掲出スヘシ

第十條 賣捌人廢業スルトキハ其旨届出檢印ノ削除ヲ請フヘシ
 賣捌人其許可ヲ取消サレタルトキハ前項ニ準シ檢印ノ削除ヲ請フヘシ
 第十一條 賣捌人ハ印紙受拂帳ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其員數及年月日ヲ記載スヘシ
 附則
 第十二條 明治三十一年^{六月}府令第三十四號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス
 第十三條 此規則施行ノ日ニ現在スル印紙賣捌人ニシテ指定地ニ在ルモノハ更ニ願出ツルヲ要セス將
 來此規則ニ從ヒ繼續シテ賣捌ヲ爲スコトヲ得
 (別記雛形) 木製縦二尺五寸横八寸

檢印
收入印紙賣捌所
住所
賣捌人 何之誰

● 印紙類賣捌人印紙類買入帳調製及記入方

明治二十三年十二月
 大藏省訓令第百四十九號
 府縣^{沖繩縣}
 ヲ除ケ

本年十一月勅令第二百七十一號同年同月本省令第三十四號中印紙類賣捌人ハハ印紙類買入帳ヲ製セシ
 メ印紙類買入ヲ爲ス毎ニ買入ノ年月日印紙ノ種類枚數ヲ記入シテ之ヲ携帯セシメ元賣捌人ヲシテ之ニ
 賣渡ノ認印ヲ押捺セシムヘシ

● 人民所持ノ印紙賣渡及買取方心得

明治二十年十一月
大蔵省訓令第六十五號

改正

● 明治二十二年一月
大蔵省訓令第一號

北海道
府 縣 沖繩 除ク

左ノ場合ニ於テ人民ノ所持スル印紙ハ其同府縣内ニ在ル印紙類賣捌人ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ルモノト
ス但此場合ニ於テハ印紙類賣捌人ヲシテ其買取リタル事由及ヒ賣渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ置カ
シムヘシ

- 一 印紙類賣捌人ニシテ印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ或項目ニ該當スルトキ
- 一 印紙ヲ所持スル人民ニシテ明治十七年大蔵省第七十三號達ノ場合ニ該當スルトキ
- 一 何人ニ限ラス遺失印紙ヲ拾得タルモノニシテ成規ニ據リ當該官署ヨリ其拾得印紙ヲ給付セラレタ
ルトキ

●身代限り又ハ財産公賣等ノ際印紙類買上方ノ件

改正

●明治十八年十月 達第七十二號
●明治十九年八月 訓令第四十號

明治十七年十月
大廳省達第七十三號

府 縣 沖繩縣
ヲ除ク

民事訴訟身代限り又ハ税金不納ニヨリ財産ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ煙草賣藥營業者廢業又ハ其營業稅不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手形用紙及ヒ印紙面價額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買上ルコトヲ得但買上タル印紙類ハ各廳元受ニ組入レ買上代金ハ別途請求スヘシ

●郵便局所ニ於テ收入印紙賣下ニ關スル件

明治三十二年三月
勅令第五十號

朕收入印紙賣下ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
郵便切手ノ賣下ヲ爲ス郵便及電信局所並郵便切手賣下所ニ於テ收入印紙ノ賣下ヲ爲スコトヲ得其ノ賣
下ニ關スル規程ハ逓信大臣之ヲ定ム

●郵便局所收入印紙賣下規則

明治三十三年九月
逓信省令第七十二號

改正

明治三十四年三月
省令第十號

郵便局所收入印紙賣下規則左ノ通相定ム

郵便局所收入印紙賣下規則

第一條 明治三十二年三月勅令第五十號ニ依リ賣下クヘキ收入印紙ハ郵便電信局郵便局郵便受取所及收入印紙賣下ノ許可ヲ得タル郵便切手賣下所ニ於テ之ヲ賣下ク

第二條 三等郵便電信局郵便局郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ買受クヘキ收入印紙ハ其ノ買受高ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下クヘシ

一 三等郵便電信局郵便局ニ對シテハ收入印紙買受高ノ百分ノ六

二 郵便受取所及郵便切手賣下所ニ對シテハ收入印紙買受高ノ百分ノ四

第三條 三等郵便電信局郵便局郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ買受ケタル收入印紙ノ汚損毀損シタルモノ又ハ效用ヲ闕クヘキ處アルモノ及不用ニ歸シタルモノハ百分ノ九ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ爲スヘシ

第四條 郵便切手賣下人其ノ郵便切手賣下所ニ於テ收入印紙ノ賣下ヲ爲サムトスルトキハ收入印紙賣下免許申請書第一號ヲ作り所轄一二等郵便電信局郵便局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ郵便切手賣下免許ヲ申請スル者ヨリ同時ニ收入印紙ノ賣下免許ヲ申請スルトキ亦同シ

第五條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケ之ヲ許可スルトキハ郵便切手收入印紙賣下免許證ヲ交付シ其郵便切手賣下人ノ申請ニ對シ收入印紙ノ賣下ヲ許可スルトキハ郵便切手賣下免許證ト引替ニ之ヲ交付スヘシ

第六條 收入印紙賣下ノ許可ヲ得タル郵便切手賣下人ハ自費ヲ以テ郵便切手收入印紙賣下所標札第二號標

式ヲ調製シ公衆ノ看易キ場所ニ掲出スヘシ

第七條 郵便電信受取所ニ對シテハ總テ郵便受取所ニ關スル規定ヲ適用ス

此ノ規則ニ規定シタルモノノ外郵便切手類賣下規則第三條乃至第八條第十條乃至第十二條第十六條乃至第三十二條第三十五條第三十九條及第四十條第二項ハ收入印紙ヲ賣下クヘキ郵便局所及其ノ賣下ノ許可ヲ得タル郵便切手賣下所ニ準用ス

第八條 收入印紙賣下ノ許可ヲ得タル郵便切手賣下人此ノ規則ニ違背シタルトキハ其ノ賣下免許ヲ取消スコトアルヘシ

附則

第九條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

此ノ規則ニ抵觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第十條 此ノ規則施行以前郵便切手收入印紙賣下ノ免許ヲ受ケタル者ハ其效力ヲ繼續ス

(第一號樣式)

收入印紙賣下免許申請書

本籍
現住所
職業

「郵便切手賣下人」
氏

名

右ハ從來現住所若ハ何地ニ於テ郵便切手類賣下致居「又ハ今般現住所若ハ何地ニ於テ郵便切手賣下免許申請」候處同所ニ於テ郵便切手類ト共ニ收入印紙賣下致度候間免許相成度此段申請候也

年月日

氏 名 印

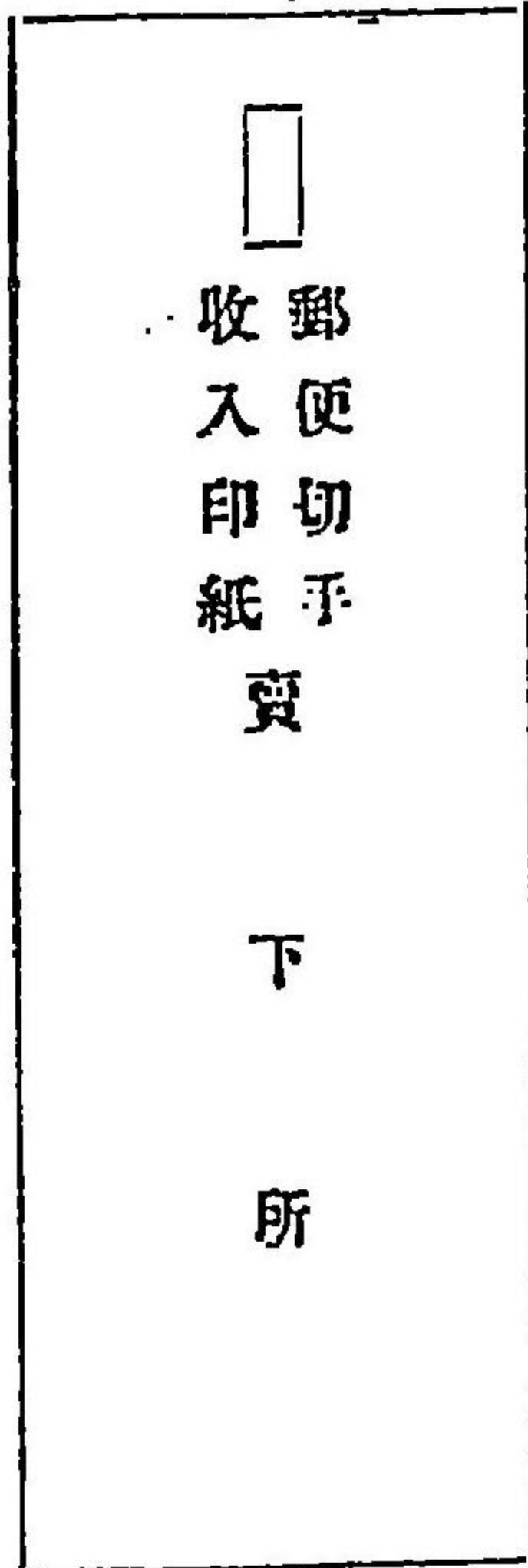
何郵便電信局(郵便局)

御中

(第二號樣式)

二尺五寸

七寸五分



● 印紙類出納規程

明治三十五年十一月
大藏省訓令第五十二號

改正

明治三十六年十二月
訓令第四十六號

大藏大臣官房會計課 稅務監督局 稅務署

明治三十二年三月常省訓令第十三號印紙類出納規程左ノ通り改正ス

印紙類出納規程

- 第一條 印紙類ノ出納ハ總テ此ノ規程ニ依リ取扱フヘシ
- 第二條 印紙類出納ノ命令ハ大臣官房會計課長及稅務署長之ヲ行フヘシ
- 第三條 印紙類會計官吏ハ大藏屬及稅務署稅務局ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 印紙類ノ出納ハ左ノ區別ニ從ヒ命令スヘシ
 - 一 製造ニ係ルモノハ現印紙受領ノトキ
 - 二 請求及還付ニ係ルモノハ現印紙到達シタルトキ
 - 三 請求及還付ノ爲メ發送ニ係ルモノハ受領應當該官吏ノ領收證書到達シタルトキ
 - 四 賣下ニ係ルモノハ賣捌人へ引渡ヲ爲ストキ
 - 五 買戻ニ係ルモノハ現印紙ヲ納付シタルトキ
 - 六 交換ニ係ルモノハ現印紙ノ授受ヲ爲ストキ
 - 七 損傷汚染ニ係ルモノハ焼却ヲ爲ストキ
- 第五條 請求及還付ノ爲メ印紙類ヲ發送セムトスルトキハ現印紙發送ノ際發送命令ヲ爲スヘシ
- 第六條 前二條ノ命令ハ左ノ書類ノ欄外ニ其ノ年月日支出受納又ハ發送ノ文字ヲ記載シ印紙類出納命令官之ニ認印スヘシ
- 一 請求書

二 引渡書
 三 領收證書
 四 發送報告
 五 返納書
 六 其ノ他願書等

第七條 稅務署印紙類出納命令官ハ需用ノ實況ヲ量リ所要ノ印紙ヲ概算シ其ノ種類員數ヲ記載シ大藏省印紙類出納命令官ニ請求スヘシ

第八條 大藏省印紙類出納命令官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ第五條ニ依リ發送命令ヲ爲スヘシ

第九條 印紙類會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ但シ整理上必要ノ補助簿ハ適宜之ヲ設クルコトヲ得

一 印紙類出納簿 大藏省ハ第一號様式 稅務署ハ第二號様式
 二 印紙類發送簿 第三號様式

印紙類出納簿ハ第四條ノ命令ニ依リ之ヲ登記シ印紙類發送簿ハ第五條ノ命令ニ依リ之ヲ登記スヘシ帳簿ニ登記以前現印紙ノ支出ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 印紙類會計官吏印紙類ノ出納及發送命令ヲ受ケタルトキハ直ニ當該帳簿ニ登記ヲ了シタルトキハ現印紙ハ之ヲ運送請負者ニ引渡シ同時ニ受領應印紙類出納命令官ニ發送報告ヲ爲スヘシ

第十一條 印紙類會計官吏印紙類ノ發送命令ヲ受ケ當該帳簿ニ登記ヲ了シタルトキハ現印紙ハ之ヲ運送請負者ニ引渡シ同時ニ受領應印紙類出納命令官ニ發送報告ヲ爲スヘシ

第十二條 發送ノ印紙類到達シタルトキハ印紙類會計官吏ハ運送請負者又ハ其ノ代理人立會ノ上特ニ印刷局ノ封包ニ注意シ異狀ナキモノハ封包ノ儘種類員數ヲ調査シ受納命令書ニ照シ符合ヲ認メタル

上之ヲ受領シ其ノ領收證書ヲ交付シ同時ニ發送應印紙類會計官吏ニ領收證書ヲ送付スヘシ
 若其ノ種類員數受納命令ニ符合セス又ハ損傷汚染アルトキハ其事由書ヲ徵シ直ニ印紙類出納命令官ニ差出シ更ニ其ノ命令ヲ得テ現印紙ヲ受領スヘシ

第十三條 印紙類出納命令官前條ノ事由書ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ調査シ其ノ事實ヲ詳記シ發送應印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

第十四條 發送ノ印紙相當ノ期日內ニ到達セザルトキハ受領應印紙類出納命令官ハ發送應印紙類會計官吏ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十五條 稅務署ニ於テ賣捌入ヘ賣下ノ印紙ハ其ノ代價納付濟ノ上(代價延納許可ノモノヲ除ク)領收證書ト引換ニ之ヲ下渡スヘシ

第十六條 印紙類ヲ貯藏スル倉庫ノ鎖鑰ハ印紙類會計官吏之ヲ保管スヘシ

第十七條 印紙類會計官吏ハ時々其保管ノ印紙類ヲ點檢シ常ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一 印刷局封包ニ異狀ナキヤ否ヤ
 二 損傷汚染ニ屬スルモノナキヤ否ヤ
 三 護謄固著ニ係ルモノナキヤ否ヤ
 四 其ノ他保管上必要ノ事項

第十八條 印紙類會計官吏保管ノ印紙類損傷汚染ニ屬スルモノアルトキハ該印紙ノ種類員數ヲ調査シ其ノ事由ヲ記載シ印紙類出納命令官ノ命令ヲ得テ損傷拂ニ立テ命令官立會ノ上之ヲ燒却スヘシ

前項ニ依リ燒却ニ立會タル命令官ハ之カ證明書ヲ作り印紙類會計官吏ニ之ヲ交付スヘシ

第十九條 稅務署印紙類會計官吏保管ノ印紙類印刷局封包ノ儘護謄固著ニ係ルモノアルトキハ印紙類會計官吏ハ印紙類出納命令官ノ命令ヲ得テ第十一條ニ依リ大藏省印紙類會計官吏ニ之ヲ還付スヘシ

第二十條 前條還付ノ印紙到達シタルトキハ大藏省印紙類會計官吏ハ印紙類出納命令官ノ認可ヲ得テ之ヲ印刷局ニ回付シ分離ノ手續ヲ爲サシムヘシ但シ分離ノ爲メ損傷ニ屬スルモノハ第十八條ニ依リ處分スヘシ

大藏省印紙類會計官吏保管ノ印紙類護謨固著ニ係ルモノアルトキ亦同シ

第二十一條 印紙類會計官吏保管ノ印紙類亡失シタルトキハ印紙類會計官吏ハ遲滞ナク其ノ事由年月日及該印紙ノ種類員數ヲ詳細ニ記載シ印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

印紙類出納命令官前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ審査シ關係書類ヲ添ヘ大臣官房會計課ニ在テハ直ニ稅務署ニ在テハ稅務監督局長ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ

第二十二條 印紙類出納命令官及稅務監督局長ハ監督上必要アリト認ムルトキハ印紙類會計官吏保管ノ帳簿及印紙類ヲ検査シ又ハ特ニ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ検査セシムヘシ

第二十三條 印紙類會計官吏保管ノ印紙類其ノ年度内ニ支出ニ至ラサルモノハ總テ翌年度ノ元受ニ組入ルヘシ

還付買戻又ハ交換ニ由リテ受領シタル印紙類ハ總テ其ノ年度ノ元受ニ組入ルヘシ

第二十四條 印紙類會計官吏ハ毎月末日其ノ保管ニ係ル印紙類ノ現在高表ヲ調製シ翌月五日以内ニ印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

第二十五條 稅務署印紙類出納命令官ハ翌年度所要ノ印紙類概算書ヲ調製シ毎年二月十五日以内ニ其ノ應テ發シ大藏省印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

第二十六條 稅務署印紙類出納命令官ハ第四號様式ニ依リ印紙類會計官吏ヲシテ每會計年度間ニ於ケル印紙類ノ賣下高表ヲ調製セシメ翌年度四月十日以内ニ其應テ發シ稅務監督局長ニ報告スヘシ

稅務監督局長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ同報告書式ニ依リ賣下高集計表ヲ調製シ四月二十日以内

ニ大藏省主稅局長ニ報告スヘシ

第二十七條 印紙類會計官吏ハ物品會計規則第十五條ニ依リ明治三十四年會計検査院達第一號物品出納證明規程ニ基キ毎年度間ニ執行シタル印紙類ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ明治三十三年會計検査院達第三號ノ期限内ニ之ヲ印紙類出納命令官ヘ差出スヘシ

前項及第二十八條ノ計算書ハ稅務署ニ在テハ印紙類出納命令官ヨリ之ヲ稅務監督局長ニ差出スヘシ

第二十八條 印紙類會計官吏交替シタルトキハ前任官吏ハ前條ニ準シ計算書ヲ調製シ印紙類出納命令官ニ差出スヘシ若前任官吏死亡其他ノ事故ニ因リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ印紙類出納命令官他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第二十九條 前二條ノ計算書下検査ハ明治三十四年會計検査院達第一號物品出納證明規程ニ依リ大藏省ニ於テハ大臣官房會計課長稅務署ニ在テハ當該稅務監督局長之ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ明治三十三年會計検査院達第三號ノ期限内ニ其應テ發シ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第三十條 遞信省所管一二等郵便電信局及二等郵便局長ヨリ印紙類ノ請求アリタルトキハ總テ此ノ規程ニ依リ取扱フヘシ

護謨固著ニ係ル印紙類ノ返附アリタルトキ亦同シ

第一號	簿	度	年	納	出	類
一	二	三	省	藏		
備考	印紙ハ其ノ種類及價格ノ異ナル毎	ニ口座ヲ設ケ登記スヘシ	出納ノ印紙ハ成ルヘシ其ノ命令番	號ノ順次ニ登記スヘシ	帳簿ハ改竄捺捺ヲ禁ス若誤記脱字	等ニテ訂正スルトキハ朱ニテ
	ニ線ヲ横置シ更ニ其ノ上部ニ正	スヘシ	員數ノ誤記ハ假令一部分ニ止マル			

何年度	年月日	摘要	命令番號		前年度 超過
			交付	支出	
			明治三十一年 四月一	前年度ヨリ越高	
	四月五	印刷局ヨリ多高	1		
	五月十	何郵便電信局渡		1	
	五月十五	何稅務署		2	
	五月	何郵便電信局		3	
	十月三十一	跨課間書ノ分何稅務監督局ヨリ還	2		
	三十一年三月三十一	翌年度へ繰越			10,000

稅務署

三二一

印紙ノ其ノ種類及價格ノ異ナル毎
ニ口坐チ設ケ登記スヘシ
出納ノ印紙ハ成ルヘシ
帳簿ノ改訂ニ依リテ其ノ
等ニテ訂正スルハ其ノ上
スヘシ
二線ノ訂正ニ依リテ
横シトモ其ノ全部ニ
横シトモ其ノ全部ニ
横シトモ其ノ全部ニ

印紙							
受			拂			翌年度 繰越	殘高
製造	還附	計	保存 轉換	損傷	亡失		
		10,000					10,000
10,000		20,000					20,000
			3,000			3,000	17,000
			1,000				14,500
			1,500			5,000	15,300
	800	20,800					15,300
						15,300	0
10,000	800	20,800	5,500			5,500	15,300

大

モノト雖モ其ノ全部ニ朱ノ二線ヲ
横シトモ其ノ全部ニ朱ノ二線ヲ

何年度		印紙類發送簿	
年月日	摘要	命 目	受納
明治三十三年一月一日	前年度ヨリ越高		
一月十日	大蔵省ヨリ受		1
一月二十日	元賣捌人何某へ賣下		
五月一日	損傷ニ付交換ノ爲メ元賣捌人何某ヨリ返納		2
五月十日	同上交換減シ		
五月三十日	損傷ニ付交換ノ爲メ返納ノ分焼却		
六月十日	保管中損傷汚染ノ分焼却		
六月二十日	元賣捌人何某廢棄ニ付買戻ノ分		3
三十三午三月三十一日	毀損固著ノ分大蔵省へ還附 翌年度へ繰替		

大 藏 省
税 務 署

三二一
印紙ハ其ノ種類及價格ノ異ナル毎
ニ口生テ設ケ登記スヘシ
發送ノ印紙ハ成ルヘシ
帳簿ハ改訂スルニシテ其ノ
等ニテ訂正スルニシテ其ノ
ニ線ヲ引テ其ノ上部ニ正
員數ノ誤記ハ假令一部分ニ止ルモ
前例ニ依リテ其ノ全部ニ正スヘシ

何 印 紙											
令 通	交出	受				拂				翌年度 へ繰替	残高
		前年度 越 高	買戻 交換	買戻 交換	計	買下 交換	還附	損傷 亡失	計		
		1,000			1,000						1,000
			5,000		5,000						6,000
	1					2,000				2,000	4,000
	2				506,050						4,000
	3						50			2,050	4,000
	4							50		2,100	3,950
	5							20		3,120	3,936
			500		6,550						4,430
								3,000		5,120	1,430
											1,430
		1,000	5,000	500	506,550	2,000	50	3,000	70	5,120	1,430

明治何年度印

品		目		合計	
紙	印	紙	印		
何	々	何	々		
入	牌	入	牌		
收	骨	收	骨		

一六ノ二

● 稅務監督局ノ取扱ニ屬スヘキ印紙鑑札類及物品ノ

出納取扱方

明治二十九年十一月
大藏省訓令第三十四號

〔稅務管理局〕

〔稅務管理局〕ノ取扱ニ屬スヘキ印紙鑑札類及物品ノ出納ハ明治二十四年^四當省訓令第三十三號印紙類
出納規程明治二十三年^五同第八十五號鑑札用品出納規程明治二十五年^六同第三十七號及明治二十六年^四
同第十四號內國稅徵收費所屬物品出納規程ニ依リ取扱フヘシ
但縣廳所在地ニシテ〔稅務管理局〕ノ設置ナキ地方ニ於テハ稅務署長ニ印紙類出納規程第二條ノ出納
命令ヲ委任スルコトヲ得

● 收入印紙缺乏ニ際シ補充方ノ件

明治三十二年五月
大藏省訓令第四十二號

〔稅務管理局〕 一 二等郵便及電信局

〔稅務管理局〕又ハ同局長ノ委任ヲ受ケタル稅務署並郵便及電信局ニ於テ準備ニ係ル收入印紙缺乏ニ際シ補充ノ爲メ請求中或ハ臨時多額ノ需用有之請求ノ迫ナキ場合等ニ在テハ同一地所在ノ該局署間ニ於テ保管轉換スルコトヲ得

●骨牌ニ貼用スヘキ印紙ニ關スル件

明治三十五年五月
勅令第三百五十五號

朕骨牌ニ貼用スヘキ印紙ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
骨牌ニ貼用スヘキ印紙ハ骨牌印紙ニ限ル但シ明治三十五年八月三十一日迄ハ收入印紙ヲ貼用スルコト
ヲ妨ケス
骨牌印紙ノ形式、貼用方法及其ノ賣下ニ關スル規程ハ大藏大臣之ヲ定ム

● 骨牌印紙ノ形式及貼用方法

改正

● 明治三十五年八月
省令第二十號

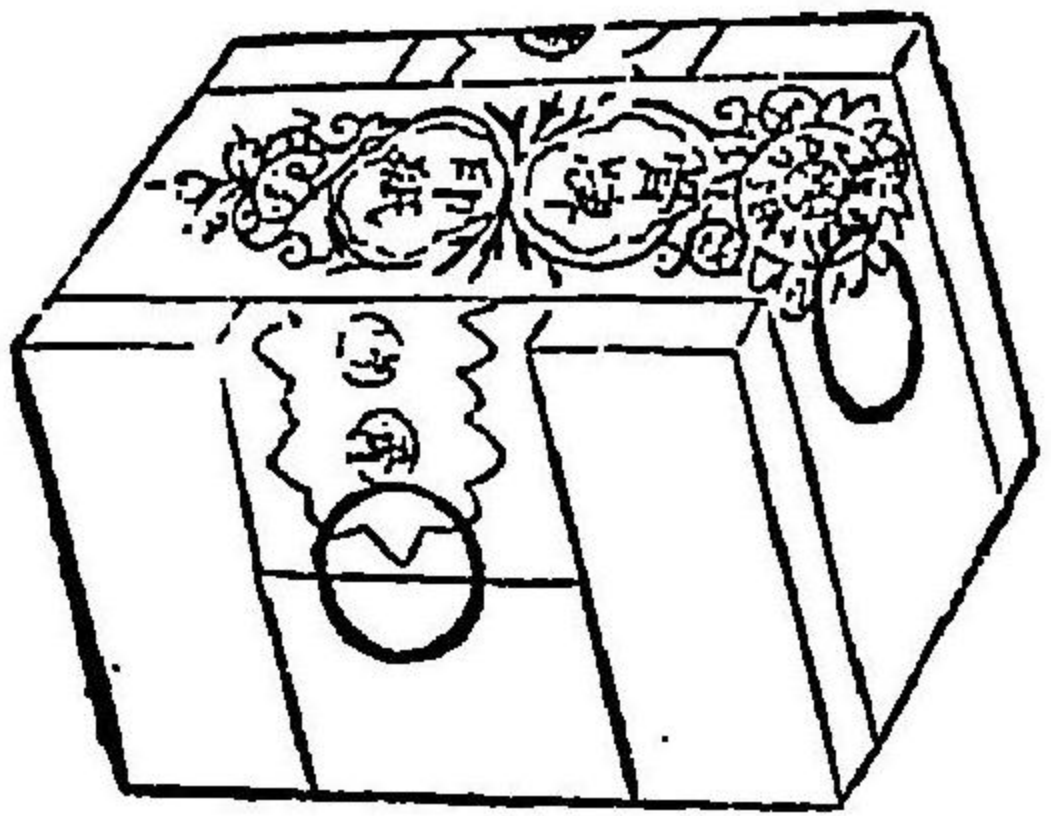
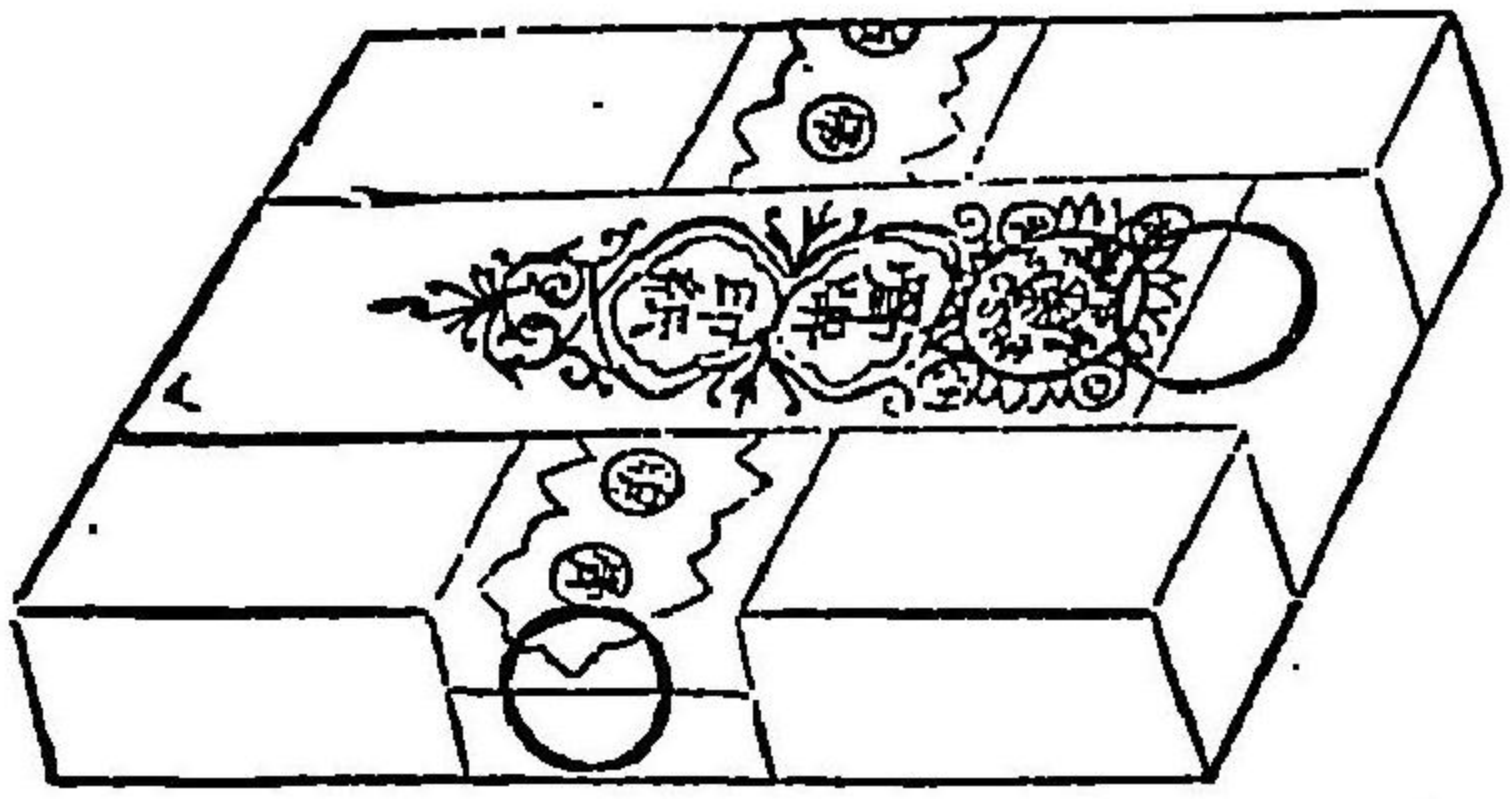
明治三十五年六月
大藏省令第十四號

明治三十五年勅令第五百五十五號第二項ニ依リ骨牌印紙ノ形式及貼用方法左ノ通相定ム

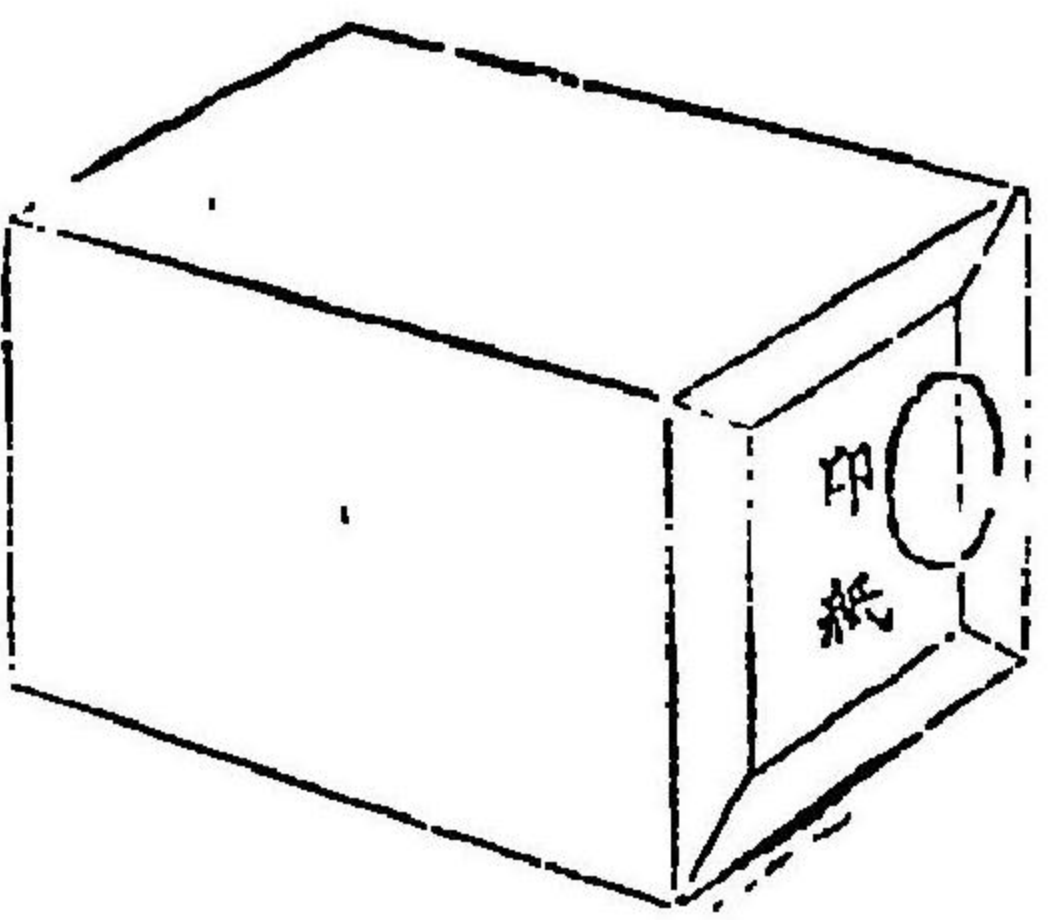
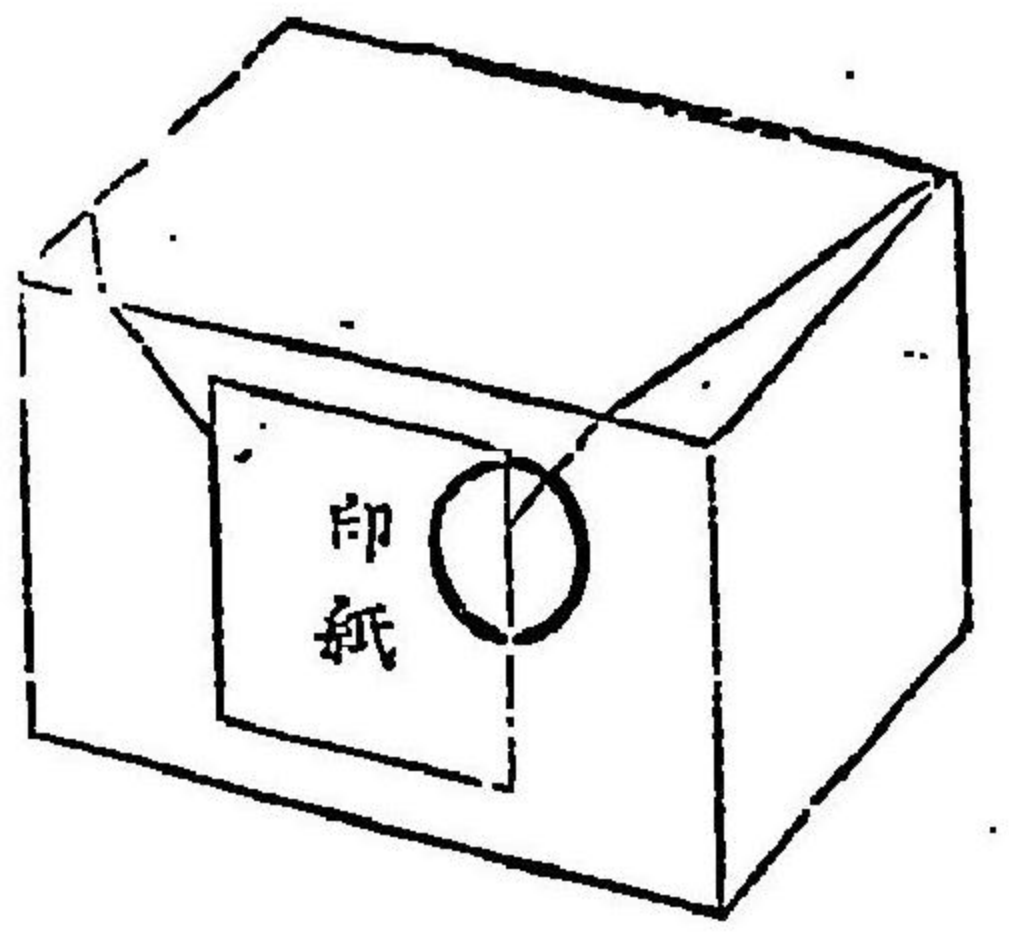
第一條 骨牌印紙ノ形式左ノ如シ

(形式略ス)

第二條 骨牌印紙ノ貼用方法ハ左ノ如ク包裹ノ外部ヲ四方ヨリ卷キ護謨ノ塗リアルニ箇所ヲ貼付シ其箇所ニ消印スヘシ但シ印紙ノ彩紋ナキ部分ノ餘白ハ適宜之ヲ截テ棄ツルモ妨ナシ



角形骨牌印紙ノ貼用ヲ便宜トスルモノハ其ノ包裹ノ封シ目ニ印紙ヲ貼付シ包裹ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印スヘシ但シ二箇所ニ封シ目アルトキハ拾錢印紙ヲ其ノ各箇所ニ貼付シ本文ノ通消印スヘシ



第三條 骨牌印紙ヲ以テ骨牌ニ帶封ヲ爲シ骨牌稅法第六條ノ包裹ニ兼用スルコトヲ得

第四條 骨牌印紙ヲ貼用シタル骨牌ヲ更ニ函入レ又ハ包裹ヲ施ストキハ之ヲ糊着スヘカラニ

附則

第五條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

●骨牌印紙賣下賣捌規則

明治三十五年六月 大藏省令第十一號

改正 ●明治三十五年八月 省令第二十一號 ●明治三十五年十一月 省令第二十八號

明治三十五年勅令第五十五號第二項ニ依リ骨牌印紙賣下賣捌規則左ノ通相定ム

骨牌印紙賣下賣捌規則

第一條 骨牌印紙ハ大藏大臣ノ許可シタル者ニ限り之ヲ賣捌クコトヲ得

第二條 前條ニ係リ骨牌印紙ノ賣捌ヲ許可シタルトキハ大藏大臣ハ賣捌人ノ住所氏名又ハ名稱及賣捌ノ場所ヲ告示スヘシ

第三條 骨牌印紙賣捌人ハ骨牌印紙賣捌ノ場所タルコトヲ表示スル標札ヲ調製シ公衆ノ認メ易キ場所ニ掲出スヘシ

第四條 骨牌印紙ハ額面ニ對シ百分ノ四ノ割引ヲ以テ賣下クヘシ

第五條ノ一 骨牌印紙ノ賣下ヲ請求セムトスルトキハ賣捌人ハ代金ヲ前納シ賣下請求書ニ代金ノ納付ヲ證スル書類ヲ添附シ稅務署ニ提出スヘシ

賣下代金一回五百圓以上ナルトキハ稅務署長ハ利付國債證券ヲ擔保トシ六箇月以内代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

前項國債證券ノ擔保價格ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格ニ依ル

第五條ノ二 骨牌印紙賣捌人ハ所屬稅務監督局管内ノ骨牌製造人及其ノ管内ニ於テ骨牌印紙ノ貼用ヲ爲スヘキコトヲ説明シタル者ニ賣捌ノ外骨牌印紙ヲ賣捌クヲ得ス

第六條 骨牌印紙賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ額面ニ對シ百分ノ九ノ割引ヲ以テ骨牌印紙ノ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得

- 一 骨牌印紙損傷、汚染又ハ糊著シタルトキ
 - 二 骨牌印紙不用ニ歸シタルトキ
- 第七條ノ一 骨牌印紙賣捌人ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 買受ケタル印紙ノ金額(額面)及月日
 - 二 賣捌タル印紙ノ金額月日及買受人ノ住所氏名又ハ名稱
- 第七條ノ二 第五條ノ二ニ違背シタル者ハ骨牌印紙賣捌ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 附則
- 第八條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三節 大藏省

● 物品検査規程

改正 ● 明治三十六年五月十九日
大藏省原甲達第三百三十一號
原甲達第八十三號

- 第一條 物品會計規則第十條ノ二、第十一條及第十二條ノ物品検査ハ本規程ニ依リ部局長ニ於テ之ヲ執行スヘシ
- 第二條 本規程ニ於テ部局長ト稱スルハ大臣官房文書課長、大臣官房會計課長、理財局長、造幣局長、專賣局長、税關長、稅務監督局長(臨時沖繩縣土地整理事務局長官)、臨時稅關工事部々長ヲ云フ
- 第三條 部局長ハ毎年一回検査ノ官吏ヲ命シ物品種類ノ如何ニ拘ラス所屬當該會計官吏ノ保管スルモノノ全部ヲ検査セシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ但検査官ノ任命ハ便宜支部局長ニ委任スルコトヲ得
- 前項ノ検査ハ便宜物品出納計算書下検査官ニ於テ現品照合ト同時ニ之ヲ執行セシムルコトヲ得
- 第四條 前條ノ調査ニハ左ノ官吏署名捺印スヘシ
- 一 検査官吏
- 二 當該會計官吏若シクハ特ニ命セラレタル立會人
- 第五條 前條ノ調査ハ部局長ニ於テ之ヲ保存スヘシ
- 第六條 検査成績ハ別記書式ニ依リ結了後一ヶ月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ
- 附則
- 第七條 物品會計規則第十條ノ二ノ物品ニシテ本規程第三條ノ検査期間ヲ伸長スルノ必要アルモノハ其理由ヲ詳具シ更ニ期間ヲ定メテ大藏大臣ヘ申報シ承認ヲ請フヘシ

第二類 物品出納簿

第七條 前條帳簿ノ外別ニ補助簿ヲ備フルハ便宜ニ任ス

第八條 物品會計官吏ハ府縣知事ノ定メタル期限ニ於テ帳簿ト現品トノ照合ヲ爲スヘシ

第九條 物品ノ購入及賣却ハ會計法及ヒ會計規則ノ定ムル所ニ從ヒ府縣知事之ヲ處理スヘシ但便宜他ノ官吏ニ委任シテ處理セシムルコトヲ得

第十條 官吏以下執務上必要ノ物品ハ府縣知事豫メ其品類及員數ヲ定メテ之ヲ使用セシムヘシ

第十一條 官吏以下專用ノ物品ハ各專用者共用ノ物品ハ別ニ主任ヲ定メ保管ノ責ニ任セシメ物品會計官吏之ヲ監督スヘシ

第十二條 凡ソ故意怠惰ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其者ヲシテ物品又ハ代價ヲ以テ辨償セシムヘシ

物品ノ亡失毀損何人ノ所爲ニ出タルコトヲ認知シ難キ場合ニ於テハ其保管者辨償ノ責ニ任スヘシ但避クヘカラサル理由アルトキハ此限リニアラス

第十三條 府縣知事ハ臨時委員ヲ命シ貯藏及使用中ノ物品ヲ檢閲セシムヘシ

第十四條 物品會計規則第十五條ノ物品出納計算書ハ翌年度七月十五日限リ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十五條 前條ノ計算書ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ下検査ヲ執行シ其下検査得ヲ添付シ期限内ニ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十六條 物品會計規則第十一條ノ検査官吏及第十三條ノ立會人ハ府縣知事之ヲ命スヘシ

第十七條 物品會計規則第十五條第二項但書ノ計算書ハ府縣知事他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十八條 物品出納命令ノ規程及使用中又ハ概算渡ヲ爲シタル物品ノ取扱ニ關スル處務順序ハ府縣知事之ヲ定メ大藏省ヘ申報スヘシ

● 稅務監督局特別用文具使用規則

明治二十九年十二月
大藏省訓令第三十七號

改正

● 明治三十年二月
訓令第九號

〔稅務管理局〕

特別用文具使用規則左ノ通相定メ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

特別用文具使用規則

第一條 左ノ文具ハ事務上必要ト認ムルトキニ限リ共用又ハ專用トシテ使用セシムルコトヲ得

第一類 共用品

一文鎖 製圖上特種ノモノ

一彈發 同上

一鳥口 同上

一定規 同上

一尺度 同上

第二類 専用品

一筆 辭令書記専用

一墨 同上

一各色「インキ」 簿記用

一「インキ」壺 同上

一丸定規 同上

一「ペン先」 同上

一 筆「インキ」 複寫用

第二條 第一類品ハ共用主任ヲ定メテ之レニ交付シ第二類品ハ各主務者ニ交付シ使用セシムルモノトス

第三條 特別文具使用制限ノ方法ハ(稅務管理局长)之ヲ定メテ主稅局长ヘ報告スヘシ

附則

第四條 第一條ニ指定ノ品目外ニシテ必要ノモノアルトキハ其品目用途ヲ詳悉シ伺出ヘシ

● 專賣局物品出納順序

明治三十五年三月 大藏省訓令第九號

改正 ● 明治三十六年一月 訓令第二號

專賣局
專賣支局

物品出納順序左ノ通改正シ明治三十五年度ヨリ施行ス

專賣局物品出納順序

第一條 專賣局ニ屬スル物品ハ特ニ定ムルモノ、外總テ此ノ順序ニ依リ取扱フヘシ

第二條 物品ハ左ノ類別ニ依リ整理スヘシ

第一類 据置運轉資本ニ屬スル備品

第二類 固定資本ニ屬スル備品

第三類 消耗品

第四類 物品會計規則第一條第二項ニ依リ指定シタル物品

第五類 前各類ニ屬セザル物品

第三條 物品ノ出納ハ專賣局长又ハ專賣支局长之ヲ命令スヘシ但專賣局长ハ之ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得

第四條 物品出納命令ノ要件ハ左ノ各號ニ依ル但拂出命令ハ價格及保存期限ヲ省略スルニトヲ得

一 物品ノ類別

二 品名、數量及價格

三 第一類及第二類物品ハ保存期限及遞減價格

- 四 納付者又ハ受領者
- 五 出納ノ事由
- 六 出納命令官ノ認印
- 第五條 物品ノ價格ハ左ノ各號ニ依リ整理スヘシ
 - 一 購入ノモノハ其ノ代價
 - 二 保管轉換ノモノハ通知ヲ受ケタル價格
 - 三 生産ノモノハ其ノ原料價格及加工諸費
 - 四 前各號ニ依リ難キモノハ其ノ物品ノ輕重ニ從ヒ二人以上ノ評價人ヲシテ各別ニ評定セシメタル平均價格
- 前項第四號ノ評價人ハ必要ノ場合ニ限り其ノ半數以上ヲ專賣局長以外ヨリ選定スルコトヲ得
- 第六條 第一類及第二類物品ノ保存期限ハ受入ヲ爲シタル翌年度ヨリ起算シテ之ヲ決定シ該期限ニ應シ毎年度末日ニ於テ價格ヲ遞減スヘシ但算出上錢位未滿ノ端數ハ初年度ニ繰上クヘシ
- 前項ノ物品ハ總テ番號ヲ付シ整理スヘシ
- 第七條 物品會計官吏ハ專賣局及專賣支局ニ置キ專賣局長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第八條 各部課及出張所ニ於テ使用スヘキ物品ハ物品取扱主任ヲ置キ之ヲ取扱ハシメ且其ノ保管ノ責ニ任セシム但專用ニ係ルモノハ專用者ヲシテ其ノ責ニ任セシム
- 第九條 物品會計官吏ハ第一號書式ノ物品出納簿ヲ設ケ其ノ出納ヲ整理スヘシ
- 第十條 第三類物品中執務上當時使用スヘキモノハ專賣局長又ハ專賣支局長ニ於テ各部課及出張所毎ニ其ノ品名及數量ヲ定メ每一箇月分ノ定額ヲ以テ交付スヘシ但出張所ノ定額ニ限リ當該年度内ニ於テ六箇月分マテヲ交付スルコトヲ得

- 薪炭油蠟燭及郵便切手ノ類ハ一箇月以内ノ所要概算高ヲ以テ交付スヘシ但出張員ニ於テ必要ナル物品ハ其ノ所要概算高ヲ以テ交付シ又出張所所要ノ概算渡ハ前項但書ニ準據スルコトヲ得
- 第十一條 概算渡ニ係ル物品ハ翌月五日以内ニ精算シ其殘餘アルトキハ當該年度内ニ限り順次翌月ニ繰越使用セシムルコトヲ得但出張中使用スヘキ物品ノ概算渡ニ限リ翌年度ニ跨ル場合ヲ除キ歸還後五日以内ニ精算セシムヘシ
- 第十二條 當該年度末ニ於テ第十條第一項ニ依リ交付シタル物品ノ殘餘アルトキハ直ニ之ヲ返納セシムヘシ
- 第十三條 故意怠惰ニ依リ使用ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ責任者ヲシテ代品又ハ代價ヲ以テ辨償セシム
- 第十四條 物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ關係者ニ於テ直ニ事由書ヲ調製シ專賣局長又ハ專賣支局長ニ提出スヘシ
- 專賣局長ニ於テ前項ノ所爲ニ關シ辨償ヲ爲サシムヘキモノト認ムルトキハ大藏大臣ニ稟申スヘシ
- 專賣支局長ニ於テ前項ニ該當スヘキモノアリト認ムルトキハ其ノ意見ヲ付シ專賣局長ニ送付スヘシ
- 第十五條 專賣局長及專賣支局長ハ所屬物品會計官吏ヨリ物品會計規則第十五條ノ物品出納計算書ヲ提出セシメテ下檢査ヲ執行スヘシ
- 第十六條 專賣局長專賣支局長又ハ第三條但書ニ依リ委任ヲ受ケタル官吏ハ其所屬物品會計官吏ヲシテ第二號書式ノ第一類物品價格増減報告表及第三號書式ノ第二類物品増減報告表ヲ調製セシメ翌年度四月十日マテニ之ヲ提出スヘシ
- 第十七條 本順序ニ依リ必要ナル補助簿ハ專賣局長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第一號書式

何

年月日	摘要	受	
		数量	價格
明治何年何月何日	越高	500	3,456,700
	買入(買入又ハ生産)	100	900,000
	管拂(消耗又ハ生産)		
	同上差増		7,500
	保管轉換	10	29,800
	管拂		
	同上差減		
	亡失		
	修理差増		5,000
	何箇供用		
	何箇供用ノ分返納		
	保管轉換		
明治何年何月何日	價格差減		

備考
 一 本簿ハ各類別ニ依リ別冊トスヘシ
 二 第三類物品出納簿ハ現在ノ開帳量(供用、在庫ノ區分ヲ要セス)ノ次
 ノ平均單價ニ對シテ算出スル平均單價ヲ記入シ現在品
 生シタルトキハ又ハ百ノ價格ヲ以テシ平均單價アルトキハ四捨五
 入ノ法ニ依ルヘシ
 一 各册ノ合計ノ口座ヲ設クヘシ但第三類乃至第五類物品ニ限り之ヲ
 本簿ニ受拂テ由ノ異ナル毎ニ記載スヘシ

々 (品 名)

数量	價格	現 在		備 考
		數 量	價 格	
		供用	在庫	
50	15,000	450	50	3,456,700 (概算(定額)渡ノ分又ハ何々ニヨリ生産)
		450	100	4,349,200 何々ノ爲メ
30	5,670			何箇ヨリ回送ノ分 何々ノ爲メ
	8,930	430	100	4,364,400 △ 管拂箇數30
1	9,000	429	100	4,355,400 何々ノ爲メ △ 修理箇數2
		459	70	4,360,400
		450	79	4,360,400
70	520,000	450	9	4,340,400 何月何日何箇へ回送ノ分
	232,150	450	9	3,608,250 △ 差減箇數359

△印ハ未査

第三號表式 何月何日提出		何 專 賣 支 局 明治何年度第一類物品價格増減報告表	
備 考		摘 要	價 格
増ハ買入ニ由ル 増ハ修理ニ由リ減ハ價格逕減ニ由ル 減ハ賣拂(亡失毀損)ニ由ル		起 高	5,530,000
		増 之 部	
		買 入	854,000
		保 管 轉 換	12,000
		何 支 局	8,500
		賣 拂 差 増	12,300
		何 々	10,200
		何 々	
		計	897,000
		減 之 部	
		賣 代 拂 價 損	234,500
		差 損	18,500
		亡 失 毀 損	2,000
		保 管 轉 換	100,000
		何 支 局	20,000
何 支 局	23,340		
價 格 逕 減	12,300		
何 々	5,600		
何 々			
計	416,240		
現 在	5,510,760		

第二號表式 何月何日提出		明 治 何 年 度 第何類物品出納簿	
備 考			
外1,000,000 何支局へ 回送中			
		某 廳	

一物品會計官吏交替ノトキハ册尾ニ何月何日現在ヲ以テ引繼テ了ス
ト記シ前任者及後任者記名捺印スヘシ

品名		單位 稱呼
何	々	箇
何	々	」
何	々	臺
價格計		

局 支 賣 專 何
 表 告 報 增 減 物 品 類 第 二 年 度 何 治 明

前年度		增		減		現 在		
數量	價 格	數量	價 格	數量	價 格	現年數	數量	價 格
		1	100,000			20	1	100,000
2	125,000		10,000		13,500	15	2	121,500
2	256,500				115,000	16	1	121,500
361,500		100,000		128,500				343,000

備考
 一本表ハ品名及保存現年數ノ異ナル毎ニ記載シ
 其増減亦由ナ備考ニ詳記スヘシ

● 專賣局特別用文具使用規則

明治三十年十一月
大藏省訓令第七十五號

改正

● 明治三十二年六月
訓令第四十四號

〔葉煙草專賣所〕

特別用文具使用規則左ノ通之ヲ定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

專賣局特別用文具使用規則

第一條 左ノ文具ハ製圖上其他事務上必要ト認ムルトキニ限り之ヲ使用セシムルコトヲ得
共用品

- 一文鎖
- 一鳥口
- 一尺度
- 一コンパス
- 一定規
- 一各色繪ノ具

第二條 左ノ文具ハ當該主務者ニ限り各其使用制限ニ從ヒ之ヲ使用セシムルコトヲ得
專用品

- 一筆 辭令用 一人二箇月一本
- 一墨 同上 一人一箇年一挺
- 一「ペンサキ」 簿記用 一人一箇月五本
- 一「黑色」インキ 同上 一人一箇年小罫三箇

- 一 赤色「インキ」 同上
- 一 九定規 同上
- 一 紫「インキ」 複寫用 必要ノ時々
- 第三條 共用品ハ共用主任ヲ定メテ之ニ交付シ専用品ハ各主務者ニ交付シ之ヲ使用セシムルモノトス
- 第四條 第二條ニ依リ専用品ヲ使用セシムヘキ各主務者ノ員數ハ專賣局長若ハ專賣支局長豫メ之ヲ定メ其人名ヲ指定スヘシ
- 第五條 第一條第二條ニ指定ノ品目外ニシテ特ニ必要ノモノアルトキ若ハ使用制限ヲ増減スル必要アルトキハ經伺ノ上專賣局長ニ於テ指定又ハ増減スルコトヲ得但專賣支局長ニ在テハ其品目、用途、事由ヲ詳悉シ專賣局長ニ申出ツヘシ

● 葉煙草出納順序

明治三十年十月 大藏省訓令第六十四號

改正

- 明治三十二年三月 訓令第九號
- 明治三十二年八月 訓令第三十二號
- 明治三十三年五月 訓令第四十六號
- 明治三十三年十月 訓令第六十一號
- 明治三十四年六月 訓令第二十三號
- 明治三十五年三月 訓令第六號

〔葉煙草專賣所〕

葉煙草出納順序左ノ通相定ム

葉煙草出納順序

- 第一條 〔葉煙草專賣所〕葉煙草ノ出納ハ總テ此順序ニ依リ取扱フヘシ
- 第二條 專賣局及專賣支局長ニ主任葉煙草會計官吏及分任葉煙草會計官吏ヲ置キ倉庫主任ノ官吏ヲ以テ之ニ充ツ但分任葉煙草會計官吏ハ各出張所ニ於ケル事務ヲ分掌スヘシ
- 第三條 葉煙草ノ出納ハ〔葉煙草專賣所長〕又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命令ニ依ルヘシ
- 第四條 葉煙草ノ出納命令書ハ第一號書式ニ依ル但出納命令ノ要項ヲ具備シタル書類ニ〔葉煙草專賣所長〕又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ認印シタルモノヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 第五條 葉煙草ノ出納ハ包數又ハ樽數ヲ以テシ其ノ量目ヲ付シ之ヲ帳簿ニ登記スヘシ
- 第六條 葉煙草會計官吏葉煙草出納ノ命令ヲ受ケタルトキハ現品ノ受渡ヲ爲シ帳簿ニ登記スヘシ
- 第七條 葉煙草會計官吏ハ葉煙草亡失シ又ハ廢棄ニ歸シタルモノアルトキハ拂出命令ニ依リ損失拂ト爲スヘシ
- 第八條 葉煙草會計官吏ハ第二號書式ノ葉煙草出納簿ヲ設ケ其ノ出納ヲ整理スヘシ但必要ニ由リ適宜補助簿ヲ設クルコトヲ得
- 第九條 葉煙草會計官吏ハ毎月末日其ノ保管ニ係ル葉煙草現在高表ヲ調製シ〔葉煙草專賣所長〕ニ報告ス

第九條ノ二 分任葉煙草會計官吏ハ物品出納計算書ニ準シ毎年度間ニ執行シタル葉煙草出納報告書ヲ
 調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後一箇月以内ニ之ヲ主任葉煙草會計官吏ニ差出スヘシ
 第十條 物品會計規則第十五條ニ依リ葉煙草會計官吏ノ差出スヘキ葉煙草出納計算書ハ專賣局長又ハ
 專賣支局長ニ差出スヘシ
 第十一條 物品會計規則第十七條ノ下検査ハ專賣局ニ於テハ局長之ヲ執行シ專賣支局ニ於テハ支局長
 之ヲ執行スヘシ

第一號書式ノ一

受(拂) 第何號	明治何年何月何日	審査	主任				
所長							
左記收納(保管)葉煙草受入(拂出)ヲ要ス							
種類	葉	分	包	數	目	事	由
何々	何々	何々	何々	一〇	六〇二〇〇	收納又ハ何々	何某又ハ何々
何々	何々	何々	何々	五	三〇〇〇〇	同	上右同人
何々	何々	何々	何々	一	一〇〇〇〇	同	上右同人
合	計			一五	九〇二〇〇		

第一號書式ノ二

備考
 一本書ハ受入又ハ拂出理由ノ異ナル毎ニ調製シ種類葉分ノ異ナル毎ニ記載スヘシ但受入又ハ拂出先數廉ニ涉ルトキハ一廉毎ニ
 其簡數及品目ノ小計ヲ未記スヘシ

受(拂) 第何號	明治何年何月何日	審査	主任				
局(支局)長							
左記輸入葉煙草受入(拂出)ヲ要ス							
品	類	箇	數	目	事	由	受入(拂出)先
何々	何々	何々	何々	一〇、〇〇〇	英斤	輸入又ハ何々	何某又ハ何々
何々	何々	何々	何々	五	五、〇〇〇	同	上右同人
何々	何々	何々	何々	一	一〇〇〇	同	上右同人
合	計			一五	二五、〇〇〇		

備考
 一本書ハ受入又ハ拂出理由ノ異ナル毎ニ調製シ種類ノ異ナル毎ニ記載スヘシ但受入又ハ拂出先數廉ニ涉ルトキハ一廉毎ニ其簡
 數及品目ノ小計ヲ未記スヘシ

第何號倉庫(第何號何々)									
日	摘要	受		拂		現在			
		量		量		回送中		在庫	
		包(箱)	斤	包(箱)	斤	包(箱)	斤	包(箱)	斤
何	收納	30	150000						
何	賣拂			5	30000			25	150000
何	何包何貫何支局(何出張所)へ回送					2	12000	23	138000
何	亡失			1	6000				
何	廢棄			1	6000				
何	何包何貫何支局(何出張所)へ回送					3	18000	20	120000
何	保管轉換			3	18000	0	0	20	120000
何	何	1	6000					21	126000

備考
 一本簿ハ甲(收納)乙(輸入)及丙(輸出)ニ分チ各別冊トスヘシ
 乙或ハ且日ノ單位ヲ英斤トスヘシ
 各冊尾ニ合計ノ口座ヲ設クヘシ
 一本簿ハ受拂事由ノ異ナル毎ニ記載スヘシ
 葉煙草會計官未受管ノトキハ各冊尾ニ「何月何日現在ヲ以テ引繼テ了スト記シ」前任者及後任者各名捺印スヘシ

備考	明治何年度
	葉煙草出納簿
何々ノ爲メ	
何々ノ爲メ	
何月何日何支局分及何月何日何出張所分	
某 昭	

年月
明細何
何

二七ノ六

●臨時煙草製造準備局物品出納順序

明治三十七年四月
大蔵省訓令第二十六號

臨時煙草製造準備局

臨時煙草製造準備局物品出納順序左ノ通相定ム

臨時煙草製造準備局物品出納順序

第一條 臨時煙草製造準備局所屬及保管物品ハ左ノ類別ニ依リ整理スヘシ

第一類 煙草專賣法ニ依ル徵收及買上物品

第二類 煙草製造所準備用備品

第三類 同 消耗品

第四類 本局事務用備品

第五類 同 消耗品

第六類 前各類ニ屬セサル物品

第二條 物品ノ出納ハ臨時煙草製造準備局長官之ヲ命令スヘシ但長官ハ之ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得

第三條 臨時煙草製造準備局ニ主任物品會計官吏各出張所ニ分任物品會計官吏ヲ置キ屬ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 前各條ノ外ハ專賣局物品出納順序ノ各條項ヲ準用ス但該順序中物品ノ價格及保存期限ニ關スル規程ハ此限ニアラス

●第四節 內務省

●內務省及所管廳物品取扱規程

明治三十三年十月
內務省訓令第三十號

改正

●明治三十五年三月
勅令第四號

〔總務局〕會計課 衛 生 局 廳 府 縣
土木監督署 衛生試驗所 血清藥院
痘苗製造所 傳染病研究所 〔警察監獄學校〕
〔臨時「ベスト」豫防事務局〕

內務省及所管廳物品取扱規程左ノ通相定ム

但明治二十二年內務省訓令第三十六號及明治二十九年拓殖務省訓令第四號ハ之ヲ廢止ス

內務省及所管廳物品取扱規程

第一章 總則

第一條 本規程ニ物品ト稱スルハ物品會計規則第一條ニ定ムル諸品ヲ云フ

第二條 本規程ニ部局長ト稱スルハ本省〔總務局〕會計課長、衛生局長、各廳長官、北海道廳鐵道部長ヲ云フ

第三條 物品出納ノ命令ハ之ヲ部局長ニ委任ス但本廳ヲ離ルル支部局ニ於テハ長官ノ代理トシテ各其支部局長物品出納ノ命令ヲ發スルコトヲ得

第四條 物品會計官吏及分任物品會計官吏ハ各廳便宜ノ箇所ニ設置スヘシ

第五條 物品會計官吏、代理官、分任官、物品會計規則第十一條第十二條ノ検査ノ官吏及第十五條第二項但書ノ官吏ハ部局長之ヲ命スヘシ

第六條 物品會計官吏ノ下ニ物品取扱主任ヲ置キ共用物品等ヲ取扱ハシムヘシ

第七條 内務大臣ハ検査ノ官吏ヲ命シ三箇年ヲ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ検査セシメ其調査ヲ作ラシム但廳府縣ニ於ケル廳費支辨ノ物品ハ部局長適宜ニ検査ノ方法ヲ定ムヘシ

第二章 物品出納 帳簿

第八條 部局長ハ該廳必需ノ物品中常時出納ニ係ルモノハ其種類ヲ規定シ置キ物品會計官吏ヲシテ直チニ出納セシムルコトヲ得

第九條 薪炭油、郵便切手、各材料品其他日日支消スル物品ハ一箇月以内ノ需用概算高ヲ以テ物品取扱主任ニ假渡ヲ爲シ毎月精算ヲ爲サシムヘシ

第十條 物品出納整理ノ爲メ別記様式ニ據リ左ノ帳簿ヲ備ヘ置クヘシ但内譯簿假渡簿等ノ補助簿ハ適宜ノ様式ニ據リ之ヲ設置スヘシ

器械出納簿

備品出納簿

消耗品出納簿

動物出納簿

圖書出納簿

痘苗出納簿

血清出納簿

前項帳簿ノ外出納簿ノ設置ヲ要スル場合ハ様式ヲ具シ認可ヲ請フヘシ

會計検査院ヨリ委託検査ニ付セラレタル物品ニ對シテハ別冊ノ帳簿ヲ以テ整理スルコトヲ要ス

第十一條 物品ノ出納ハ直チニ帳簿ヘ登記スヘシ

第三章 保管 責任

第十二條 貯蔵ノ物品ハ物品會計官吏共用ノ物品ハ物品取扱主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ

第十三條 物品會計官吏ハ既ニ交付シタル物品ト雖モ取締上ニ關シテハ總テ監督ノ責任アルモノトス

第十四條 貯蔵ノ物品ハ品種數量ヲ明瞭ニシ入記目錄ヲ作り倉庫ニ格護スヘシ

第十五條 本規程第十二條ノ保管ノ責アル者其物品ヲ故意若クハ怠惰ニ由リ亡失毀損シタルトキハ部局長ハ之ニ對スル辨償ヲ命スヘシ

第十六條 直接ニ保管ノ責ナキ者ト雖モ故意怠惰ニヨリ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ仍前條ニ依ル

第四章 計算書

第十七條 物品會計規則第十五條ノ計算書ハ部局長ニ差出シ部局長ハ之レカ下検査ヲ了シ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 永樂病院、血清樂院、痘苗製造所、(警察監獄學校)物品ニ對スル計算書ハ本省(總務局)會計課長ニ差出シ本省(總務局)會計課長ハ下検査ノ上會計検査院ニ送付スヘシ

第十九條 會計検査院ヨリ委託検査ニ係ル物品ハ計算書ヲ省略シ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明スヘシ

第五章 不用品處分

第二十條 不用ニ屬スル物品及毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ部局長之ヲ處分スヘシ

第六章 雜則

第二十一條 本規程ニ準據シ難キモノアルトキハ認可ヲ經テ特別ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 物品取扱ノ細則ハ部局長ニ於テ之ヲ定メ當省ヘ報告スヘシ

第二十三條 本規程ハ明治三十三年十月ヨリ施行ス但帳簿ハ本年度ニ限り従前ノ儘使用スルモ妨ナシ

備考	品目 備品(器械、消耗品、圖書)												
	年月日	摘要	記號	單位之稱	單價	受之部					計	價格	備考
						數	買入	生産	保管 轉換	何々			
	明治年												

出納簿様式												
備考	ノ部					現在ノ部					備考	
	數	價格	計	何々	給與	數	價格	計	在庫	貸出		供用中

(別記様式)

凡例

- 一 摘要欄ニハ納入及引繼官廳等必要ナル事項ヲ記入スルモノトス
- 一 現在ノ部數量ノ内課ハ九月末日ニ記入スルモノトス
- 一 消耗品出納簿ニハ拂ノ部首位ニ消耗ノ欄ヲ設ケヘシ
- 一 出納簿ニハ後葉越過及前葉繰高ヲ記明スヘシ

樣式						品目				
之部			現在之部			年月日	摘要	單位之冊	單價	備考
贈與	何々	計	價格	數量	價格					
						明治年				

動物出納簿樣式														
受之部					拂之部					現在之部				
數量		價格			數量		價格			數量	價格			
出高	買入	生産	何々	計	價格	賣拂	死亡	解剖	撲殺	何々	計	價格	數量	價格

保管物出納簿様式 (削除)

痘苗(血清)出納簿												
品目	年月日	摘要	單位之稱	單位	受之部					捕		
					高	生産	戻入	保管 轉換	何々 計	價格	數	價
	明治年											

第五節 陸軍省

●陸軍兵備品會計規則 明治三十四年三月
勅令第二十二號

改正 ●明治三十四年二月
勅令第九號

朕陸軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍兵備品會計規則

第一條 陸軍兵備品ハ分テ出師準備品通常兵備品ノ二類トス

第二條 出師準備品トハ左ニ掲クル諸品ヲ云フ

- 一 兵器彈藥及各兵器具並材料
- 二 祕密圖書
- 三 馬匹及戰時之ニ要スル器具
- 四 戰用糧秣及炊爨具
- 五 戰用被服及裁縫具
- 六 戰用衛生材料
- 七 戰用獸醫材料
- 八 戰用天幕
- 九 陣中事務用品
- 十 軍隊輸送用補助物件

第三條 通常兵備品トハ左ニ掲クル諸品ヲ云フ

- 一 圖書
 - 二 糧秣
 - 三 被服及裁縫具
 - 四 衛生材料
 - 五 獸醫材料
 - 六 兵營備付陣營具
- 第四條 出師準備品ノ品目數量ハ陸軍大臣參謀總長ト協議ノ上上裁ヲ經テ之レヲ定ム
- 第五條 出師準備品ハ其保存ヲ全カラシムル爲メ通常兵備品ト新陳交換スルヲ例トス
- 第六條 出師準備品ハ近衛都督各師團長及當該長官之ヲ管理ス
- 第七條 出師準備品及其數量ニ關スル書類ハ主任者ノ外關與スルコトヲ得ス
- 第八條 通常兵備品中軍隊其他委任經理ニ係ル糧食被服消耗品陣營具ニシテ特ニ保管ノ方法ヲ定メタルモノニアリテハ各保管者聯帶シテ其責ニ任ス
- 第九條 通常兵備品ノ會計ハ明治二十二年勅令第八十四號物品會計規則ニ依ル
- 第十條 出師準備品ノ保管出納及檢査ノ方法其他細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

●陸海軍出師準備ノ物品檢査ノ件

明治二十三年八月
法律第七十號

朕陸海軍出師準備ニ屬スル物品檢査ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍出師準備ニ屬スル物品ニ對シテハ陸海軍大臣其責ニ任シ會計檢査院法ヲ適用スルノ限ニ在ラス

●陸軍物品會計規程

明治三十五年四月
陸軍省達第四十四號

改正

●明治三十六年四月
陸軍省達第三十七號

●明治三十七年二月
陸軍省達第三十八號

陸軍物品會計規程別冊ノ通改正ス

(別冊)

陸軍物品會計規程

第一條 本規程ニ於テ物品ト稱スルハ物品會計規則ノ規定ニ依ルモノヲ云フ

第二條 物品ノ出納命令ハ左ノ諸官之ヲナスヘシ

一 陸軍省ニ在リテハ

高級副官

一 參謀本部ニ在リテハ

總務部長

一 教育總監部及(都督部)ニ在リテハ

參謀長

一 師團司令部ニ在リテハ

經理部長

一 其ノ他ノ部隊ニ在リテハ

當該部隊長

前項ノ命令官ハ其ノ命令ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得

第三條 物品會計官吏ハ物品出納ノ命令官ヲ兼メルコトヲ得ス

第四條 物品會計官吏及其ノ代理官若ハ分任官ハ當該部隊長其ノ所屬官吏ニ之ヲ命シ且該官吏ノ氏名

ヲ下検査官ニ通報スヘシ

物品會計規則第十三條ノ立會人及同第十五條第二項但書ノ官吏ニ付キテモ亦前項ニ同シ

第五條 物品會計官吏ハ物品出納簿陸軍省規程第二條第八委任經理ニ係物品配與簿陸軍省規程第三條第十三備ヘ物品ノ

出納及配付ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

物品ノ出納ハ傳票陸軍簿表規程第三條第十六條領收證書、出納命令官ノ決定書ニヨリ之ヲナスヘシ

第六條 物品中各自専用ノモノハ其ノ使用者共用ノモノハ監守者ヲ定メ其ノ監守者之ヲ保管スヘシ
官舎備付ノ物品ハ居住者之ヲ保管スヘシ

前二項ノ保管者ハ物品會計規則第七條ノ例ニ依リ辨償ノ責ニ任スヘシ

第七條 物品會計官吏ハ前條ノ物品ニ付キ其ノ保管者ニ對シ監督ノ責任アルモノトス

第八條 物品會計規則第十五條ノ計算書ハ年度經過後又ハ物品會計官吏交替後二箇月以内ニ物品會計官吏ヨリ當該部隊長ヲ經由シ陸軍省ニ在リテハ高級副官其ノ他ハ所管區分ニ從ヒ陸軍會計監督部長又ハ經理部長ニ提出スヘシ

陸軍省高級副官、陸軍會計監督部長及經理部長ハ前項ノ計算書ニ付キ下検査ヲ執行シ受領ノ日ヨリ一箇月以内ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九條 物品會計規則第十條ノ二ノ検査ハ毎年一回之ヲ行フモノトス

第十條 前條及物品會計規則第十一條第十二條ノ検査ハ陸軍省ニ在リテハ高級副官其ノ他ニ在リテハ陸軍會計監督部長及經理部長各其ノ所管區分ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ時宜ニ依リ當該部隊長ニ其ノ検査ヲ委任スルコトヲ得

第十一條 物品ノ備付受領修理又ハ交換ヲ要スルトキハ物品取扱主任其ノ品目員數ヲ傳票陸軍簿表規程第三條第十六條ニ記入捺印シ所屬長ノ捺印ヲ受ケ物品出納命令官ニ請求スヘシ

第十二條 物品ノ購買ヲ要スルトキハ物品會計官吏ヨリ會計主任官吏ニ請求スヘシ
會計主任官吏ハ所屬長ノ許可ヲ得注文傳票陸軍簿表規程第三條第十六條ヲ發シ現品ト共ニ之ヲ物品會計官吏ニ交付スヘシ

第十三條 不用トナリタル物品ハ物品取扱主任ヨリ其品目員數ヲ傳票陸軍簿表規程第三條第十六條ニ記入捺印シ所屬長

ノ捺印ヲ受ケ現品ト共ニ物品會計官吏ニ返納スヘシ

第十四條 物品中使用ニ堪ヘサルモノ又ハ將來所要ノ目的ナキモノハ所管區分ニ從ヒ陸軍會計監督部長若ハ經理部長ノ承認ヲ經テ各部隊長適宜ノ處分ヲナスヘシ但シ廢品處分ニ關シ別ニ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ルヘシ

第十五條 物品ヲ保管轉換セムトスルトキハ所管長官ノ許可ヲ經ヘシ但シ兩所管ニ跨ルモノハ相互ノ所管長官協議シ尙下検査官ノ同意ヲ求メ之ヲ執行スヘシ

第十六條 政府ノ保管ニ屬スル物品ハ政府所屬ノモノト區別シテ整理スヘシ

第十七條 本規程ノ外物品ニ關スル細則ハ各部隊長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

●兵器取扱規則

明治三十五年五月
陸軍省達第六十號

改正

●明治三十六年五月
陸軍省達第四十三號
●明治三十六年六月
陸軍省達第六十二號

●明治三十六年十月
陸軍省達第九十三號
●明治三十六年十二月
陸軍省達百二十號

●明治三十七年一月
陸軍省達第三號
●明治三十七年二月
陸軍省達第二十五號

兵器取扱規則別冊ノ通改正ス

但シ從來ノ令達及指令等ニシテ本規則ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

(別冊)

兵器取扱規則目次

- 第一章 總則
- 第二章 管理保管
- 第三章 定期報告
- 第四章 兵器委員
- 第五章 検査
- 第六章 費用
- 第七章 新調修理
- 第八章 支給交換
- 第九章 返納
- 第十章 毀損亡失及廢兵器ノ處分
- 第十一章 要塞備附兵器使用手續
- 第十二章 雜則

附則

- 第一表 武器彈藥器具材料區分表
- 第二表 兵器類別表
- 第三表 其一 某兵器支(分)廠保管兵器員數表樣式
其二 某要塞備附兵器員數表(甲)樣式
其三 某要塞備附兵器員數表(乙)樣式
- 同 其四 某隊(學校)(兵器支廠)(兵器分廠)保管兵器員數表樣式
- 同 其五 臺灣兵器支(分)廠保管兵器修理用半成品員數表樣式
- 同 其六 某要塞臨時防禦用兵器員數表樣式
- 同 其七 某要塞備附守城工兵器具材料員數表樣式
- 第四表 兵器支廠並要塞司令部保管官衙所用兵器取扱區分表
- 第五表 軍隊學校ニ於テ製造若ハ直接買收ヲ許スヘキ品目表
- 第六表 修理制限表
- 第七表 軍隊學校ニ於テ使用ヲ要スル工廠製成品(半成品)品目表
- 第八表 第二類兵器交換分數表
- 第九表 平時諸兵携帶兵器表
- 第十表 其一 演習用彈藥支給定數率
其二 野戰砲兵中隊演習用彈藥支給定數率
- 第十一表 其一 要塞砲兵演習用彈藥支給定數率
其二 臺灣守備口砲中隊演習用彈藥支給定數率

第十二表 要塞砲兵演習用特別支給彈藥定數表
第十三表 軍隊ニ於テ定數外保管シ得ヘキ兵器定限表
兵器取扱規則

第一章 總則

- 第一條 本規則ハ平時ニ於テ兵器ヲ整備シ專ラ戰時ノ供用ヲ完全ナラシムル爲メ其ノ方法ヲ定ム
- 第二條 本則ニ於テ兵器ト稱スルハ第一表ニ掲クル武器彈藥器具材料ノ總稱ナリ(兵器細目名稱表ハ別ニ之ヲ定ム)
- 第三條 本則ニ於テ兵器彈藥ヲ類別シテ第二表ノ如ク三類ニ區分ス
- 第四條 本則ニ於テ本廠、支廠、分廠ト記スルハ陸軍兵器本廠同支廠同分廠ヲ謂ヒ工廠ト記スルハ砲兵工廠派出所ヲ謂ヒ軍隊ト記スルハ憲兵、歩兵、騎兵、砲兵、工兵鐵道隊ヲ謂ヒ輜重兵ノ各隊、屯田兵隊、警備隊及軍樂隊ヲ謂ヒ學校ト記スルハ生徒隊若ハ教導隊ヲ有スル學校並電信教導大隊、砲兵工科學校ヲ謂ヒ官衙ト記スルハ陸軍諸官衙師、旅團司令部ヲ含ム及生徒隊若ハ教導隊ヲ有セサル學校砲兵工科學校ヲ除クヲ謂フ
- 第五條 本則ニ於テ本廠長、支廠長ト記スルハ陸軍兵器本廠長、同支廠長ヲ謂ヒ隊長、校長ト記スルハ前條ニ掲グル軍隊若ハ學校ノ長ヲ謂フ
- 第六條 要塞司令部若ハ同司令官ト記スルハ對馬警備隊司令部若ハ同司令官ヲ包含ス
- 第七條 本則中支廠長並支廠ノ爲メニ記スルモノハ總テ要塞司令部部員砲兵科將校及同司令部並分廠長及分廠ニ適用ス但シ分廠長若ハ分廠ニ於テ直ニ執行スル事項ハ當該支廠長若ハ支廠ニ報告スルモノトス
- 第八條 本則ニ於テ新調ト稱スルハ第一表ニ掲クル名稱中ノ物品物品名目表ヲ包含スヲ製造若ハ調辨スルヲ謂フ又修理ト稱スルハ同物品ヲ修理若ハ其ノ一部分ヲ調辨スルヲ謂フ

第八條 兵器廠ニ貯藏スル兵器ヲ分テ本須及第一、第二支須トス本須ハ總豫備國民軍用ヲ謂ヒ第一支須ハ官衙所要及豫備ヲ謂ヒ第二支須ハ其ノ他ノモノヲ謂フ

第二章 管理、保管

第九條 兵器ハ平時之ヲ別テ支廠、分廠、要塞及要塞司令部、軍隊學校ニ配備シ其ノ管理保管ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 本須ハ本廠長之ヲ管理シ東京、大阪、門司支廠長保管ノ責ニ任ス
 - 二 第一支須ハ本廠長之ヲ管理シ支廠長保管ノ責ニ任ス但シ分廠ニ在リテハ分廠長、要塞司令部ニ在リテハ同部部長砲兵科將校保管ノ責ニ任ス
 - 三 第二支須ハ要塞司令部砲兵科將校保管ノ責ニ任ス但シ動員計畫上師團長ノ主管ニ係ラサル特設部ニ要スルモノニ在リテハ本廠長之ヲ管理ス
 - 四 要塞司令部備附第二支須及要塞備附兵器用兵器貯藏所ハ要塞司令部官之ヲ管理シ要塞司令部砲兵科將校保管ノ責ニ任ス但シ工兵器具材料ハ同部部長砲兵科將校保管ノ責ニ任ス
 - 五 軍隊備步兵大隊ヲ除ク保管兵器ハ師團長砲兵科將校保管ノ責ニ任ス
 - 六、要塞砲兵隊、對馬警備步兵大隊保管兵器ハ當該要塞司令部官之ヲ管理シ隊長保管ノ責ニ任ス
 - 七 學校保管兵器ハ教育總監砲兵工科學校ニ在リテ之ヲ管理シ校長保管ノ責ニ任ス
- 第十條 軍隊、學校ノ保管ニ係ル兵器ノ取扱ヲ支廠並要塞司令部ニ於テ爲スモノハ左ノ區域ニ據ルモノトス但シ兵器ノ新調修理並檢定ハ適宜附近支廠ニ於テ取扱フモ妨ケナシ
- 東京 支 廠 第一師管内ノ軍隊、學校 要塞所在地ノ軍隊學校ヲ除ク
- 仙臺 支 廠 第二師管内ノ軍隊

- 弘前 支 廠 第八師管内ノ軍隊
- 旭川 支 廠 第七師管内ノ軍隊 要塞所在地ノ軍隊ヲ除ク
- 名古屋 支 廠 第三師管内ノ軍隊
- 金澤 支 廠 第九師管内ノ軍隊
- 大阪 支 廠 第四師管内ノ軍隊 要塞所在地ノ軍隊ヲ除ク
- 姫路 支 廠 第十師管内ノ軍隊 要塞所在地ノ軍隊ヲ除ク
- 廣島 支 廠 第五師管内ノ軍隊 要塞砲兵隊ヲ除ク
- 善通寺 支 廠 第十一師管内ノ軍隊
- 門司 支 廠 外國派遣ノ部隊
- 熊本 支 廠 第六師管内ノ軍隊
- 小倉 支 廠 第十二師管内ノ軍隊 要塞所在地ノ軍隊ヲ除ク
- 臺北 支 廠 臺灣守備混成第一旅團守備管區内ノ軍隊 基隆屯在ノ軍隊ヲ除ク
- 臺中 支 廠 臺灣守備混成第二旅團守備管區内ノ軍隊
- 臺南 支 廠 臺灣守備混成第三旅團守備管區内ノ軍隊 澎湖島屯在ノ軍隊ヲ除ク
- 東京灣要塞司令部 東京灣要塞所在地ノ軍隊、學校
- 函館要塞司令部 函館要塞所在地ノ軍隊
- 由良要塞司令部 由良要塞所在地ノ軍隊
- 舞鶴要塞司令部 舞鶴要塞所在地ノ軍隊
- 蕨豫要塞司令部 蕨豫要塞所在地ノ軍隊
- 廣島灣要塞司令部 廣島灣要塞砲兵隊

下關要塞司令部、下關要塞所在地ノ軍隊

佐世保要塞司令部 佐世保要塞所在地ノ軍隊

長崎要塞司令部 長崎要塞所在地ノ軍隊

對馬警備隊司令部 對馬屯在ノ軍隊

基隆要塞司令部 基隆屯在ノ軍隊

澎湖島要塞司令部 澎湖島屯在ノ軍隊

第十一條 官衙所要兵器ハ第四表ノ區分ニヨリ支廠ニ於テ取扱フヘシ

第三章 定期報告

第十二條 各管理官ハ左ニ掲クル兵器員數表ヲ取纏メ半年報ニ在リテハ四月及十月ノ各盡日迄ニ年報ニ在リテハ四月盡日迄ニ本省ヘ到著スル如ク發送スヘシ但シ本條ノ各表ハ軍事機密圖書トシテ取扱フモノトス

半年報

- 一 某兵器支(分)廠保管兵器員數表 第三表其二
- 一 某要塞備附兵器員數表(甲) 第三表其二
- 一 某要塞備附兵器員數表(乙) 第三表其三
- 年報
- 一 某隊(學校)(兵器支、分廠)保管兵器員數表 第三表其四
- 一 臺灣兵器支、分廠保管兵器修理用半成品員數表 第三表其五
- 一 某要塞臨時防禦用兵器員數表 第三表其六
- 一 某要塞備附守城工兵器具材料員數表 第三表其七

第四章 兵器委員

第十三條 軍隊ニ在リテハ兵器ノ整理ヲ掌ラシムル爲左ノ兵器委員ヲ置キ隊長之ヲ撰任ス但シ獨立中隊以下ノ軍隊ニ在リテハ之ニ準シ適宜委員ヲ設クルモノトス

少佐若ハ大尉 一人 首座

但シ歩兵聯隊ニ在リテハ中佐若ハ少佐

大尉若ハ中尉 一人乃至三人

砲兵隊ノ武器主管工兵隊、輜重兵隊ノ材料主管ハ必ス委員中ニ加フルモノトス

第十四條 隊長ハ保管兵器整理一切ノ責ニ任シ兵器委員ヲシテ其ノ事務ヲ擔當セシムヘシ

第十五條 首座委員ハ隊長ニ對シ兵器整理ノ責ニ任シ委員ヲ指揮シ且兵器彈藥費ノ經理事務ヲ整頓ス

第十六條 委員ハ兵器ノ支給、交換、貯藏、保存、工場ノ監視及新調、修理品等ノ検査ヲ掌ル

第十七條 委員ハ下士若干名ヲ撰ミ隊長ニ上申シ助手トシテ細務ニ服セシム

第十八條 學校ニ在リテハ第十三條乃至第十七條ニ準シ委員ヲ設ケ兵器ノ整理ヲ掌ラシムヘシ

第五章 検査

第十九條 兵器ノ検査ハ陸軍大臣ヨリ特ニ命セラレタル臨時検査官之ヲ行フ

検査終レハ臨時検査官ハ其ノ成績ニ意見ヲ添ヘ陸軍大臣ニ報告ス

第二十條 各管理官ハ毎年一回其ノ管理スル兵器ノ検査ヲ行フ但シ教育總監ハ參謀長、憲兵司令官ハ

隊長、兵器本廠長ハ同支廠長ヲシテ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

検査終レハ管理官ハ其ノ成績ニ意見ヲ添ヘ陸軍大臣ニ移牒若ハ報告ス

第二十一條 検査ハ兵器ノ保存、數量及兵器彈藥費支途ノ適否其ノ他一般整理ノ景況ヲ檢ス

第六章 費用

第二十二條 兵器廠、要塞司令部及軍隊、學校ニ於テ管理スル費用左ノ如シ

一 兵器廠

〔兵器ノ新調ニ係ル費用〕
〔兵器ノ修理手入ニ係ル費用〕
〔兵器ノ運搬ニ係ル費用〕

一 要塞司令部

〔兵器ノ新調ニ係ル費用〕
〔兵器ノ修理手入ニ係ル費用〕
〔兵器ノ運搬ニ係ル費用〕

一 軍隊、學校

〔兵器ノ新調ニ係ル費用〕〔臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ在リテハ之ヲ除ク〕
〔兵器ノ修理手入ニ係ル費用〕

第二十三條 軍隊、學校ニ於テ要スル兵器及修理用半成品ノ運搬ハ兵器支廠ニテ取扱フモノトス但シ支廠所在地ニ在リテハ通常運搬費ヲ支出セス支廠ニ就キ授受スヘキモノトス

第二十四條 軍隊、學校ニ於ケル費用ノ仕拂ハ首座委員ノ承認セシ證書ヲ以テ其ノ手續ヲ爲スモノトス

第七章 新調修理

第二十五條 左ニ掲ケル兵器ハ陸軍大臣工廠ニ命シテ製造セシメ若ハ本廠ニ命シテ調辨セシム而シテ其ノ費用ハ本廠ヨリ支出セシム

一 第一類兵器並分數交換ニ要スル第二類兵器

二 新規支給ニ要スル兵器

三 各種彈藥第四十六條、第五十三條、第五十七條第二項ニ掲ケルモノ及一年志願兵ニ要スル彈藥ヲ除ク

前各項ニ掲ケル兵器ノ外ハ支廠若ハ軍隊、學校ニ於テ調辨ス但シ臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ在リテハ修理手入用材料半成品ヲ除クノ外ハ兵器廠ニ於テ調辨スルモノトス

第二十六條 軍隊、學校ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ兵器委員傳票ヲ製シ隊長若ハ校長捺印ノ上支廠ニ託シ該費用ハ當該軍隊、學校ノ管理費用ヲ以テ支辨ス但シ東京大阪屯在ノ軍隊、學校ニ在リ

テハ工廠ニ於テ製造スルモノニ限リ直ニ工廠ニ託スヘシ

第五表ニ掲ケル兵器ハ第一項ノ手續ニ據ラス軍隊、學校ニ於テ直ニ製造若ハ調辨スルコトヲ得

第二十七條 兵器廠ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ支廠長ハ工廠ニテ製作スルモノハ工廠ニ注文シ其ノ他ハ他ヨリ調辨ス但シ支廠ニ於テ第二十六條第一項ノ注文ヲ託セラレタルトキモ亦同シ

要塞司令部並臺灣兵器廠ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ其ノ修理所ニ於テ製造スルモノトス但シ製造シ得サルモノハ前項ニ準シ工廠ニ注文シ若ハ他ヨリ調辨ス而シテ其ノ費用ハ臺灣屯在ノ軍隊ニ係ルモノハ兵器廠ニ於テ支辨シ要塞所在地基隆澎湖軍隊、學校ニ係ルモノハ其ノ實費ヲ當該軍隊、學校ヨリ支拂フモノトス

第二十八條 兵器ノ修理ハ工廠、軍隊、學校、在臺灣兵器廠並要塞司令部ニ於テ執行ス但シ軍隊、學校ニ於テハ第六表ニ掲ケルモノ、修理ヲ許サス

第二十九條 軍隊、學校ニ於テ第六表制限内兵器ノ修理並制限外ト雖トモ修理シ能ハサル兵器ノ修理ヲ要スルトキハ第二十六條第一項並第二十七條ノ手續ニ據ル

第三十條 軍樂器ノ修理ハ前條ノ手續ニ據ラス軍隊、學校ニ於テ直ニ處辨スヘシ

第三十一條 軍隊、學校内ニ於テスル兵器ノ製造、修理ハ工場長及兵卒ヲシテ之ニ從事セシム但シ學校及屯田兵隊ニ在リテハ職工ヲ備役スルコトヲ得

第三十二條 工廠外ニ在リテ新調、修理ニ要スル材料中第七表ニ掲ケル品目ハ必ス工廠ノ製作ニ係ル成品若ハ半成品ヲ使用スヘシ但シ其ノ購買手續ハ第二十六條第一項及第二十七條ニ據ル

第三十三條 支廠本須兵器ヲ除ク及軍隊保管兵器ノ手入ハ兵卒ヲ以テ施行スルモノトス但シ支廠及屯田兵隊ニ於テハ管理費用内ヲ以テ職工ヲ備役スルコトヲ得

第三十四條 支廠本須兵器ヲ除ク保管兵器ノ手入ニ兵卒ヲ要スルトキハ支廠長所要ヲ計リ衛戍司令官東京支廠ニ在リテハ監

該師ニ請求スルモノトス

第八章 支給交換

第三十五條 左ニ掲クル補給ハ本廠長直ニ之ヲ執行ス

一 兵器表ニ基ク支給

二 勳員計畫訓令ニ基キ特ニ要スル兵器ノ支給

三 第二類兵器ノ交換

第三十六條 左ニ掲クル補給ハ支廠長直ニ之ヲ執行ス但シ第二乃至第六項ハ當該官衙長官若ハ隊長第

七及第八項ハ衛戍司令官ノ請求ニ據ルモノトス

一 演習用彈藥

二 匪徒討伐ニ費消セシ彈藥

三 官衙ニ要スル兵器ノ支給交換

四 見習監督、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、豫備後備見習士官各部ノ者ヲ含ム以下同シ並定員外見習士官用

刀劍ノ支給

五 近衛守衛隊用彈藥ノ補給

六 弔發及禮砲用彈藥ノ補給

七 非常及正午號砲用彈藥ノ補給

八 衛戍服務用彈藥ノ補給

第三十七條 第一類兵器ハ全ク其ノ用ニ堪ヘサルニ至リ交換ス而シテ其ノ交換期ハ毎年六月及十二月

トス但シ第一類兵器中屬品銃劍ヲ除クノミニ係ルモノハ第三類兵器ノ取扱ニ準シ處理スルモノトス

臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ノ兵器ニ在リテハ類別ヲ問ハス總テ其ノ用ニ堪ヘサルニ至リ交換スルモ

ノトス

第三十八條 第一類兵器ノ交換ハ支廠長ノ檢定書ヲ添ヘ各保管者ヨリ管理官ニ上申シ同官ハ之ヲ一纏

メトナシ交換期ノ前月二十日迄陸軍省ヘニ陸軍大臣ニ請求ス

第三十九條 第二類兵器ハ分數交換表(第八表)ニ據リ毎年六月交換ス其ノ員數ハ本廠長之ヲ調査シ前

々年度會計年度十二月盡日迄ニ陸軍大臣ニ上申スヘシ

新設増設若ハ兵器ノ種類交換等ニヨリ一月ヨリ六月迄ニ支給シタル第二類兵器ノ新品ハ其ノ年ニ於

テ同シク六月ヨリ十二月迄ニ支給シタルモノハ翌年ニ於テ分數交換ヲ行ハサルモノトス

第四十條 第三類兵器並第二類兵器ノ分數交換ヲ行ハサルモノ及分數交換定數以外ニ新調ヲ要スル

モノハ各管理ノ費用ヲ以テ整備スルモノトス

第四十一條 臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ要スル第二、第三類兵器ノ補給ハ第二條ノ規定ニ據ラス隊

長之カ理由ヲ悉クシ臺灣守備混成旅團長、臺灣所在要塞司令官若ハ第七師團長ニ上申シ同官ノ請求

ニ據リ所在支廠長適宜ノ時期ニ於テ之ヲ執行ス但シ臺灣屯在憲兵隊ニ在リテハ隊長ヨリ直ニ請求ス

ルモノトス

臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ於テ修理用半成品若ハ成品ヲ要スルトキハ傳票ヲ以テ兵器廠ニ請求ス

第四十二條 演習用彈藥ハ軍隊屯田兵隊ヲ除クニ在リテハ第十乃至第十二表ニ掲載スル員數ニ基キ支給シ學校

及屯田兵隊ニ在リテハ兵器表ノ定數ニ據ル

第四十三條 演習用彈藥ハ毎年十二月運搬不便ノ地ニアリテハ此ノ時期ヲ適宜伸縮スルコトヲ得支給ス但シ臺灣守備隊ニ在リテハ各其ノ

隊ノ交代後ニ於テ支給ス

第十一表其一及要塞砲兵射擊學校演習用彈藥機關砲彈ヲ除クハ種類ヲ變更シテ支給ヲ受クルコトヲ得此ノ場

合ニ在リテハ隊長若ハ校長ハ支給期前ニ要塞司令部部員砲兵科將校ニ協議シ同將校ハ第一支須ノ定

數ト當該軍隊、學校ノ定數ニ應スル費額内ニテ支給數ヲ定メ本廠長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第十二表ノ演習用彈藥ニ在リテモ又其ノ種類ヲ變更シテ支給ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ隊長ハ前々年度會計十二月盡日兵器本廠ニ迄ニ要塞司令部ヲ經テ本廠長ニ協議シ本廠長ハ當該軍隊ノ定數ニ應スル費額内ニテ支給數ヲ定メ陸軍大臣ニ上申ス

軍隊、學校ニ在リテハ毎年消費セシ演習用彈藥ノ明細書ヲ製シ十一月盡日(舊曆)前月盡日(新曆)交代歸還ノ前月盡日(舊曆)前月盡日(新曆)調ヲ以テ翌月十五日迄ニ當該支廠ニ通報シ支廠ハ之ヲ本廠ニ報告スヘシ

第四十四條 彈藥ハ左ノ順序ニ從ヒ支給シ且製造ノ舊キモノヨリ新陳交換シテ使用ス

一 軍隊、學校ヘノ支給ハ支須ヨリス

二 支須中ニ在リテハ第一ヨリ第二ニ補充ス

三 支須ノ補充ハ本須ヨリス

要塞備附彈藥ニ在リテモ亦本條ニ準ス

第四十五條 軍隊(憲兵隊及屯田)學校ヘ支給スル彈藥中左ニ掲クルモノハ(學校ヘ支給スル小銃空包及狹窄)材料ニテ支給シ其ノ他ハ總テ完成品ヲ以テス而シテ材料ニテ支給ヲ受クルモノハ當該軍隊、學校ニテ填實シ完成品ニテ支給スルモノハ當該支廠ヨリ工廠ニ注文シ若ハ支廠ニ於テ填實ス

一 小銃空包(填實)及狹窄射擊實包(給彈)

二 火炮用各種彈及藥筒、藥包、空包(海岸砲用空包)

第四十六條 彈藥ノ材料並屬品中左ニ掲クル者ハ當該支廠、軍隊、學校ノ管理費用ヲ以テ調辦スヘシ

一 小銃空包用填綿

二 狹窄射擊用鉛彈(細細彈ヲ應用シ能ハサル場合)

三 三十一年式速射野砲空包用十字形

四 海岸砲用空包藥莖、彈底支撐

五 爆包並擬放火用藥莖

六 騎兵用火具中ノ麻絲、摺附木、油紙

七 正午號砲用紙藥莖

第四十七條 憲兵隊及屯田兵隊ニ在リテハ前二條ノ規定ニ據ラス總テ完成品ヲ以テ支給ス

第四十八條 軍隊ニ在リテ一時過員トナリタル者ニ要スル彈藥ハ當該軍隊演習用定數内ヲ以テ應用スルモノトス

第四十九條 平時ニ在リテ見習士官、下士、兵卒並諸生徒等ニハ第九表ニ掲載スル携帶兵器ヲ支給ス

第九表 返納

第五十條 總テ兵器ハ兵器表ノ定數ニ超過スルヲ許サス故ニ過數トナリタルモノハ軍隊、學校ニ在リテハ支廠ニ返納シ支廠ハ之ヲ本廠ニ報告スヘシ但シ軍隊(憲兵隊、海軍、陸軍)ニ在リテハ第十三表ニ掲クル第二、第三類兵器ニ限リ演習用トシテ同表定限以内ハ各管理費用内ヲ以テ保管スルコトヲ得

第五十一條 見習監督、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及豫備後備見習士官並定員外見習士官ニ支給シタル刀劍ハ其ノ用ヲ終リタル後直ニ支廠ニ返納スヘシ但シ破損シアルモノハ當該軍隊(官備)ニ在リノ管理費用ヲ以テ修理ヲ加フルモノトス

第五十二條 小銃並拳銃ノ藥莖、插彈子及螺門管ハ年演習ノ終リニ之ヲ收集シ藥莖ハ空雷管(憲兵隊及屯田)ヲ拔除シ且洗淨(插彈子)ハシテ毎年十二月(舊曆)前月(新曆)前月(舊曆)前月(新曆)交代歸還前迄ニ支廠ニ返納スヘシ但シ軍隊備附空包用藥莖及同插彈子ハ一旦使用シタル實包用藥莖及同插彈子ノ内ヨリ良好ノモノヲ選擇シ其定數ニ充足スルモノトス

第三編 財政 第三章 物品會計 第五節 陸軍省

狹窄射擊用藥莢ハ毎年十二月定數ノ六分ノ一ヲ返納シ交換品ノ支給ヲ受クルモノトス
速射砲用藥莢ハ每演習ノ終リニ於テ空爆管ヲ拔除ノ上之ヲ洗淨シ毎年十二月破損品ヲ返納シ交換品
ノ支給ヲ受クルモノトス但シ要塞用速射砲藥莢ニ在リテハ總テ返納スルモノトス

第五十三條 小銃並拳銃藥莢、插彈子及螺門管ヲ返納スルニ方リ小銃並拳銃藥莢及螺門管ニ在リテハ
定數ノ百分ノ五插彈子ニ在リテハ百分ノ二ヲ減耗ノ定限トス之ヲ超過スルトキハ當該軍隊、學校ノ
管理費用内ヲ以テ補充スヘシ但シ臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ在リテハ軍隊ニ於テ補充スルコトナ
ク隊長ノ理由書ヲ添フルモノトス

第五十四條 軍隊、學校ニ於テ三十一年式速射野山砲射擊ヲ行フトキハ放射シタル彈丸榴彈ヲ及信管類
ハ成ヘク之ヲ集拾シ置キ演習後之ヲ支廠ニ返納スヘシ但シ運搬ニ要スル費用ハ兵器廠ニ於テ支辨ス
ルモノトス
空虛トナリタル彈藥箱、火藥箱及火具箱ハ格納シ置キ適宜ノ時期ニ於テ軍隊、學校ニ在リテハ支廠ニ
返納スヘシ

第五十五條 各支廠ニアリテハ第五十二條及第五十四條ニ依リ軍隊、學校ヨリ返納ニ係ルモノハ適宜
ノ時期ニ於テ東京兵器支廠若ハ大阪兵器支廠ヘ送付シ其ノ員數ヲ兵器本廠ヘ報告スヘシ但シ小銃及
拳銃ノ藥莢、插彈子ハ東京兵器支廠ニ火砲用藥莢、螺門管、彈丸、信管ハ大阪兵器支廠ニ送付スルモノ
トス

第十章 毀損亡失及廢兵器ノ處分

第五十六條 總テ兵器ヲ毀損亡失シタルモノハ左ノ二項ニ據リ處分ス但シ其ノ事由避クヘカラサルコ
トニ起因スルカ或ハ公務執行中ノ過失ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス
一 毀損シタル兵器ノ新調ヲ要スルトキハ新調代價ノ半額毀損品ノ相當
代價ヲ控除ス修理ニ止マルモノハ修理全價

ヲ補償セシム

二 亡失シタル兵器ハ新調代價ノ半額ヲ補償セシム

一年志願兵ニモ亦本條ヲ適用スト雖モ官費服役證書ヲ付與シタルモノノ外ハ各自ニ支給スル携帶兵
器ニ限リ其ノ事由ノ如何ニ拘ハラズ補償セシム

第五十七條 毀損亡失シタル兵器ハ左ノ各項ニ據リ補充ス

一 第一類兵器ヲ亡失シタルトキハ第三十八條ニ據リ代品ノ支給ヲ請求ス此ノ場合ニ在リテハ支廠
長ノ檢定書ニ代ナルニ保管者ノ理由書ヲ以テス

二 第二、第三類兵器及彈藥ヲ毀損亡失シタルトキハ第二十六條乃至第二十九條ニ據リ新調若ハ修
理ス但シ第一類兵器ニシテ單ニ修理ニ止マルモノモ亦本項ニ據ル

三 臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ在リテハ前項ニ據ラス其ノ代品ヲ要スルモノハ第四十一條ニ修理
ニ止マルモノハ第二十八條及第二十九條ニ據リ取扱フモノトス

第五十八條 天災事變等ニ依リ毀損亡失シタル兵器ニシテ特ニ交換支給ヲ要スル場合ニ在リテハ各保
管者ハ詳細ナル理由書ヲ附シ要スルハ兵器支廠長ノ檢定書ヲ添ヘ管理官ヲ經テ陸軍大臣ニ移牒若ハ
申請ス

第五十九條 前條ノ場合ニ於テ兵器ノ修理ヲ要シ其ノ管理費用内ヲ以テ支辨シ難キ者ハ各管理官ハ保
管者ヨリ詳細ナル理由書ヲ徴シ之ヲ添ヘ陸軍大臣ニ申請スヘシ

第六十條 兵器ハ全ク其ノ用ニ堪ヘサルモノニ非サレハ廢品ト爲スコトヲ得ス
本廠長ハ必要ニ應シ支廠長ヲシテ其ノ管理兵器ノ試験ヲ行ハシムルコトヲ得但シ之カ爲火砲射擊ヲ
行フヲ要スルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
前項試験ノ結果修理ノ用途ナク全ク其ノ用ニ堪ヘサルモノハ廢品處分ヲナスヘシ但シ第一類兵器及

彈藥ニ在リテハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條 火藥火具類ニ變敗ノ徵アリテ其ノ用ニ堪ヘサルノ虞アルトキハ管理官ハ支廠長ニ檢定ヲ請求スルモノトス

此ノ檢定ノ爲特ニ火砲射擊ヲ要スルトキハ支廠長ニ本廠長ニ本廠長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ檢定ノ爲消費シタル彈藥ハ之ヲ補充シ其ノ員數ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第六十二條 前條ニ據リ檢定ノ結果火藥火具類ノ交換ヲ要スル場合ニ在リテハ各管理官ハ保管者ヨリ詳細ナル理由書ヲ徵シ之ニ支廠長ノ檢定書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ請求スルモノトス

第六十三條 不用並廢兵器ハ總テ支廠ニ於テ處分スルヲ法トス然レトモ廢兵器ニ在リテハ軍隊、學校ニ於テ處分スルコトヲ得此場合ニ在リテハ豫メ當該支廠長ノ檢査承認ヲ受クルモノトス但シ第一類兵器並彈藥ノ廢品及不用兵器ノ處分ハ支廠長之ヲ本廠長ニ本廠長之ヲ陸軍大臣ニ上申シ認可ヲ經ルヲ要ス

第十一章 要塞備附兵器使用手續

第六十四條 要塞砲兵隊ニ於テ要塞備附ノ兵器(彈藥ヲ除ク)ヲ使用セントスルトキハ當該隊長先ツ保管者ト協議シ砲臺ノ名稱、兵器ノ種類員數、使用ノ目的及時日等必要ノ件ヲ詳記シ管理官ノ承認ヲ經テ當該要塞司令部ヨリ借用シ使用後要塞砲兵材料保存法第四章ニ掲グル手入ヲ爲シ一週日以内ニ司令部ニ返納スヘシ

使用後ニ要スル修理塗料ノ塗除クハ經テ當該隊長ノ責任ニシテ其ノ費用モ亦該隊ノ管理費用ヲ以テ支辨スルモノトス

要塞臨時防禦用兵器ノ使用手續モ亦本條ニ據ル

第六十五條 前條ニ據リ兵器ノ受授ヲ爲ストキハ要塞司令部々員砲兵科將校精密ノ檢査ヲ行ヒ授受ヲ

明ニシ又要スレハ隨時之カ檢査ヲ施行スルコトヲ得

返納兵器ヲ受領スルニ當リ修理及手入ノ不充分ナルモノアルヲ認ムレハ要塞司令部々員砲兵科將校ハ更ニ之カ復行ヲ要求スルコトヲ得

第十二章 雜則

第六十七條 一年志願兵ニ要スル兵器彈藥ヲハ當該軍隊用ノ定數内ヲ以テ應用シ演習用彈藥ハ第二十六條第一項ノ手續ニ據リ新調ス但シ官費服役證書ヲ付與シタルモノニ要スル彈藥並各自ニ支給セサル砲兵彈藥、騎、工兵用火具等ノ如キモノニ在リテハ一年志願兵ノ種類如何ニ拘ラス當該軍隊ノ演習用定數内ヲ以テ應用スヘシ

第六十八條 學校若ハ官衙ヘ分遣中ニ在ル者ノ攜帶セシ兵器ノ新調、修理、手入並第一類兵器ノ交換ハ當該學校若ハ支廠保管ノ兵器ニ準シ取扱フヘシ

第六十九條 軍隊、學校ニ於テ測腔機ヲ要スルトキハ支廠保管ノモノヲ請求シテ使用スヘシ但シ使用中破損ヲ生シタルモノノ復舊ハ使用軍隊、學校ノ責任トス

第七十條 各種砲彈丸ノ帶脂ヲ要スルモノハ當該支廠ニ於テ裝著ノ上支給ス

第七十一條 平時使用セサル兵器ニシテ秋季演習ノ爲特ニ使用シタルモノノ修理手入ニ要スル費用ハ演習費ヲ以テ支辨スルモノトス

第七十二條 臺灣總督ハ事變ニ際シ事急ニシテ陸軍大臣ノ認可ヲ經ルノ迫ナク兵器廠保管ノ兵器ヲ使用セシトキハ直ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

第七十三條 演習砲臺ノ未タ完備セサル場合ニ在リテハ特別ニ某砲臺ヲ指定シ所在地要塞砲兵隊及學

校ノ演習用ニ供スルコトアリ之ヲ常用砲臺ト稱ス此ノ砲臺ノ備砲射擊及觀測ニ要スル器具ヲ含ムニ在リテハ當該隊長若ハ校長修理手入ノ責ニ任シ該費用モ亦其ノ管理費用ヲ以テ支辨スルモノトス

第七十四條 要塞臨時防禦用兵器ニシテ當該要塞ニ現在セサルモノハ本廠長之ヲ管理ス

第七十五條 第四十三條第二項演習用彈藥種類ノ變更ハ當分ノ内第一支須ノ定數外ト雖同條第三項ニ準シ交換支給スルコトヲ得

(別表略ス)

● 戦用品取扱規則

明治三十六年十一月
陸軍省通第百二號

戦用品取扱規則左ノ通定ム

明治三十一年陸軍第六十八號戦用品糧秣、炊具、被服、裁縫具、天幕、馬匹手入具、事務用品取扱規則ヲ廢止ス

戦用品取扱規則

第一章 總則

第一條 本規則ニ於テ戦用品ト稱スルハ陸軍兵備品會計規則第二條ニ掲クル糧秣、被服、裁縫具、炊具、天幕、馬匹手入具及陣中事務用品ヲ謂フ

第二條 本規則ニ於テ戦用準備品ト稱スルハ平時ヨリ準備貯藏スヘキ戦用品ヲ謂フ

第三條 戦用品ノ會計年度ハ動員年度ノ區分ニ依ル

第二章 管理

第四條 戦用品ノ管理ハ左ノ區分ニ依ルモノトス

一 師團長ノ主管ニ係ル動員計畫ニ要スルモノ及師團ニ於テ特ニ貯藏ヲ擔任スルモノハ當該師團長

二 陸軍糧秣廠及陸軍被服廠ニ貯藏スルモノハ陸軍省經理局長

第五條 管理者ハ戦用品ノ出納命令ヲ發スヘシ但シ師團長ハ其ノ部下ニ經理局長ハ陸軍糧秣廠長陸軍被服廠長ニ分任スルコトヲ得

第六條 管理者ハ戦用品ノ整備及保全ヲ圖リ並保管出納ノ擔任者ヲ定メ其ノ行務ヲ規定スヘシ

第七條 戦用品中損敗ニ屬スルモノハ管理者ニ於テ適宜處分スルコトヲ得

編制改正等ニ因リ戦用品ノ準備數ニ増減ヲ來シタルトキハ彼是轉用シ全ク不用ニ歸シタルモノハ將來ノ所要ヲ顧慮シ適宜處分スルコトヲ得

戦用品ニシテ災害ニ罹リ滅失毀損シ又ハ前二項ニ依リ處分シタル爲動員計畫上重要ノ關係ヲ及ホス

トキハ速ニ之ヲ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第三章 整備

第八條 各部隊所要ノ戰用準備品ハ動員計畫上貯藏擔任部隊ノ長其ノ整備ノ責ニ任シ準備ノ爲特ニ交付スル現品若ハ經費又ハ委任經理ノ餘裕ヲ以テ漸次其ノ充實ヲ圖ルヘシ

第九條 師團長ニ於テ貯藏擔任ヲ定ムヘキ戰用品ニツキテハ動員ノ實施ト各部隊ニ於ケル負擔ノ均衡トヲ顧慮シテ其ノ擔任ヲ定メ若シ衛戍地ノ關係上貯藏擔任ニ均衡ヲ得セシムル能ハサル場合ニ在リテハ特ニ準備擔任ヲ定メ各部隊ノ負擔ニ輕重ナカラシムルヲ要ス

第十條 戰用品中左ノ品種ハ陸軍糧秣廠及陸軍被服廠ニ於テ調辨シ其ノ他ノ品種ハ各部隊ニ於テ調辨スルモノトス

糧秣中 糲、重燒麩麩、鐵詰肉、食鹽、醬油エキス、梅干

被服中 各種絨、厚毛布、各種雲齋、厚織木綿、厚織麻布、軍靴、飯盒、水筒、携帶天幕

第四章 新陳交換

第十一條 戰用品ノ新陳交換ハ其ノ貯藏部隊ノ通常兵備品ヲ以テスルモノトス但シ當該部隊ニ於テ更新ノ途ナキモノ及他隊ニ比シ更新年限ニ大差アルモノハ師團長各部隊ヲ通シ交換ノ方法ヲ定ムヘシ

第十二條 戰用品中通常兵備品ヲ以テ全ク新陳交換ノ途ナキモノハ努メテ其ノ保全ヲ圖リ實際戰用品ニ堪ヘサルニ至リ當該師團又ハ部隊ノ經費ヲ以テ之カ更新ヲ圖ルモノトス

第十三條 戰用品ノ新陳交換ヲ確實ナラシムル爲現品又ハ其ノ容器ニ製作年次、大小、號數等ヲ標記シ置クヘシ

第十四條 陸軍糧秣廠及陸軍被服廠ニ貯藏ノ戰用品ハ各師團ニ配當シ更新セシム

前項戰用品ノ製作年次師團ノ貯藏品ヨリ古キトキハ直ニ之ヲ通常兵備品ニ充ツルモノトス

第十五條 戰用糧秣ノ新陳交換ハ概テ附表第一ノ期限ニ依ルモノトス但シ第十條ノ品種ニ在リテハ其ノ交換スヘキ品種數量第十條ノ配當數量トシテヲ毎年一月中陸軍大臣ヨリ各管理者ニ令達ス

經理局長ハ前項令達ヲ受ケタルトキハ各師團ニ送付スヘキ品種數量ノ支出ヲ陸軍糧秣廠長ニ命令スヘシ

第十六條 師團長ハ前條ノ令達ヲ受ケタルトキハ經理部長ヲシテ其ノ品種數量ヲ各隊ハ配當セシムヘシ

經理部長ハ前項ニ依リ配當シタル部隊、品目、數量ヲ二月中ニ陸軍糧秣廠ニ通報シ現品ノ送付ヲ請求スヘシ

第十七條 陸軍糧秣廠長ハ第十五條第二項ノ命令ニ基キ前條ノ請求ニ應シ四月中ニ現品ヲ發送スヘシ

第十八條 陸軍被服廠ニ貯藏ノ戰用品ニシテ第十四條ニ依リ各師團ニ配當スル品種及數量ハ通常毎年十一月中陸軍大臣ヨリ各管理者ニ令達ス

經理局長ハ前項ノ令達ヲ受ケタルトキハ各師團ニ送付スヘキ品種數量ノ支出ヲ陸軍被服廠長ニ命令スヘシ

第十九條 師團長ハ前條ノ令達ヲ受ケタルトキハ經理部長ヲシテ其ノ品種數量ヲ各隊ニ配當セシムヘシ

各隊ハ前項ノ配當數ヲ翌年度所要被服現品中ニ算入シ軍隊經理規程ニ依リ請求ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 陸軍被服廠長ハ第十八條第二項ノ命令ニ基キ前條ノ請求ニ應シ現品ヲ發送スヘシ

第二十一條 戰用品ノ保管出納擔任者ハ其ノ保管スル戰用品ノ保全及出納ニ就キ一切ノ責ニ任ス

第二十二條 戰用品ハ管理者又ハ其ノ分任者ノ命令アルニ非ツレハ之ヲ出納スルコトヲ得ス

第二十三條 各部隊ニ於テ戰用品ヲ分割貯藏スルトキハ當該部隊長ニ於テ適宜監守者ヲ定ムヘシ

前項監守者ハ監守ノ戦用品ニ就キ保管ノ責ニ任ス

第二十四條 戦用品損敗ニ屬スルカ又ハ災害ニ罹リ滅失毀損シタル場合ニ於テハ保管出納擔任者ハ所屬部隊長ヲ經テ速ニ之ヲ當該管理者ニ報告スヘシ

監守者ノ監守スル戦用品ニテ前項ノ場合ニ在リテハ速ニ之ヲ保管出納擔任者ニ通報スルモノトス

第二十五條 戦用品出納簿ハ陸軍簿表規程被服品受拂簿ノ様式ニ依ルヘシ

第六章 検査

第三十六條 戦用品ノ検査ハ主トシテ左記各號ノ事項ヲ検査スルモノトス

- 一 戦用品準備ノ順序及程度適當ナルヤ
- 二 材料及製作方戦用品ニ適スルヤ
- 三 新陳交換ハ正確ニ實行シアルヤ
- 四 貯蔵及保全ノ方法適當ナルヤ
- 五 被服ノ大小、號數等ノ割合適當ナルヤ
- 六 保管出納正確ナルヤ

第三十七條 戦用品ノ検査ヲ分テ左ノ二種トス

- 一 定期検査
- 二 臨時検査

第二十八條 定期検査ハ管理者ニ於テ毎年一回之ヲ執行シ又ハ特ニ検査官ヲ命シ之ヲ施行セシムルモノトス

第二十九條 臨時検査ハ陸軍大臣臨時検査官ヲ命シ全國又ハ其ノ一部ニ就テ施行セシムルモノトス

第三十條 定期及臨時ノ検査終レハ其ノ成績ニ意見ヲ附シ管理者又ハ臨時検査官ヨリ陸軍大臣ニ報

告スヘシ

前項報告ニハ附表第二號及第三號ノ調査ヲ添付スヘシ

第三十一條 定期検査官検査ヲ終リタルトキハ戦用品出納簿ノ末尾ニ検査済ヲ證明シ署名捺印シテ保管出納擔任者ノ責任ヲ解除スヘシ

検査ノ結果責任ヲ問フ必要アリト認メタルトキハ其ノ處分權ヲ有スル場合ニハ自ラ之ヲ處分シ處分權ナキ場合ニハ其ノ處分權ヲ有スル者ニ之ヲ申告スヘシ

第三十二條 臺灣ニ於ケル戦用品ハ臺灣總督之ヲ管理シ其ノ取扱ハ本規則ニ準據スヘシ

(附表第一號)

戦用糧秣交換期限表

品目	交換期限	品目	交換期限
精米	二箇月	罐詰肉	三箇月
支米	一箇年	食糧	八箇月
大豆	六箇月	梅干	四箇年
桐油	八箇年	醬油	二箇年
重燒麵	一箇年	麵粉	二箇年

(附表第二號) 軍紙美濃紙

何師團戦用被服(何々)製作年次區分調査

品目	現在數	製作年次區分數													
		何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年				

備考 一、被服以外ノ戦用品ハ本様式ニ準シ調製スルモノトス
(附表第二號) 用紙染滌紙

明治何年度何師團戰用被服(何々)新陳交換數調査

品目	交換受入數				交換拂出數			
	何年製	何年製	何年製	何年製	何年製	何年製	何年製	何年製

備考 一、被服以外ノ戦用品ハ本様式ニ準シ調製スルモノトス

● 政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ陸軍物品會計規程ニ

據リ取扱フヘキモノ指定

明治三十四年二月
陸軍省達第十號

政府ノ保管ニ屬スル左記ノ物品ハ明治三十四年度ヨリ陸軍物品會計規程(第十九條)ニ據リ取扱フヘシ

- 一 軍法會議ニ於テ證據物件トシテ押收セル物品
- 一 陸軍監獄ニ於テ領置セル在監人ノ物品

●軍隊ニ於ケル通常兵備品ハ陸軍物品會計規程ニ據ルノ件

勅令第二十二號陸軍兵備品會計規則第三條通常兵備品ハ軍隊ニ於テモ(二十二年陸津第百二十八號)陸軍物品會計規程ニ據ル儀ト心得ヘシ

明治二十四年三月
陸軍省達第三十二號

●陸軍軍隊ノ糧食被服消耗品陳營具及馬匹ニ係ル

委任經理ノ件 明治二十三年三月
法律第二十七號

朕陸軍給與ニ關スル委任經理ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍軍隊ノ糧食被服消耗品陳營具及馬匹ニ係ル給與ハ其定額ヲ各隊ニ交付シ隊長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第二條 陸軍諸學校生徒ニ屬スル給與其他軍隊ニ準據スヘキ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ經理ヲ委任スルコトヲ得

第三條 經理委任ニ係ル給與ノ殘金ハ各其費目ニ屬スル積立金ト爲シ便宜之ヲ使用スルコトヲ得

第四條 經理委任ニ屬スル廢物賣却代及損壞遺失等ノ補償金ハ各其經理費ニ充ルコトヲ得

第五條 委任經理ニ係ル會計ノ檢査ハ會計檢査院法第十六條ニ依ル

第六條 此法律ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

●各官衙學校ニ於ケル金錢糧食被服其ノ他ノ物品ニ係ル

經理準據方

明治三十五年四月
陸軍省達第五十號

各官衙學校ニ於ケル金錢糧食被服其ノ他ノ物品ニ係ル經理ハ軍隊經理規程ニ準據シ委員ヲ設ケ之ヲ行フヘシ

明治三十三年陸達第十八號ハ之ヲ廢止ス
本達ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 戰時又ハ事變ニ際シ軍人軍屬ニ貸與スヘキ

防寒被服ノ貸與交付及返納方

明治三十七年二月
陸軍省達第十七號

戰時又ハ事變ニ際シ軍人軍屬ニ貸與スヘキ防寒被服ノ貸與交付及返納方等左ノ通定ム

第一條 海外戰地ニ在ル者ニハ冬季節防寒被服ヲ貸與ス

第二條 防寒被服ノ品種及貸與區分ハ附表ニ依ル

第三條 各部隊ノ防寒被服ハ陸軍被服廠又ハ貨物廠ヨリ當該部隊所要數ニ若干ノ豫備ヲ加ヘ豫メ當該
經理部ニ交付セシム

第四條 單獨者ノ防寒被服ハ十一月ヨリ二月迄ノ間ニ出發スル者ハ其ノ際貨物廠ヨリ受領シ戰地ニ在
ル者ハ兵站經理部又ハ最寄野戰軍(師團)經理部ニ請求スヘシ
經理部ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ豫備品ノ内ヲ以テ貸與シ若シ豫備品ナキトキハ貨物廠ニ
追送ヲ請求スヘシ

第五條 防寒被服ノ著用ヲ止メタルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ返納セシム

一 各部隊ニ在リテハ取纏ノ梱包ヲナシ之ニ返納證ヲ添ヘ當該經理部ニ返納シ經理部ハ之ヲ貨物廠
ニ還送スヘシ

二 單獨者ニ在リテハ返納證ヲ添ヘ最寄兵站司令部又ハ經理部ニ返納シ當該司令部又ハ經理部ハ取
纏メ梱包ヲナシ貨物廠ニ還送スヘシ但シ兵站司令部ハ兵站經理部ヲ經由スヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ毛織物及毛メリヤス製ノモノハ廢品ト雖必之ヲ還送スヘシ

(附表)

品目	軍人		軍區		分屬
	軍	人	軍	區	
毛布製外套一式	—	—	—	—	—
毛メリヤス製袴袴 袴下	—	—	—	—	—
混綿メリヤス製 同	ノ内	—	—	—	—
木小 絨製 同	ノ内	—	—	—	—
毛メリヤス製 手套	ノ内	—	—	—	—
混綿メリヤス製 同	ノ内	—	—	—	—
毛メリヤス製 靴下	ノ内	—	—	—	—
混綿メリヤス製 同	ノ内	—	—	—	—

備考 補助輸卒隊、後備隊、師團及兵站輜重附下士以下ニハ本小絨製又ハ混綿メリヤス製ノモノヲ其ノ他ノ者ニ在リテハ毛メリヤス製ノモノヲ貸與スルヲ例トス

第六節 海軍省

海軍兵備品會計規則

改正 明治二十六年五月 勅令第四十七號

明治二十三年三月 勅令第六十四號

朕海軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵備品會計規則

第一條 海軍兵備品トハ左ノ諸品ヲ云フ

- 一 兵器、彈藥、水雷及其附屬品
- 二 祕密圖書、測器海圖
- 三 艦營需品
- 四 被服、糧食
- 五 治療品

第二條 海軍兵備品ノ會計ハ本則ニ明文アルモノヲ除クノ外物品會計規則ニ依ル

第三條 (削除)

第四條 物品會計規則第十五條第十七條ニ依リ會計検査院ニ送付スル計算書中兵器彈藥水雷及其附屬品並祕密圖書、測器海圖ハ價格ノミヲ明記シ其數量ハ検査官ノ證明書ヲ以テ保證スヘシ

第五條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

●海軍兵備品會計規程

明治三十六年三月
海軍省達第百二十一號

改正

●明治三十六年七月
海達第七十一號

●明治三十六年十一月
海達第百三十七號

海軍兵備品會計規程左ノ通定ム

海軍兵備品會計規程

- 第一條 兵備品ノ保管出納ハ本規程ニ依ルヘシ
- 第二條 兵備品ヲ類別シテ備品、消耗品、材料品、貸與品ノ四類トス
消耗品ヲ分チテ二種トス日常用雜品其ノ他即時ニ消費スル物品ヲ第一種消耗品トシ其ノ品目ハ各兵備品規程ノ定ムル所ニ依ル第一種以外ノ物品ヲ總テ第二種消耗品トス
- 第三條 兵備品ノ保管出納ニ關シ兵備品出納命令官兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任ヲ置ク其ノ區分ハ別表ニ依ル
- 第四條 兵備品出納命令官ハ兵備品ニ關スル規程ニ依ルニ非スシテ出納ノ命令ヲ發スルコトヲ得ス
- 第五條 兵備品會計官吏ハ自己ノ理ニ保管スル兵備品及艦團其ノ他各部ニ供用貸出假出シタル兵備品ニ對シ總テ保管出納ノ責ニ任スヘシ
- 第六條 分任兵備品會計官吏ハ現ニ保管スル兵備品ニ對シ保管出納ノ責ニ任スヘシ
- 第七條 兵備品取扱主任ハ其ノ取扱ニ係ル兵備品ニ對シ保管受拂ノ責ニ任スヘシ
- 第八條 兵備品取扱主任兵備品使用者若ハ預リ者ハ第十八條第十九條第二十六條ノ場合ニ於テ其ノ取扱使用又ハ預リタル物品ノ損失ニ對シ正常ノ理由ナキモノハ辨償ノ責ニ任スヘシ
- 第九條 艦團其ノ他各部ノ長ハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ノ兵備品保管出納及受拂ヲ監督スヘシ

第十條 兵備品會計官吏艦團其ノ他各部ニ第二種消耗品ヲ供給スルトキハ之ヲ分任官渡トシ分任兵備品會計官吏ニ供給シ第一種消耗品ヲ供給スルトキハ之ヲ消耗拂トシ備品ヲ供給スルトキハ之ヲ供用トシ貸與品ヲ供給スルトキハ之ヲ貸出トシ材料品ヲ交付スルトキハ之ヲ假出トシ兵備品取扱主任ニ供給若ハ交付ス

第十一條 兵備品會計官吏ハ出納及受拂ノ證憑トナルヘキモノニ兵備品出納命令官ノ認印ヲ受ケ其ノ命令ト爲スヘシ但シ兵備品會計官吏兵備品出納命令官ト遠隔ノ地ニアルトキハ豫メ出納ノ命令ヲ受ケ現品ノ出納及受拂ヲ了シタル後之ヲ報告スヘシ

第十二條 兵備品會計官吏兵備品ヲ受入ル、トキ購入、生産、寄贈、殘材、殘屑物、復生品等ニ在リテハ納票ニ依リ還納、保管轉換、組替、更訂等ニ在リテハ該票ニ依リ受入ノ證憑ト爲スヘシ

第十三條 兵備品會計官吏代價不詳ノ兵備品ヲ受入ル、トキハ出納命令官ノ指揮ヲ受ケ見積代價ヲ附スヘシ但シ還納ニ係ル消耗品ニシテ新品ナルトキハ其ノ際原簿ニ記載アル平均代價ヲ附スヘシ
兵備品會計官吏還納品、修理改造品、其ノ他ノ古品ニシテ代價更正ノ必要アリト認ムルトキハ兵備品出納命令官ノ指揮ヲ受ケ相常代價ヲ附スヘシ

第十四條 兵備品會計官吏兵備品ノ保管轉換ヲ受ケタル場合ニ於テ使用ノ目的カ從前ノ名稱、數量稱呼、代價ヲ費用シ能ハサルモノアルトキハ其ノ際其ノ目的ニ適合スル名稱、數量稱呼、代價ニ更正スヘシ同一兵備品中組替ヲ爲ス場合亦之ニ準ス

第十五條 兵備品會計官吏生産ノ爲メ材料品ヲ假出スルトキハ假出票ヲ作り工場主任若ハ製造人又ハ兵備品取扱主任ノ預リ證ヲ徵スヘシ但シ自己ノ管理スル工場ニ於テ製造スルモノハ預リ證ヲ徵セザルモ妨ケナシ

第十六條 兵備品會計官吏生産品ヲ受入ルトキハ材料品假出票ヲ決算シ生産拂票ヲ作り拂出ヲ爲シ殘

餘アルトキハ戻入票ヲ作り受入ルヘシ

第十七條 兵備品會計官吏生産品ヲ受入ル、トキハ材料品代價ト加工費用トヲ併算シタル金額ヲ以テ其ノ代價ト爲スヘシ但シ加工費用ヲ算出スル能ハサルモノニ在リテハ單ニ材料品代價ノミニ依ルヘシ

第十八條 兵備品會計官吏其ノ保管ニ係ル兵備品ニシテ出納上剩餘ヲ生シタルトキハ納票ヲ作り事由ヲ附シ又出納上若ハ貯藏中減耗ヲ生シタルトキハ缺損票ヲ作り事由ヲ附シ出納命令官ノ指揮ヲ受ケ元受若ハ拂出ヲ爲スヘシ

第十九條 兵備品會計官吏將來使用ノ目的ナキ兵備品ヲ賣却、棄却、燒却若ハ通常物品ニ保管轉換スルトキハ其ノ品名數量事由ヲ記シ棄却燒却ノ場合ニ在リテハ各兵備品規程ニ定ムル所ノ證明書類ヲ添へ出納命令官ノ指揮ヲ受ケヘシ天災其ノ他ノ事故ニ因リ兵備品ノ亡失毀損、腐敗、損廢アリタルトキ亦同シ

第二十條 兵備品會計官吏兵備品ヲ拂出ストキ贈與、賣却拂ニ在リテハ領收證書分任官渡、保管轉換、消耗拂ニ在リテハ領收票、生産、組替、更訂、缺損拂ニ在リテハ該票、亡失、毀損、腐敗、損廢、棄却、燒却拂ニ在リテハ離權票ヲ以テ其ノ證憑ト爲スヘシ

第二十一條 兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品ヲ請求、送付、還納、領收スルトキハ各其ノ證票ヲ發スヘシ

第二十二條 艦團其ノ他各部ニ於テ兵備品ヲ直接購買シタルトキハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ請求票、領收票若ハ預リ證ヲ作り之ニ賣上人ノ納票ヲ添付シ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品會計官吏所在地隔絶ノ爲他ノ分任兵備品

會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ兵備品ヲ請求シ其ノ請求ヲ受ケタル分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任之ヲ供給シタルトキハ其ノ請求票、領收票ヲ添付シ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ還納ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 兵備品取扱主任材料品ヲ以テ新ニ兵備品ヲ製造シタルトキハ納票、生産拂票、請求票、領收票ヲ作り材料品ノ交付ヲ受ケタル兵備品會計官吏ニ送付シ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ其ノ保管若ハ取扱ニ係ル兵備品ニシテ第十二條第二十條ニ該當スルモノアルトキハ同條ニ準スヘシ

第二十六條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任其ノ保管若ハ取扱ニ係ル兵備品ニシテ第十八條第十九條ニ該當スルモノアルトキハ同條ニ準シ之カ處分ヲ爲スヘシ但シ所屬出納命令官ト遠隔ノ地ニ在ルカ又ハ至急處分ヲ要シ其ノ指揮ヲ受クルニ迫ナキトキニ限り所轄長ノ證明ヲ得テ之カ處分ヲ爲シ其ノ品名、數量、事由ヲ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ報告スヘシ

第二十七條 前條ノ場合ニ於テ兵備品取扱主任ハ其ノ證憑書類及關係書類ヲ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ分任兵備品會計官吏ハ所屬兵備品會計官吏ヨリ該物品價格ノ通知ヲ受ケ其ノ證憑書類ニ記入スヘシ

第二十八條 兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任出納及受拂ノ諸票ヲ作ルトキハ備品、消耗品、貸與品、材料品各別ニ調製スヘシ

第二十九條 兵備品會計官吏ハ所屬ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ兵備品ヲ供給シタルトキハ其ノ領收票ニ代價ヲ記入シ紙端ニ保管轉換ノ旨ヲ記シ署名捺印シ其ノ請求票ヲ添へ所屬兵備品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲スヘシ但シ第一種消耗品ハ此ノ限りニアラス

第三十條 兵備品會計官吏ハ所屬分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ヨリ兵備品ノ還納ヲ受ケタルトキハ其ノ還納票ノ紙端ニ請求ノ旨ヲ記シ署名捺印シ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ保管轉換ヲ受ケクヘシ

兵備品會計官吏第二十三條ニ依リ兵備品ノ還納ヲ受ケタルトキ請求ヲ爲シタル分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任カ他兵備品會計官吏所屬ナルトキハ前條ニ依リ所屬兵備品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲スヘシ

前條但書ノ規程ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十一條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品ノ拂出ヲ爲シ又ハ各部各人ノ使用ニ供スルトキハ各兵備品規程ニ於テ定ムル所ノ簿冊ニ受領者ノ印ヲ徴シ其ノ證憑ト爲スヘシ

第三十二條 兵備品取扱主任食器ノ給與若ハ拂下又ハ定備療用品ノ給與ニ依リ之カ拂出ヲナストキハ各人ノ領收證書ヲ徴シ所屬兵備品會計官吏ニ送付スヘシ

第三十三條 兵備品出納命令官第十九條第二十六條ニ於テハ經理局長ノ調査ヲ受ケヘシ

第三十四條 兵備品會計官吏ハ原簿、内譯簿ヲ備ヘ兵備品ノ出納及受拂ヲ登記スヘシ

分任兵備品會計官吏ハ原簿ヲ備ヘ兵備品ノ出納ヲ登記スヘシ

兵備品取扱主任ハ受拂簿ヲ備ヘ兵備品ノ受拂ヲ登記スヘシ

第三十五條 兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏ハ物品會計規則及會計検査院ニ於テ定ムル所ノ物品出納證明規程ニ依リ兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品出納計算書ヲ調製シ證憑書類及受拂供用

(受拂)代價仕譯書ヲ添へ年度經過後三箇月以内ニ分任兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品受拂報告書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ年度經過後一箇月以内ニ所屬兵備品會計官吏ニ出シ兵備品會計官吏ハ二箇月以内ニ之ヲ下検査官吏ニ出スヘシ

兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏物品出納證明上證憑書トシテ會計検査院ニ提出スヘキモノ、内物品出納證明規程第五條第一號ノ證憑書類ハ同號但書ニ基キ所轄長ノ保證書ヲ以テ代用スルコトヲ得

第三十六條 兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏交替ヲ爲シタルトキ又ハ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書若ハ報告書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テ他ノ官吏ニ命シ計算書若ハ報告書ヲ調製セシムルトキハ交替又ハ命ヲ受ケタル日ヨリ兵備品會計官吏ニ在リテハ三箇月以内ニ分任兵備品會計官吏ニ在リテハ一箇月以内ニ前條ニ準シ計算書若ハ報告書ヲ出スヘシ

兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏交替ノトキハ各別ニ計算書若ハ報告書ヲ調製セシ後任官吏一併ニ計算書若ハ報告書ヲ調製スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ末尾ニ各官吏執行ノ管理期ヲ記載シ後任官吏署名捺印スヘシ代理官ヲ命セラレタルトキ亦同シ

第三十七條 兵器彈藥水雷及其附屬品又ハ秘密測器海圖ヲ保管スル兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏ハ海軍兵備品會計規則第四條ニ依リ兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品出納計算書ヲ調製シ出納命令官ノ認定アル亡失、毀損、腐敗、損廢、減耗、棄却、燒却事由書及受拂供用(受拂)代價仕譯書檢閱官ノ證明書ヲ添へ分任兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品受拂報告書ヲ調製シ所轄長ノ認定アル亡失、毀損、腐敗、損廢、減耗、棄却、燒却事由書及檢閱官ノ證明書ヲ添へ第三十五條第三十六條ノ手續ニ依リ下検査官吏ニ出スヘシ

第三十八條 兵備品證明ニ關シ會計検査院へ送付スル書類ハ下検査官吏及經理局長ヲ經由スヘシ

第三十九條 本規程中出納受拂帳簿、諸證憑書式受拂供用(受拂)代價仕譯書及海軍兵備品會計規則第

四條出納計算書本規程第三十五條第三十七條受拂報告書、檢閱官ノ證明書、事由書式ハ別冊ニ依ル

附則

第四十條 本規程ハ明治三十六年四月二日ヨリ施行ス

(別表)

品名	出納命令官		兵備品會計官吏		分任兵備品會計官吏		兵備品取扱主任	
	造兵廠長	先任検査官	造兵部長	武庫主官	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長
兵器彈藥水雷及附屬品	造兵廠長	先任検査官	造兵部長	武庫主官	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長
秘密圖書	海軍省先任副官	海軍支庫主管	海軍省先任副官	海軍支庫主管	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長
	鎮守府參謀長	鎮守府後任副官	鎮守府參謀長	鎮守府後任副官	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長
測器海圖	水路部長	水路部圖誌科長	水路部長	水路部圖誌科長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長
	測器庫主管	水路部測器科長	測器庫主管	測器庫書記	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長
經營物品	需品庫主管	需品庫庫員	需品庫主管	需品庫庫員	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長
	要港部參謀長	要港部主計長	要港部參謀長	要港部主計長	砲術長、水雷長	航海長、機關長	砲術長、水雷長	航海長、機關長

經營物品ノ内	教育本部	教育本部部長	教育本部部長	先任將校分隊長
教育圖書	測器庫主管	測器庫書記	主計官	主計官
被服、糧食	衣糧科長	衣糧科員	主計官	主計官
治療品	院 長	藥品庫主管	主計官	主計官
備	本表中ノ分任兵備品會計官吏ハ兵備品取扱主任ニ相當スル職員ヲ置カサル限其ノ他各部ニ在リテハ所屬長部下判任官以上ニシテ命レ其ノ官職ト名ヲ所屬兵備品會計官吏ニ報告スヘシ	水雷艇ニ在リテハ秘密圖書、測器海圖、教育圖書ノ兵備品取扱主任ヲ水雷艇長ト爲スコトヲ得	本表中ノ印シ附シタル會計官吏ニハ辭令書ヲ附與ス	

(別冊略ス)

海軍通常物品會計規程

明治二十八年十月
海軍省達第百十七號

- 改正
- 明治二十九年一月 海達第一號
 - 明治三十一年五月 海達第三十一號
 - 明治三十三年四月 海達第四十三號
 - 明治三十五年九月 海達第九十二號
 - 明治三十七年二月 海達第四十三號
 - 明治三十八年三月 海達第六十號
 - 明治三十九年九月 海達第九十一號

海軍通常物品會計規程別冊ノ通改定ス

(別冊)

海軍通常物品會計規程

- 第一條 海軍通常物品トハ海軍兵備品ヲ除キタル各種ノ物品ヲ總稱ス
- 第二條 海軍通常物品ノ類別ハ第一號乙表ニ據ル
- 器具、機械、備品ニハ番號ヲ點付若ハ記入スヘシ但シ物品ノ形狀品質ニ依リ番號ヲ付シ難キモノハ此ノ限ニアラス
- 第三條 備品ノ定數及消耗品ノ年額ハ供給ヲ掌ル各廳長之ヲ定メ所管長官ノ認可ヲ經テ施行シ所管長官之ヲ認可シタルトキハ海軍大臣ニ届出ヘシ海軍大臣ニ直屬スル廳長ハ直ニ之ヲ定メ海軍大臣ニ届出ルモノトス
- 器具、機械ノ定數ハ各廳長之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 造船、造兵、火藥、建築ノ各材料、切手類、帳簿、木印、學術其他試驗用物品備品器具機械ノ修理用物品及授業ノ製作物品等ハ定數ヲ定メサルモ妨ケナシ
- 第四條 器具機械ヲ除ク外定數外臨時物品ヲ要スルトキ若クハ定數ヲ増減セントスルトキハ各廳長ハ所管長官ノ認可ヲ經テ施行シ所管長官之ヲ認可シタルトキハ海軍大臣ニ届出ヘシ海軍大臣ニ直屬スル廳長ハ直ニ之ヲ施行シ海軍大臣ニ届出ルモノトス

第五條 物品出納命令官ハ物品會計官吏ヲシテ毎年一回^{於テハ便宜ニ}於テハ便宜ニ供用中ノ器具又ハ備品ノ使用ニ適スルヤ否ヤヲ調査セシメ使用ニ適セサルモノハ引換交付スルモノトス但臨時引換ヲ要スルトキハ物品會計官吏ハ出納命令官ノ認可ヲ得テ引換交付スルコトヲ得

第六條 物品ヲ要求スル者ハ第二號物品受領票ニ式ノ如ク記載シ出納命令官ニ送付スヘシ
出納命令官前項ノ物品受領票ヲ調査シ交付スヘキモノト思惟スルトキハ檢印ノ上物品會計官吏ニ付ス物品會計官吏ハ現品ヲ支出シ要求者ヲシテ物品受領票ニ捺印セシメ之ト引換ニ交付スヘシ

第七條 物品會計官吏ハ保管物品缺乏シ又ハ支出ノ命令アル物品ヲ有セサルトキハ品名、數量及事由ヲ詳記シ出納命令官ノ調査ヲ經テ購買ノ手續ヲ爲スモノトス

第八條 物品會計官吏物品ヲ受入ントスルトキハ第三號物品納票ニ出納命令官ノ檢印ヲ受クヘシ

第九條 生産品又ハ他處ヨリ讓受品其他ノ物品ヲ受入ルトキハ概テ前條ノ手續ニ據ルヘシ但本條ニ據リ難キトキハ適宜ノ證券ヲ以テ代用スルコトヲ得

第十條 不用ニ屬スル物品、工業上生シタル殘屑、其他復生物ハ其用品取扱主任其他ニ於テ第四號物品還納票ニ式ノ如ク記載シ現品ト共ニ物品會計官吏ニ送付スヘシ物品會計官吏ハ出納命令官ノ檢印ヲ得タル後還納者ニ受領證ヲ交付シテ現品ヲ受入レ記載^{殘屑物ノ如キ代價明カナラハ見積代價ヲ付シ}ノ手續ヲ爲スヘシ

物品會計官吏ハ物品ノ還納ヲ受タルトキハ之ヲ調査シ毀損等アルトキハ其事由ヲ證明セシメ出納命令官ノ指揮ヲ受クヘシ

第十條乙 艦船取外シ物品ハ前條ニ依リ受入レ造船材料資金會計法第五條ニ據リ資金材料ニ組入ルヘシ

物品會計官吏前項ノ物品ヲ受入ルトキハ第三號物品納票ヲ用ユヘシ

第十一條 將來使用ノ見込ナク離權スヘキモノト思惟スル物品ハ物品會計官吏其品名、數量及離權ス

ヘキ事由ヲ記シ出納命令官ノ認可ヲ經テ賣却若クハ棄却ノ手續ヲ爲スヘシ
物品ヲ賣却若クハ棄却セントスルトキハ第九號物品離權票ニ出納命令官ノ檢印ヲ得タル後、棄却ノ場合ニ於テハ物品會計官吏記名捺印シ棄却ノ手續ヲ爲シ賣却ノ場合ニ於テハ買受人ヲシテ記名捺印セシメ代價納入ノ後現品ヲ交付スヘシ

第十二條 物品會計官吏ノ保管ニ屬スル物品ヲ臨時借用セントスルモノハ第五號物品借用票ニ式ノ如ク記載シ出納命令官ニ送付スヘシ出納命令官ハ之ヲ調査シ至當ト認メタルトキハ檢印シテ物品會計官吏ニ付ス物品會計官吏ハ物品借用票ト引換ニ現品ヲ貸與スヘシ

物品借用ノ期限ハ三箇月以上ニシテ必要トスルトキハ出納命令官ハ甲乙兩廳合意上其保管轉換ヲ爲サシムルコトヲ得不用ニ屬シタル兵備品ニシテ通常物品トシテ使用ニ適スル者亦同シ但器具機械ノ保管轉換ハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 甲 應ノ物品ヲ乙廳ニ於テ必要トスルトキハ出納命令官ハ甲乙兩廳合意上其保管轉換ヲ爲サシムルコトヲ得不用ニ屬シタル兵備品ニシテ通常物品トシテ使用ニ適スル者亦同シ但器具機械ノ保管轉換ハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

甲 科目 (造船材料資金ニ屬セザル)ニ屬スル工業用ノ材料物品 (建築用材料)ヲ一時乙科目ノ工業ニ使用ノ爲メ貸出サントスルトキハ第十三號書式甲科目物品出納原簿ノ貸出欄及第十四號書式乙科目物品出納原簿ノ受ノ部ニ借入ノ欄ヲ設ケテ之ニ記載シ而シテ乙科目ニ於テ其物品ヲ購入シタルトキハ拂ノ部ニ返戻ノ欄ヲ設ケテ之ニ記載スルト同時ニ生産ノ爲ノ標ニ其數量ヲ記載シ以テ甲科目ノ出納原簿ヘ戻入スルモノトス

前項ノ貸出及戻入ノトキハ物品會計官吏ニ於テ適宜ノ用紙ニ其品名數量理由等ヲ記載シ命令官ノ檢印ヲ受ケ之ヲ物品出納原簿ノ證券トシ工場ヨリ出ス所ノ第二號物品受領票ハ乙科目出納原簿ヨリ生産ノ爲メ拂出ストキノ證券トシ其代價ヲ記載スヘシ

甲 科目ニ屬スル物品ニ剩餘ヲ生シ將來使用ノ目的ナキモノニシテ海軍大臣ノ認許ヲ得之ヲ乙科目ノ

工業ニ移用セントスルトキハ甲乙トモ物品出納原簿ノ保管轉換欄ニ記載スルモノトス但物品會計官
吏ノ同一人ナル場合ニ於テハ轉記ノ欄ヲ設ケテ記載スヘシ

第十四條 保管ノ轉換ヲ爲スニハ甲應物品會計官吏ハ第七號物品送付票ト共ニ現品ヲ乙應物品會計官
吏ニ送付シ乙應物品會計官吏之ヲ受ケタルトキハ物品受領票ヲ甲應物品會計官吏ニ送付スヘシ

第十五條 經年其他ノ爲メ自然汚損若クハ減耗シタル物品アルトキハ專用者又ハ其用品取扱主任ヨリ
汚損品ニアリテハ第六號物品修理要求票ニ減耗品ニアリテハ第八號物品亡失毀損報告票ニ式ノ如ク
記載シ物品會計官吏ニ送付シ物品會計官吏ハ之ヲ出納命令官ニ報告スヘシ物品會計官吏ノ直接保管
ニ係ルモノハ該官吏直ニ之ヲ出納命令官ニ報告スルモノトス

前項ニ掲ケタル事由ニアラスシテ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ物品ノ保管者ヨリ其顛末ヲ詳記シタ
ル理由書ヲ調製シ前項ノ順序ニヨリ報告スヘシ

傳染病患者等ノ爲汚穢ニ屬シタル物品ニシテ醫官ニ於テ燒却スヘキモノト認定シタルトキハ其物品
所用處ニ於テ臨機ノ處分ヲナスコトヲ得此場合ニ於テハ其物品ノ保管者ヨリ顛末ヲ詳記セル醫官ノ
證明書ヲ添ヘ物品會計官吏ニ報告シ物品會計官吏ハ之ヲ出納命令官ニ報告スヘシ

第十六條 出納命令官前條ノ亡失毀損ニシテ正當ノ理由アルモノト認定スルトキハ物品會計官吏ヲシ
テ離權若クハ修理ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十七條 物品會計官吏ハ第十五條ノ事實ヲ調査シ辨償ノ責ナシト思惟スルトキハ物品會計規則ニ依
リ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第十八條 出納命令官第十五條第二項ノ報告ニ接シタルトキハ當該官吏保管上ノ適否亡失毀損等ノ事
實ヲ審査シ其報告ニ意見ヲ附シ鎮守府經理部ヲ經テ^{大臣直屬}海軍大臣ニ具申スヘシ

第十九條 工場ニ於テ使用ノ器具機械及附屬物品ノ取扱主任ハ科長若クハ主幹トシ所屬長之ヲ命スヘ
シ但場合ニヨリ各工場長ヲシテ取扱主任トナスコトヲ得

應中等ノ共用ニ係ル物品ノ取扱主任ハ所屬長其屬員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第二十條 物品ノ專用者又ハ取扱主任若クハ借用者ハ其保管又ハ使用ノ物品亡失毀損ニ對シ正當ノ理
由ナキモノハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第二十一條 物品會計規則第十條ノ物品出納簿ハ第十號第十一號及第十二號様式ニ依リ又類別及品目
ノ記帳方ハ第一號表ニ依ル

第二十二條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ二年度經過後二箇月以内ニ前年度間ノ
物品出納計算書ヲ調製シ證據書類ト共ニ下検査官吏ニ送付スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキハ前任官吏、死亡其他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサ
ルトキハ臨時命セラレタル官吏、計算書ヲ作り交替又ハ命ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ前項ニ準
シテ下検査官吏ニ送付スヘシ

物品會計官吏交替ノトキハ便宜ニヨリ別ニ計算書ヲ調製セシ後任官吏一併ニ計算書ヲ調製シ末尾ニ
各署名捺印シ證明スルコトヲ得物品會計官吏事故アリ代理官ヲ命セラレタルトキ亦同シ

第二十三條 物品出納計算書ノ書式及證明ニ關スル事項ハ三十四年四月會計検査院達第一號物品出納
證明規程(及二十七年十二月會計検査院達第二十九號官設鐵道用品資金所屬物品出納證明規程)ニ依
ル

第二十四條 各廳ニ於テ物品ノ證明上ニ關シ會計検査院へ報告又ハ答辯書ヲ送付スルニハ物品出納證
明規程第九條ニヨリ下検査官吏ヲ經由スヘシ

第二十五條 (削除)

第二十六條 此規程ニ依リ下検査官吏ヨリ會計検査院ニ送付スル書類ハ經理局ヲ經由スヘシ

(第一號乃至第十一號表式略ス)

● 通常物品出納命令官會計官吏表

明治三十六年十一月
海軍省達第百三十一號

改正

● 明治三十七年三月
海軍第六十五號

明治三十三年五月達第八十一號通常物品出納命令官會計官吏別表ノ通改正ス

(別表)

通常物品出納命令官會計官吏表

品名	出納命令官	會計官吏
本省管内各廳々用物品及囚徒費所屬物品	● 經理局員	● 經理局員
● 經理局建築用物品	● 警務局員	● 警務局員
● 警務局治療物品	● 本省先任副官	● 文庫主管
東京所在各廳普通圖書(學校練習所ヲ除ク)	● 造兵廠會計部長	● 材料庫主管
造兵廠所屬物品 廢兵器	● 水路部部長	● 會計課長
水路部所屬物品	● 下瀬火藥製造所長	● 下瀬火藥製造所書記
下瀬火藥製造所々屬物品	● 經理部第二課長	● 經理部課長
鎮守府所在各廳(學校練習所ヲ除ク)廳費所屬物品 及他ノ主管ニ關セサル物品	● 建築科長	● 建築科々員
● 經理部建築用物品	● 衣糧科長	● 衣糧科小員
糧食費及被服費所屬物品	● 港務部長	● 港務部主計長
軍港費所屬物品		

工廠金所屬物品	工廠會計部長	材料庫主管
工廠(艦艇費所屬物品ヲ除ク)及修理工場所屬物品		工場庫主管
廢兵器 艦艇取外シ物品 廢船舩		
艦艇費所屬物品	需品庫主管	需品庫各員
鎮守府所在各艦艇者致所屬物品	病院長	藥品庫主管
測器庫測器致所屬物品	測器庫主管	測器庫書記
囚徒費所屬物品	監獄長	監獄書記
學校醫費及患者費所屬物品(機關學校患者費所屬物品ヲ除ク)	學校長	主計
練習所應費所屬物品	練習所長	主計(練習所)
探炭所應費及探炭費所屬物品	探炭所長	主計
臺灣總督府海軍幕僚總費所屬物品	海軍幕僚參謀長	海軍幕僚書記
要港部患者費及傳書館費所屬物品	要港部主計長	要港部上等筆記
要港部軍港要港費所屬物品	知港事 參謀長 馬公要港部	知港事所屬准士官 要港部上等筆記
大湊水雷團軍港要港費所屬物品	大湊水雷團團長	大湊水雷團主計長
長崎數隊軍港要港費所屬物品	數隊司令	主計長

●艦營需品經理規程

明治三十六年九月
海軍省達第九十三號

艦營需品經理規程ノ通定ム

艦營需品經理規程

- 第一條 艦營需品ト稱スルハ艦團其ノ他各部ニ供給スル物品ヲ謂フ其ノ品名ハ艦營需品定額表及艦營需品貸與品表ニ依ル
- 艦營需品ヲ備品消耗品材料及貸與品ニ區分シ消耗品中別表第一號ニ掲クルモノヲ第二種消耗品トシ其ノ他ヲ第一種消耗品トス
- 第二條 本規程ニ於テ艦團其ノ他各部ト稱スルハ艦船海兵團水雷團要港部砲術練習所水雷術練習所其ノ他軍隊組織ノ部隊並學校機關術練習所主計官練習所及港務部所屬ノ船艇ヲ謂フ
- 第三條 備品消耗品ハ艦營需品定額表ニ依リ貸與品ハ艦營需品貸與品表ニ依リ供給ス
- 材料品ハ備品ヲ製作スルニ必要ナルトキニ限り交付ス
- 第四條 艦團其ノ他各部ニ要スル艦營需品ハ所管若ハ在籍鎮守府兵備品會計官吏之ヲ供給シ鎮守府所管ニ非サル應ニ要スル艦營需品ハ最寄鎮守府兵備品會計官吏之ヲ供給ス
- 鎮守府兵備品會計官吏ハ他鎮守府在籍ノ艦船ニ艦營需品ヲ供給スルコトヲ得
- 要港部及需品支庫兵備品會計官吏ハ艦船在籍ノ何レヲ問ハス艦營需品ヲ供給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該艦船ノ在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲スヘシ
- 第五條 艦營需品定額表艦營需品貸與品表並艦營需品ノ制式及品質(石炭ヲ除ク)ハ艦政本部長ノ定ムル所ニ依ル但シ制式ナキモノハ適宜ノ品種ニ依リ制式ニ依リ難キモノアルトキハ圖案ヲ附シ艦政本部長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第六條 艦政本部長ハ毎年度艦團其ノ他各部ニ供給スル艦營需品ノ主管別金額ヲ定メ之ヲ鎮守府艦政

部長ニ通知スヘシ

第七條 鎮守府艦政部長艦營需品ノ品種及數量ニ増減更訂ノ必要ヲ認メタルトキハ艦政本部長ニ請求スヘシ

第八條 鎮守府艦政部長第六條ノ主管別金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ鎮守府兵備品出納命令官ニ移牒スルト同時ニ之ヲ艦團其ノ他各部ノ長(艦隊司令官及要港部ニ在テハ參謀長)ニ告知スヘシ

第九條 鎮守府艦政部長艦團其ノ他各部ノ主管別金額増減ノ必要ヲ認メタルトキハ艦政本部長ニ請求スヘシ

前項ノ場合ニ於テ同一艦團其ノ他各部ノ主管別金額ニ在テハ鎮守府艦政部長之ヲ増減シ艦政本部長ニ報告スヘシ但シ備品ト消耗品ト及消耗品中石炭ト他ノ消耗品トヲ増減スルコトヲ得ス

第十條 艦團其ノ他各部ノ長ハ艦營需品定額表及主管別金額ノ範圍内ニ於テ所要ノ艦營需品ヲ處辨スヘシ但シ艦營需品定額表ニ増減更訂ノ必要ヲ認メタルトキ又ハ主管別金額増減ノ必要アルトキハ其ノ増減更訂ヲ兵備品出納命令官ヲ經テ鎮守府艦政部長ニ請求スルコトヲ得

第十一條 分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任ハ主管別金額簿(書式第一號)ヲ設備シ主管別金額ノ計算ヲ明瞭ナラシムヘシ

第十二條 分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任備品及消耗品ノ受入若ハ修理ヲ要スルトキハ請求票ニ主管別金額簿ヲ添付シ兵備品會計官吏ニ請求スヘシ

兵備品取扱主任材料品ノ受入ヲ要スルトキハ預リ證ニ製作品ノ品名數量及製作ノ期限ヲ記入シ兵備品會計官吏ニ請求スヘシ

兵備品取扱主任貸與品ヲ要スルトキハ借用票ニ使用ノ目的及借用期間ヲ記入シ兵備品會計官吏ニ請求スヘシ

第十三條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品會計官吏隔絶ノ爲メ他ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ艦營需品ヲ請求スルトキハ主管別金額簿ノ謄本ヲ添付請求シ請求ヲ受ケタル分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任之ヲ供給シタルトキハ自己ノ主管別金額簿ノ謄本ニ請求者ノ主管別金額簿ノ謄本ヲ添ヘ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ供給金額ノ更訂ヲ請求スヘシ

第十四條 航海ノ役務ニ服セサル艦船及團部ニ於テ特別ノ場合ヲ除クノ外主管別金額ノ凡ソ三分ノ一以上ノ艦營需品ヲ一時ニ請求スルコトヲ得ス

第十五條 兩年度ニ跨リ航海スル艦船又ハ遠隔ノ地ニ在ル團部ニ於テハ兵備品會計官吏ニ艦營需品ノ繰上渡ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ兵備品會計官吏繰上渡ヲ爲シタルトキハ其ノ品名數量代價ヲ鎮守府艦政部長ヲ經テ艦政本部長ニ報告スヘシ

第十六條 別表第二號ノ艦營需品ハ艦團其ノ他各部ニ於テ直接購買スヘシ其ノ數量ハ艦營需品定額表ニ依ル

前項ノ艦營需品ハ兵備品會計規程第二十二條ノ手續ヲ爲サス其ノ供給ハ主管別金額ノ範圍外トス第十七條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任艦營需品購買ノ必要アルトキハ所轄長ニ請求シ該長ハ主計長(主計長アラサルトキハ現金前渡官吏)ヲシテ之ヲ購買セシムヘシ

第十八條 在外艦船ニ於テ別表第二號以外ノ艦營需品ヲ要スルトキ又ハ規定ノ艦營需品ヲ得ル能ハサルトキハ適宜購買スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ品名數量代價及事由ヲ詳記シ兵備品會計官吏ニ報告シ兵備品會計官吏ハ鎮守府艦政部長ヲ經テ艦政本部長ニ出スヘシ

第十九條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任艦營需品中不用ニ屬シタルモノ又ハ毀損品アルトキハ何レノ海軍需品庫ヲ問ハス之ヲ還納スルコトヲ得

第二十條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任空樽空罎ノ如キ用品ヲ生シタルトキハ海軍需品

庫ニ納付シ海軍需品庫隔絶ノ爲メ納付ノ便ヲ得ス保管シ難キ場合ハ所轄長ノ承認ヲ得テ適宜ノ處分ヲ爲シ其ノ品名及數量ヲ海軍需品庫ニ報告スヘシ

第二十一條 鎮守府兵備品出納命令官ハ艦團其ノ他各部ノ主管別金額簿(書式第二號)ヲ設備スヘシ

第二十二條 分任兵備品會計官吏ハ消耗品拂出簿(書式第三號)兵備品取扱主任ハ兵備品供用簿貸與品貸出簿(書式第四號)及消耗品拂出簿ヲ設備スヘシ

第二十三條 兵備品會計官吏艦營需品ヲ供給シタルトキハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ノ主管別金額簿ニ供給金額ヲ登記シ又第十三條ニ依リ主管別金額簿ノ謄本ヲ受ケタルトキハ供給金額ヲ甲乙更訂シ各分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ返付スヘシ

第二十四條 兵備品會計官吏他所屬ノ兵備品取扱主任ニ第一種消耗品ヲ供給シ若ハ其ノ保管ニ係ル備品ノ修理ヲ爲シタルトキハ該兵備品取扱主任所屬ノ兵備品會計官吏ニ其ノ代價ヲ通知スヘシ

第二十五條 兵備品會計官吏在庫品中廢物ニ屬シタルモノ又ハ毀損品ニシテ使用ノ見込アルモノハ修理若ハ改造シ其ノ使用ニ堪ヘサルモノハ他ノ物品ニ換用シ或ハ不用品トシテ處分スヘシ

第二十六條 兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任其ノ保管若ハ取扱ニ係ル艦營需品ノ亡失毀損廢敗損廢アリタルトキ又ハ棄却燒却ヲ要スルトキハ證明書(書式第五號)ヲ作り兵備品出納命令官ニ出スヘシ

第二十七條 兵備品出納命令官ハ毎年度經過後五箇月以内ニ主管別金額決算表ヲ兵備品會計官吏ハ同期間ニ艦營需品出納報告ヲ調製シ鎮守府艦政部長ヲ經由シ艦政本部長ニ出スヘシ

第二十八條 分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任ハ毎年度經過後三箇月以内ニ備品消耗品受拂現況報告ヲ調製シ兵備品會計官吏ヲ經テ兵備品出納命令官ニ送付スヘシ兵備品出納命令官ハ之ヲ調査シ鎮守府艦政部長ヲ經テ艦政本部長ニ出スヘシ

第二十九條 本規程中艦營需品定額表ノ増減更訂及主管別金額増減請求書主管別金額決算表艦營需品出納報告備品消耗品受拂現況報告ノ書式ハ艦政本部長ノ定ムル所ニ依ル

第三十條 常備艦隊司令長官司令官及附屬驅逐隊司令官艦營需品ノ供給ハ横須賀鎮守府兵備品會計官吏ノ所掌トス

附則

本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

(別表及書式略ス)

●海軍雜役船舟還納及廢却手續

明治三十五年九月
海軍省達第八十三號

改正

●明治三十五年十一月
●明治三十六年六月
海軍省達第九號
海軍省達第六十八號

雜役船舟還納及廢却手續左ノ通相定メ雜役船舟還納及賣却手續ヲ廢ス

雜役船舟還納及廢却手續

第一條 艦團部校所附屬ノ船舟不用ニ屬シタルトキハ其引換ニ因リタルモノハ直ニ其他ハ理由ヲ記シ本籍鎮守府司令長官ノ承認ヲ受ケ(所屬長官アルモノ)附屬物ト共ニ該鎮守府ニ屬スル海軍港務部ニ還納スヘシ

第二條 海軍港務部長還納船舟ヲ受領シタルトキハ直ニ其還納元艦團部校所名、船種、船名若ハ公稱番號、公稱番號ナキモノハ其要領(長幅、深、排水量等)還納ノ理由及受領ノ月日ヲ記シ附屬物目錄(艦船ヨリ還納ノ分ニ就テハ評定價格トモ)ヲ添ヘ所管鎮守府ヲ經テ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第三條 海軍港務部長ハ還納船舟ノ保管出納ヲ掌リ適宜帳簿ヲ備ヘ船舟及其附屬物ノ受授ヲ明ニスヘシ

第四條 還納船舟ハ鎮守府司令長官所屬海軍造船廠長ヲシテ總テ之ヲ検査セシメ將來使用ノ見込ナク且修理ヲ加フルノ價值ナキモノハ之ヲ廢船舟トナシ其内造船材料ニ使用シ得ルト認ムルモノハ同資金属材料ニ組入レシメ其他ハ同廠ヲシテ賣却處分セシメ其旨海軍大臣ニ報告スヘシ但排水量百噸以上ノモノ又ハ小蒸汽船ニ就テハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第五條 造船廠長前條ニ依リ廢船舟及附屬物ヲ造船材料ニ組入レタルトキハ其組入價格ヲ又賣却處分シタルトキハ其賣却代價及豫定價格ヲ一艘毎ニ明記シ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第六條 鎮守府司令長官所屬海軍港務部保管ノ船舟又ハ第九條ニ依リ團部長ニ保管セシメタル船舟ヲ

艦團部校所ニ附屬セシメントスルトキハ理由ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ但一時ノ使用ハ鎮守府司令長官之ヲ許可シ其旨海軍大臣ニ報告スヘシ

第七條 海軍港務部長保管ノ船舟ヲ其部ニ附屬セシメラレ若クハ一時使用ヲ許サレ又ハ他ノ艦團部校所ニ引渡シ或ハ廢船舟トシテ海軍造船廠ニ引渡シタルトキハ其理由及受授月日ヲ記シ直ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ一時使用ノモノ返納アリタルトキ亦同シ

第八條 艦團部校所長其所屬若クハ保管ノ船舟ヲ亡失シタルトキハ其理由ヲ具シ本籍鎮守府司令長官ニ報告シ(所屬長官アルモノ)鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ附屬物ヲ亡失シタル場合亦同シ(ハ其長官ヲ經テ)

第九條 還納ノ船舟ニシテ遠隔ノ地ニ在リ本籍鎮守府海軍港務部ニ回送シ難ク又ハ回送スルヲ不利益トスルトキハ鎮守府司令長官ハ其船舟所屬ノ團部長ヲシテ海軍港務部長ニ代テ之ヲ保管セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ第二條ノ價格ノ評定第四條ノ檢査認定並賣却處分ヲモ亦當該團部長ヲシテ代テ爲サシムルコトヲ得但之ニ對スル整理及報告ハ總テ前各條ノ定ムル所ニ依ル

●教育圖書供給規程

明治三十六年十一月
海軍省達第四百四十四號

教育圖書供給規程左ノ通定ム

教育圖書供給規程

第一條 本規程ニ於テ教育圖書ト稱スルハ艦團部ニ於テ要スル教育圖書ヲ謂フ
艦團部ト稱スルハ艦、團、要港部、砲術練習所、水雷術練習所ヲ謂フ
教育圖書ハ備品及貸與品トス

第二條 教育圖書ハ海軍教育本部ヨリ海軍測器庫ニ供給シ所要ノ向ヘ配布セシム

第三條 教育本部長教育圖書ヲ新ニ艦團部ヘ配布セントスルトキハ之ニ配布部數表ヲ添ヘ海軍測器庫ニ供給ス

海軍測器庫ハ前項ノ供給ヲ受ケタルトキハ配布表ニ依リ速ニ之ヲ艦團部ヘ供給スヘシ
第四條 艦團部ニ於テ要スル教育圖書ハ所管若ハ在籍鎮守府海軍測器庫之ヲ供給ス但シ練習所ニ對シテハ横須賀海軍測器庫之ヲ供給ス

海軍測器庫ハ他鎮守府在籍ノ艦船ニ教育圖書ヲ供給スルコトヲ得

第五條 海軍部外ニ於テ教育圖書ヲ要スルモノアルトキハ教育本部長ノ承認ヲ得テ貸渡スコトヲ得

第六條 艦團部ニ於テ教育圖書ノ借入ヲ要スルトキハ借用證ニ使用ノ目的及借用期限ヲ記入シ海軍測器庫ニ請求スヘシ

第七條 教育圖書取扱主任ハ毎年十一月十五日ニ於ケル現在圖書ノ書名及番號ヲ甲號書式ニ依リ同月末日マテ當該海軍測器庫ニ報告スヘシ

海軍測器庫ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ其ノ帳簿ニ照合シ更ニ十一月十五日ニ於テ調査シタル在庫數ヲ合シ乙號書式ニ依リ十二月末日マテニ教育本部ニ報告スヘシ

第八條 艦團部ニ於テ教育圖書ノ不用ニ歸シタルモノアルトキハ之ヲ當該海軍測器庫ニ返附スヘシ

附則

本規程ハ明治三十六年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

(略式略ス)

● 治療品經理規程

明治三十六年十一月
海軍省達第四百四十一號

治療品經理規程別冊ノ通定ム

治療品經理規程

- 第一條 本規程ニ於テ治療品ト稱スルハ治療及衛生試驗ニ關スル物品並其ノ修理用品ヲ云フ
- 第二條 治療品ヲ區別シテ療用品及藥品トシ療用品ヲ更ニ分テテ定備療用品及消耗療用品トス
定備療用品トハ治療用定備品、試驗用定備品、修理用定備品ヲ云ヒ消耗療用品トハ治療用消耗品、試驗用消耗品、修理用消耗品ヲ云ヒ藥品トハ治療用藥品、試驗用藥品ヲ云フ
- 第三條 定備療用品ハ備品ノ取扱トシ消耗療用品及藥品ハ第一種消耗品ノ取扱トス但シ貸與ノ爲メ備フル療用品ハ貸與品、又生産ノ爲メ支出スル消耗療用品及藥品ハ材料品ノ取扱トス
- 第四條 艦團其ノ他各部^{驅逐艦、病院}ニ備フル治療品ノ品名、定數、年額ハ甲號表ニ、驅逐艦ニ備フル治療品ノ品名、定數、年額ハ乙號表ニ、病院ニ備フル治療品ノ品名、定數ハ丙號表ニ、療品庫ニ備フル貸與療用品ノ品名ハ丁號表ニ依ル
- 第五條 治療用定備品及貸與療用品中入附品目ノ明細ハ戊號表ニ、又治療用藥品中藥局方ニ記載ナキ製劑ノ成分含量ハ己號表ニ依ル
- 第五條 兵備品會計官吏ハ甲、乙、丙、丁號表ニ掲クル治療品及戊號表ニ掲クル各品目中消耗療用品並藥品ヲ適宜常備シ供給上差支ナキヲ期スヘシ
- 第六條 艦團其ノ他各部ニ要スル治療品ハ在籍若ハ所管鎮守府兵備品會計官吏之ヲ供給シ鎮守府所管ニアラサル應ニ要スル治療品ハ最寄鎮守府兵備品會計官吏之ヲ供給ス
- 第七條 兵備品會計官吏治療用定備品ヲ供給スルノ際其ノ品目員數戊號表ト一致セサルモノアルトキハ特ニ品目明細表ヲ作り添付スヘシ

第八條 艦團其ノ他各部^{病院ヲ}ニ要スル藥品ハ甲第三、四號表、乙第三、四號表ニ掲クル容器ヲ用ヒ供給スルモノトス若シ請求量額ニ端數アリテ其ノ端數容器^{容器ニ大小アルトキハ小容器}ノ量額ニ達セサルトキハ該容器ノ全量ヲ供給スルコトヲ得

第九條 兵備品會計官吏ハ他鎮守府在籍ノ艦船ニ治療品ヲ供給スルコトヲ得若シ供給後該品補填ノ必要アルトキハ其ノ艦船在籍ノ鎮守府兵備品會計官吏ニ對シ戻入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十條 兵備品會計官吏ハ貯藏ノ治療品缺乏若ハ過剩ヲ生シタルトキハ相互ニ保管轉換ヲ爲スコトヲ得

第十一條 出納命令官ハ艦船航海若ハ流行病發生其ノ他特ニ必要ノ際艦團其ノ他各部ニ於テ規定外又ハ定額外ノ治療品ヲ要スルハ定額外ノ治療品ヲ要スルトキハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ供給セシムルコトヲ得

第十二條 出納命令官ハ要港部、兵學校、大湊水雷團、監獄ニ於テ規定外又ハ定額外ノ治療品ヲ要スルトキハ第十一條一項ノ手續ニ依ラス之ヲ供給セシムルコトヲ得但シ本條ニ依ル規定外品ノ供給ハ丙號表ニ掲クル品種ニ限ル

第十三條 艦船出航ニ際シ翌年度ノ治療用消耗品及藥品ノ受入ヲ要スルトキハ之ヲ供給スルコトヲ得

第十四條 兵備品取扱主任治療品ノ受入ヲ要スルトキハ兵備品會計官吏ニ請求スヘシ

第十五條 艦船鎮守府隔絶ノ地ニ在テ治療品缺乏ニシタルトキハ最寄艦團其ノ他各部ノ兵備品取扱主任ニ

年額ノ規定アル治療品ハ治療品受拂現況報告書提出後之ヲ請求スルヲ例トス

之ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 艦船外國航海中又ハ鎮守府隔絶ノ地ニ在テ臨時治療品ヲ要シ成規ノ請求ヲ爲ス暇ナキトキハ直接購買スルコトヲ得但シ規定外ノ治療品ハ丙號表ニ掲クル品種ノ外購買スルコトヲ得ス

第十七條 第十五條ノ場合ニ於テ消耗治療用品若ハ藥品ノ供給ヲ爲シ且兵備品會計規程ニ依リ所屬兵備品會計官吏ニ對シ還納ノ手續ヲ了シタルトキ其ノ請求ヲ爲シタル艦船他鎮守府在籍ナルトキハ該兵備品會計官吏第十條ニ準シ報告ヲ爲スヘシ

第十八條 兵備品會計官吏ハ艦船其ノ籍ヲ轉シタルトキハ在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ對シ該艦船備附定備療用品ノ保管轉換ヲ爲スヘシ

第十九條 艦團其ノ他各部ニ於テ軍醫官ノ定員若ハ配置ヲ廢シタルトキハ兵備品取扱主任現在治療品ヲ還納スヘシ

第二十條 艦船在籍鎮守府隔絶ノ地ニ在テ治療品ノ還納ヲ要スルトキハ兵備品取扱主任便宜之ヲ他鎮守府兵備品會計官吏ニ還納スルコトヲ得

第二十一條 艦團其ノ他各部ニ於テ療用品ノ修理ヲ要スルトキハ兵備品會計官吏ニ之ヲ請求スヘシ但シ軍港外ノ地ニ在テ至急修理ヲ要スルトキハ之ヲ其ノ地ノ請負人ニ命スルコトヲ得

第二十二條 兵備品取扱主任ハ治療品中天災其ノ他ノ事故ニ由リ亡失毀損シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル届書^{第一號書ニ依ル}ヲ作り所轄長ノ證明ヲ得所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ出スヘシ傳染病汚染ノ爲メ治療品ヲ燒却シタルトキ亦同シ

第二十三條 兵備品取扱主任ハ患者兵役ヲ免セラレ歸郷スル際軍醫官ニ於テ治療品ノ携帶ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ給與スルコトヲ得但シ定備療用品ヲ給與シタルトキハ其ノ品名、數量並事由ヲ詳記シタル届書第一號書式ニ依ルヲ作り所轄長ノ證明ヲ得之ニ本人ノ領收證書ヲ添へ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ出スヘシ

前項ノ規定ハ職工其ノ他ノ者ニシテ公務ニ原因スル患者ニ適用スルコトヲ得

第二十四條 兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任出納及受拂ノ諸證書ヲ作ラントスルトキハ消耗療用品及藥品ヲ各別紙ニ記シ調製スヘシ

第二十五條 兵備品會計官吏ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル治療品給與、亡失毀損、燒却、賣却及殘高報告書第二號書式ニ依ルヲ調製シ出納命令官ヲ經テ翌年二月末日迄ニ海軍省醫務局長ニ出スヘシ

第二十六條 兵備品取扱主任ハ毎年四月二十日迄ニ前年度ノ治療品受拂現況報告書第三號書式ニ依ルヲ調製シ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ出スヘシ但シ第十九條ノ場合ニ於テハ其ノ際調製シ受拂簿ヲ添へ出スヘシ

第二十七條 兵備品取扱主任ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル治療品消費報告書第四號書式ニ依ルヲ調製シ翌年一月二十日迄ニ所屬出納命令官ニ出シ出納命令官ハ之ヲ審査シ二月末日迄ニ海軍省醫務局長ニ出スヘシ但シ第十九條ノ場合ニ於テハ其ノ際調製シ出スヘシ

第二十八條 兵備品取扱主任交替ノトキハ帳簿、證券書類並現在治療品ヲ授受シ現在品引繼書第五號書式ニ依ル一通ヲ調製シテ之ニ各自署名捺印シ後任者之ヲ保管スヘシ但シ受拂現況報告書及消費報告書ハ其ノ際調製セス後任者一併ニ調製シ之ニ各取扱主任ノ管理期ヲ記載スヘシ代理官ヲ命セラレタルトキ亦同シ

附則

第二十九條 本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行シ治療品出納規程ハ同日ヨリ之ヲ廢止ス
(表及書式略ス)

● 沒收及領置金錢物品出納規程

明治二十九年十一月
海軍省通第一號

沒收及領置金錢物品出納規程左ノ通改正ス

沒收及領置金錢物品出納規程

第一條 海軍刑法、普通刑法ニ依リ沒收スル金錢物品及海軍監獄則ニ依リ領置若クハ沒收スル金錢物品ノ出納ハ此規程ニ依ル

第二條 金錢出納監督官、物品出納命令官及金錢物品出納官吏ハ第一表ニ依ル

第三條 出納官吏ハ金錢及物品ノ出納簿ヲ設ケ其受拂ヲ記載スヘシ

第四條 出納官吏金錢物品ヲ出納スルトキハ第三表中當該ノ用票ニ出納監督官若クハ出納命令官ノ檢印ヲ得テ出納スヘシ但受取人記名調印スルコト能ハサル場合ニハ其理由ヲ記載セル出納官吏ノ代用證ヲ以テ支出スルコトヲ得

第五條 出納官吏ハ其執行シタル出納ニ對シ經理局ノ檢査判決ヲ受クル爲メ年度經過後二箇月以内ニ出納計算書及第二表書式什譯書ヲ作り證憑書類ヲ添ヘ當該鎮守府監督部ヲ經テ
東軍法會議出 經理局 納官吏ハ直接
ニ送付スヘシ但物品出納ノ證憑書類トシテ提出スヘキモノハ會計檢査院ニ於テ定ムルトコロノ物品出納證明規程第三條但書ニ基キ第四表書式保證書ヲ以テ代用スルコトヲ得

出納官吏交替ヲナシタルトキハ前任官吏、死亡其他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ臨時命セラレタル官吏、計算書ヲ作り交替又ハ命ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ出納官吏交替ノトキ物品出納計算書ハ便宜ニ依リ後任官吏一併ニ之レヲ調製シ其ノ管理期ヲ各別ニ掲記シ各署名捺印シ證明スルコトヲ得出納官吏事故アリ代理官ヲ命セラレタルトキ亦同シ

第六條 天災其他ノ事故ニ依リ保管ノ金錢物品ニ損失ヲ生シタルトキハ出納官吏其事由ヲ詳記シ出納

監督官若クハ出納命令官ニ報告シ該官ハ之ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ此場合ニ於テ出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト思料シタルトキハ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ經理局ニ送付スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル書類ハ當該鎮守府監督部ヲ經テ東京軍法會議出納官吏ハ直接經理局ニ送付スヘシ

第七條 本規程ニ沒收金トアルハ海軍治罪法執行規則第六十九條物品公賣代金及海軍監獄則第十八條ニ依ル沒收金ノ如キ定期間保管ヲ要スルモノニ限ル

第八條 沒收金及刑事被告人、懲治人ノ領置金ハ二十二年大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則ニ依リ金庫ニ依託シ囚徒ノ所持金ハ二十六年大藏省令第十九號預金取扱規則ニ依リ預金トシ其證書ヲ以テ保管スルモノトス但刑事被告人、懲治人ノ領置金ハ場合ニ依リ委託セラルコトヲ得

第九條 海軍治罪法執行規則及海軍監獄則ニ依リ領置若クハ沒收セシ金銀ニシテ其保管期限ヲ經過セシモノハ科目金員事由等ヲ詳記シタル歳入金納付票ヲ添ヘ之ヲ當該收入官吏ニ納付スヘシ

前項ノ諸規則ニ依リ處分ス可キ物品ハ出納命令官ノ指揮ヲ受ケ賣却其他適宜ノ處分ヲ爲スヘシ但賣却代金ハ之ヲ當該收入官吏ニ移スヘシ

第十條 現金出納計算書、物品出納計算書ノ書式及證明ニ關スル事項ハ會計検査院ニ於テ定ムルトコ

第十一條 本規程ニ要スル帳簿及證據書類ノ様式ハ第三表ニ依ル

第一表

沒收及領置金、出納命令官、物品出納命令官、金銀物品出納官吏	金銀物品出納官吏
東京軍法會議上席主理	東京軍法會議録事

海軍監獄長海軍監獄書記

備考 出納官吏ニハ辭令書ヲ附與ス

第二表 (用紙美濃十三行野紙)

(二内ハ朱書)

歳入歳出外沒收及領置金錢保管仕譯書		部		部		部	
保管區分	受	越	入	出	下	出	何
現金		高	入	納	渡	納	々
某金庫		受	入	納	渡	納	々
現金		入	入	納	渡	納	々
某金庫		入	入	納	渡	納	々
現金		入	入	納	渡	納	々
某金庫		入	入	納	渡	納	々
合計		入	入	納	渡	納	々

明治何年何月何日

東京軍法會議(某海軍監獄)

沒收及領置金錢物品出納官吏官姓名「印」

經理局長宛

「掃部下渡ノ欄ニハ放免ニ依リ還付シタルモノト傳願ニ依リ債權者海指名人ニ下渡セシ分ヲ掲ク」

「雜渡ノ欄ニハ傳願ニ由ル發信書ノ郵便稅其他ヲ掲ク」

「在監人死亡死體引取人へ下付セシカキトノハ其事項ノ一欄ヲ設ケ掲クルモノトス」

「海軍治罪法執行規則第六十九條及海軍監獄則第十八條ニ依リ沒收セシ物品賣却代金沒收金ニ併算スルモノトス」

(第三表證據書類第四表證據書類)

水路圖誌水路測器經理規程

明治三十七年二月
海軍省達第三十五號

水路圖誌水路測器經理規程左ノ通定ム

水路圖誌水路測器經理規程

第一條 水路圖誌ト稱スルハ水路圖誌供給表及水路圖誌貸與品表ニ掲ケタル圖誌類ヲ謂ヒ水路測器ト稱スルハ水路測器供給表及水路測器貸與品表ニ掲ケタル器具器械類ヲ謂フ

第二條 水路圖誌供給表、水路圖誌貸與品表、水路測器供給表及水路測器貸與品表ハ水路部長之ヲ定メ海軍大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第三條 水路圖誌ハ備品及消耗品トシ水路測器ハ備品及貸與品トス

消耗品タル水路圖誌ハ第一種消耗品ノ取扱トス

第四條 艦團其ノ他各部ニ供給スヘキ水路圖誌及水路測器ノ定數ハ各供給表ニ依ル

第五條 艦團其ノ他各部ニ要スル水路圖誌及水路測器ハ所屬若ハ在籍鎮守府兵備品會計官吏ヨリ、鎮守府所屬外ノ各廳等ニ要スル水路圖誌及水路測器ハ最寄鎮守府兵備品會計官吏ヨリ、常備艦隊幕僚及常備艦隊附屬驅逐隊司令用ノ水路圖誌水路測器ハ佐世保鎮守府兵備品會計官吏ヨリ、在東京各廳ノ水路圖誌水路測器ハ水路部兵備品會計官吏ヨリ供給ス

第六條 兵備品會計官吏ハ他鎮守府在籍ノ艦船及常備艦隊幕僚等ニ水路圖誌水路測器ヲ供給スルコトヲ得

艦船及常備艦隊幕僚等ニ於テ不用ニ屬シ又ハ毀損シタル水路圖誌水路測器ノ還納ヲ要スルトキハ他鎮守府兵備品會計官吏ニ還納スルコトヲ得

第七條 兵備品會計官吏在庫品中廢物ニ屬シ又ハ毀損品ナルモ使用ノ見込アルモノハ修理若ハ改造シ其ノ使用ニ堪ヘサルモノハ不用品トシテ處分スヘシ但シ廢版ノ水路圖誌ハ兵備品會計官吏若ハ兵備

品取扱主任ニ於テ適宜處置スルモノトス

第八條 艦團其ノ他各部ニ於テ水路測器ノ修理若ハ試験ヲ要スルトキハ兵備品會計官吏ニ請求スヘシ但シ軍港外ノ地ニ在リテ至急ヲ要スルトキハ適宜信用アル器械師ニ托シテ修理若ハ試験セシムルコトヲ得

第九條 兵備品會計官吏他鎮守府在籍艦船等ノ水路測器ヲ修理若ハ試験シタルトキハ之ヲ其ノ所屬鎮守府兵備品會計官吏ニ通知スヘシ

水路測器ノ修理ヲ要スヘキ期限、試験證ノ制式及修理ノ手續等ハ水路部長之ヲ定ム

第十條 兵備品會計官吏及兵備品取扱主任其ノ保管ニ係ル水路測器水路測器中ニ亡失若ハ缺損セルモノアルコトヲ發見シタルトキハ順序ヲ經テ各所屬長官ニ報告スヘシ

第十一條 兵備品會計官吏及兵備品取扱主任天災其ノ他ノ事故ニ依リ其ノ保管ニ係ル水路測器水路測器中ニ亡失毀損シタルモノアルトキハ之カ理由書ヲ作り兵備品出納命令官ノ指揮ヲ受クヘシ但シ兵備品取扱主任ニ在リテハ所轄長ノ證明ヲ得兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ出スモノトス

第十二條 各供給表ニ依リ水路測器水路測器ノ供給ヲ受クルコト能ハザル應ニ於テ水路測器若ハ水路測器ヲ要スルトキハ一時兵備品會計官吏ニ於テ之ヲ貸與スルコトヲ得

前項水路測器水路測器ノ借用期限ニ關スルコト及其ノ手續等ハ水路部長之ヲ定ム

第十三條 外國ニ於テ竣功若ハ購入シタル艦船本邦ニ回航前水路測器水路測器ノ供給ヲ要スルトキハ兵備品會計官吏ヨリ之ヲ貸與シ又外國ノ水路測器若ハ水路測器ヲ用フルモノハ本邦ニ回航ノ後兵備品取扱主任ニ於テ之カ品名及員數等ノ明細書ヲ調製シ之ヲ在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ報告スヘシ

兵備品會計官吏ハ前項ノ明細書ニ依リ之ヲ艦船ノ供用トシ規程ニ依リ修理スヘシ

第十四條 補給用ノ水路測器及水路測器ハ各供給表定數ノ凡十分ニ達スルヲ日途トス但シ應急調辨

ノ見込アルモノハ此ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

補給用ノ水路測器ハ水路部及各測器庫ニ、水路測器ハ各測器庫ニ準備ス

第十五條 水路部長ハ水路測器及水路測器ノ準備等ニ遺憾ナキヲ期センカ爲各測器庫主管ヲシテ必要ナル報告ヲ提出セシメ又各測器庫間ニ水路測器ノ保管ヲ轉換セシムルコトヲ得

附則

明治三十一年達第三十六號水路測器供給規則及明治三十三年達第六十六號水路測器試驗修理規程ヲ廢ス

●職工用被服物品貸與規程

明治二十九年十月
海軍省達第九十號

改正

●明治三十二年四月
海達第七十號

●明治三十三年九月
海達第五百五十二號

●明治三十五年四月
海達第四百八十八號

●明治三十六年八月
海達八十一號

職工用被服物品貸與規程左ノ通定ム

職工用被服物品貸與規程

第一條 工場ニ使役スル職工ニハ事業ノ須要ニ依リ左ノ被服物品ヲ貸與ス其型式ハ別表ニ依ル

一 事業服帽及帽章 常時貸與

一 事業服 臨時貸與

一 前掛 同上

一 手囊 同上

一 頭巾 同上

一 雨衣上衣 同上

一 雨衣袴 同上

一 雨帽 同上

第二條 各工場長ハ所要ノ數ヲ豫定シ被服物品ヲ受込ミ職工ニ貸與スヘシ

麵包器械工 麵包夫ノ被服物品ハ衣糧庫主管之ヲ貸與スヘシ

第三條 職工ニ貸與スル被服物品ハ就業時間外ニ使用スルコトヲ得ス職工退出後ハ所屬長相當ノ取締
法ヲ設クヘシ

第四條 貸與被服物品ハ新調品ニ限ラス實用ニ堪ユル限リハ修補ノ上使用セシムヘシ

第五條 職工用被服物品ノ出納整理ニ關シテハ總テ通常物品會計規程ニ依ル

(別表)

職工用被服物品製式

品名	地質及製式
職工用事業服上衣 麵包器械夫用事業服上衣	帆布製胸ニ麻紐ヲ附ス但シ麵包器械工麵包夫ニ貸與ノモノハ白綿布製
製藥職工用事業服上衣	木綿單製襟、角製釦一行五箇ヲ附ス
職工用事業服袴 麵包器械夫用事業服袴	帆布製上部ニ麻紐ヲ附ス但シ麵包器械工、麵包夫ニ貸與ノモノハ白綿布製
製藥職工用事業服袴	木綿製、上部ニ木綿紐ヲ附ス
事業服帽	帆布製ニシテ上部左右ニ二箇ノ穴ヲ穿テ麻紐ヲ貫通ス
帽前章	真鍮製橢圓形工場名及番號(紐長ハ紐ノ字)ヲ附ス (紐長ハ伍ノ字)ヲ附ス
職工用事業服前掛	帆布製胸當、膝當ノ二種トシ單製麻紐ヲ附ス
職工用前掛 但木綿製	木綿八枚重縫製、帆布紐ヲ附ス但シ中切ハ古物ヲ用ユ
麵包器械工前掛 夫用前掛	綿布製
製藥職工用前掛	木綿製胸部ノ左右ニ木綿紐ヲ附ス

(製式圖略ス)

手	襪	帆布製麻紐ヲ附ス
機關煙筒掃除用頭巾	帆布製	
鍛冶工業用頭巾	麻布製	
造船工業用頭巾	麻布製	
雨衣上衣	生厚綾木綿製黒油ヲ塗り黒角釦三箇宛二行	
雨衣袴	生厚綾木綿製黒油ヲ塗ル	
雨帽	生小倉製黒油ヲ塗ル	
備考	實際必要ノ數ヲ準備供給ス 麵包器械工、麵包夫用事業服及前掛ハ兵備品中不用ニ歸シタルモノノアル限リ之ヲ充用スルコトヲ得	

●兵器經理規程

明治三十七年三月
海軍省達第五十二號

兵器經理規程左ノ通定ム

兵器經理規程

- 第一條 兵器トハ砲、銃、水雷、彈藥、電氣諸裝置、軍樂器及其ノ附屬品ヲ謂ヒ之ヲ砲銃、水雷ノ二部ニ分ツ其ノ名稱及細目ハ兵器簿ニ依ル
- 第二條 兵器ヲ備品及消耗品ニ區分ス其ノ品目ハ別表第一號ニ依ル
- 第三條 兵器ノ主管別ハ別表第二號ニ依ル
- 第四條 兵器ハ工廠及造兵廠ニ貯藏シ相互保管轉換ノ必要アルトキハ海軍艦政本部ヲシテ通牒セシム
- 第五條 軍樂器ハ横須賀海軍工廠ニ於テ之ヲ供給ス
- 別表第三號ニ掲クル附屬品ハ其ノ他ノ工廠ニ於テ之ヲ供給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ横須賀海軍工廠ニ保管轉換ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 演習用彈藥及爆發物ノ類ニシテ貯藏缺乏ノ場合ニ限リ實用彈藥及爆發物ノ類ヨリ組替充用スルコトヲ得
- 第七條 工廠及造兵廠ニ於テ製造若ハ購買シタル兵器ハ該廠ニ於テ保管シ其ノ他ノ兵器ハ海軍艦政本部ノ通牒ニ依リ之ヲ保管スヘシ
- 第八條 艦團其ノ他各部(其ノ他各部トハ部、隊、校、所等ヲ謂フ以下同シ)ニ要スル兵器ノ定數ハ兵器簿ニ依ル但シ兵器簿制定前ハ海軍艦政本部長ノ豫定シタル豫定兵器簿ニ依ル
- 新ニ供給ヲ要スル兵器ニシテ定數ナキモノハ海軍艦政本部ノ通牒ニ依リ供給スルコトヲ得
- 第九條 豫定兵器簿ニ依リ供給ヲ受ケタル艦團其ノ他各部ニ在リテハ約一年間實際ノ適否ヲ精査シタル後該長ハ之ニ意見ヲ附シ在籍又ハ所管鎮守府司令長官(艦隊要港ニアリテハ所屬長官ヲ經由ス)ニ鎮守府所管ニアラサル

各部ハ最寄鎮守府司令長官ニ提出スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ豫定兵器簿ヲ調査シ意見ヲ附シ海軍艦政本部長ニ送付スヘシ艦政本部長ハ之ヲ審査シ兵器簿制定ノ手續ヲ爲スヘシ但シ兵器簿制定以前ニ在リテハ工廠長ハ艦政本部長ノ承認ヲ得テ豫定々數ヲ増減スルコトヲ得兵器ノ換裝ヲ爲シタル場合亦同シ

第十條 兵器ハ製造用見本ノ外貸出スコトヲ得ス但シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

艦艇ニ兵裝或ハ換裝ノ爲兵器ヲ支出スルトキ其ノ艦艇ニ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任在ラサル場合ニハ該工事主任官ニ之ヲ貸與スルコトヲ得

第十一條 兩年度ニ跨リ航海スル艦船又ハ遠隔ノ地ニ在ル部團ニ於テハ兵備品會計官吏ニ兵器ノ線上渡ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ兵備品會計官吏線上渡ヲ爲シタルトキハ其ノ品名數量ヲ所屬工廠長ヲ經テ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十二條 艦船外國航海中若ハ鎮守府遠隔ノ地ニ在ル艦船部團ハ消耗品ヲ相互請求スルコトヲ得

第十三條 艦團其ノ他各部ニ於テ魚形水雷ヲ失踪セシメタルトキハ役務行動上止ヲ得サル場合ニ限リ其ノ發見迄代品ヲ供給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ兵備品會計官吏ハ所屬工廠長ヲ經テ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十四條 艦團其ノ他各部ニ於テ定數外ノ兵器ヲ要スルカ若ハ定數變更ノ必要アルトキハ在籍又ハ所管鎮守府ノ工廠長(艦隊、要港部ニアリテハ所屬長官ヲ指山ス)ニ、鎮守府所管ニアラサル各部ハ東京ニ在リテハ造兵廠長ニ、其ノ他ハ最寄鎮守府ノ工廠長ニ申請スヘシ工廠長又ハ造兵廠長ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シテ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ具申スヘシ
前項ノ場合ニ於テ据付又ハ取外ノ爲メ費用ヲ要スルトキハ海軍兵器造修試驗檢査規則ヲ準用ス

第十五條 鎮守府司令長官ハ戰時及事變ニ際シ海軍大臣ノ認許ヲ經テ進ナキトキハ定數外ノ兵器ヲ供給セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ品名數量事由ヲ海軍大臣ニ届出ヘシ

第十六條 鎮守府司令長官ハ制規ニ依リタル兵器試驗ノ爲メ兵器ヲ供給セシムルコトヲ得造兵廠ニ於テ兵器試驗ニ要スル兵器ノ支出ハ海軍艦政本部長ノ承認ヲ受クヘシ
公試發射若ハ兵器試驗ニ要スル兵器ハ該委員長(委員長ナキトキハ主任委員)ニ供給スルモノトス

第十七條 艦團其ノ他各部ニ要スル兵器ハ在籍又ハ所管鎮守府兵備品會計官吏之ヲ供給シ鎮守府所管ニアラサル各部ニ要スル兵器ハ東京ニ在リテハ造兵廠、其ノ他ハ最寄鎮守府ノ兵備品會計官吏之ヲ供給ス

鎮守府兵備品會計官吏ハ他鎮守府在籍ノ艦船ニ兵器ヲ供給スルコトヲ得
分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵器ノ還納ヲ要スルトキハ之ヲ所屬兵備品會計官吏ニ還納スヘシ但シ艦船在籍又ハ所管鎮守府管區外ニ在ルトキハ最寄鎮守府兵備品會計官吏ニ還納スルコトヲ得

第十八條 艦團其ノ他各部ニ於テ使用上生シタル彈藥筒、藥莖、插彈子、火管體ノ類ハ兵備品會計官吏ニ還納スヘシ

第十九條 兵備品會計官吏ハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ヨリ還納シタル兵器ヲ良品、損品、廢品ニ分チ良品ハ直ニ庫納シ損品ハ海軍兵器造修試驗檢査規則ニ依リ修理ヲ加ヘ其ノ修理ヲ加フルモ得失相償ハサルモノ及廢品ハ第二十二條第二十一條ニ依リ處分スルモノトス
亡失ノ兵器ヲ拾得者ヨリ受領シタル工廠若ハ造兵廠ハ評價ヲ附シ受入ヲナシ其ノ品名及評價額ヲ海軍艦政本部ニ報告スヘシ

第二十條 兵備品會計官吏其ノ保管兵器ノ内不用品廢品ヲ生シタルトキハ其ノ品名數量事由ヲ詳記シ

出納命令官ニ出シ出納命令官ハ之ヲ工廠長又ハ造兵廠長ニ報告シ工廠長又ハ造兵廠長ハ検査官ヲシテ検査セシメ之ヲ承認シタルモノノ内造兵材料ニ使用ノ目的アルモノハ通常物品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲シ其ノ使用ノ目的ナキモノハ所要ノ通常物品會計官吏ニ保管轉換スルカ又ハ賣却、棄却、燒却ノ手續ヲ爲スヘシ

兵備品會計官吏ハ前項ニ依リ處分スル兵器ノ内將來ノ參考トナルヘキモノハ出納命令官ニ報告シ工廠ニ在リテハ出納命令官工廠長ノ承認ヲ得テ、造兵廠ニ在リテハ出納命令官直ニ之ヲ參考兵器トシテ保管セシムルコトヲ得

第二十一條 工廠長又ハ造兵廠長ハ不用品廢品ト決シタル兵器ノ内砲、銃、魚形水雷、發射機、空氣壓搾機筒、氣密器、裝氣柱、探海電燈、發電機及火藥爆發物等ハ不用品廢品トナリタル模様及原因ヲ調査シ其ノ理由ヲ詳記シ改造ノ上使用ノ見込アルモノハ意見ヲ附シ入費概算書ヲ添付シ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ艦政本部長ハ之ヲ調査シ其ノ處分ヲ命スヘシ但シ前條ニ依リ處分セシムルモノニシテ重要兵器ニ屬スルモノハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

廢品ニ至ラサルモノモ重要ノ部分ヲ毀損シタル兵器アルトキハ工廠長又ハ造兵廠長ハ前項ニ依リ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第二十二條 兵備品會計官吏天災其ノ他ノ事故ニ因リ貯藏ノ兵器ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ品名數量代價及事由ヲ詳記シ出納命令官ニ出シ出納命令官ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ届出ツヘシ

第二十三條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ天災其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ保管ニ屬スル兵器ヲ亡失毀損シタルトキ若ハ必要ニ依リ棄却シタルトキハ其ノ品名數量及事由ヲ詳記シ所轄長ニ報告シ所轄長ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ移シ分任兵備品會計

官吏若ハ兵備品取扱主任ハ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ報告シ出納命令官ハ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ届出ツヘシ

第二十四條 兵備品會計官吏ハ其ノ貯藏保管スル兵器ノ數量不足セントスルトキハ順序ヲ經テ其ノ補充ヲ海軍艦政本部ニ請求スヘシ

第二十五條 兵備品會計官吏更新製若ハ購買兵器ヲ受入ルトキハ工廠ニ在リテハ造兵部ヨリノ成品送付票、造兵廠ニ在リテハ製造部ヨリノ成品送付票、海軍艦政本部ノ通牒ニ依リ受入ルモノハ該通牒ヲ以テ納票ニ代用シ受入ノ證據ト爲スコトヲ得

第二十六條 兵備品會計官吏兵器ヲ受入ルトキ其ノ合計代價ノミ分明ニシテ各別ニ之カ代價ノ算出ヲ要スルモノハ兵備品會計官吏其ノ詳細ヲ爲シ出納命令官ノ承認ヲ受クヘシ

第二十七條 兵備品會計官吏他鎮守府在籍ノ艦船ニ第一種消耗品ヲ供給シタルトキハ該艦船在籍鎮守府ノ兵備品會計官吏ニ其ノ品名數量及代價ヲ通牒スヘシ

第二十八條 兵備品會計官吏他鎮守府在籍ノ艦船ヨリ第一種消耗品ノ返納ヲ受ケタルトキハ該艦船在籍鎮守府ノ兵備品會計官吏ニ其ノ品名數量ヲ通牒シ其ノ代價ノ通牒ヲ受クヘシ

第二十九條 兵備品會計官吏貯藏兵器中一部分廢品トナリタルモノヲ交換スルカ或ハ品位品種ノ組替變換ヲナス場合ニ於テハ海軍兵備品會計規程第七號及第八號票ヲ用ヒ記載整理ノ手續ヲ爲スヘシ但シ品種變換ノ場合ニ在リテ加工費用ノ算出セラルヘキモノハ併算スヘシ

第三十條 兵備品會計官吏ハ艦船其ノ本籍ヲ轉シタルトキハ該艦船ニ供給シタル消耗品ノ數量ヲ在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ通牒スヘシ

第三十一條 兵備品會計官吏ハ現品簿(舊式第一號)ヲ調製シ彈藥、火工品及爆發物類ノ製造年月、科目及其ノ他必要ノ事項ヲ詳記シ現品ノ實況ヲ明瞭ナラシムヘシ

第三十二條 兵備品會計官吏ハ海軍兵備品會計規程第十八條ニ依リ元受若ハ拂出ヲ爲シタルトキハ海軍艦政本部ニ報告スヘシ

第三十三條 兵備品會計官吏ハ毎月五日限リ前月分ノ兵器出納ヲ調査シ書式第二號乃至第五號ニ依リ左ノ報告書ヲ調製シ海軍艦政本部ニ出スヘシ

一 交付及保管轉換兵器報告(送兵材料ニ保管物換フモノヲ除ク)

一 還納兵器處分報告

一 兵器組替更訂報告

一 在庫兵器處分報告

第三十四條 兵備品會計官吏ハ毎年三月三十一日在庫現數ト其ノ年度中ニ出納シタル兵器ノ出納總括表(書式第六號)ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ海軍艦政本部ニ出スヘシ

第三十五條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ毎月五日迄ニ前月分ノ兵器受拂現況報告(書式第七號)ヲ作り所屬兵備品會計官吏ニ出シ兵備品會計官吏ハ之ヲ調査シ其ノ目末日迄ニ海軍艦政本部ニ送付スヘシ

第三十六條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ兵器交付簿(書式第八號)ヲ設ケ消耗品ノ拂出ヲナストキハ監督者若ハ先任者ニ交付シ該簿ニ捺印セシメ備品ヲ各自ノ使用ニ供スルトキハ受領者ノ印ヲ徴スヘシ但シ監督者ニ一併ニ交付スルモ妨ケナシ

第三十七條 兵備品取扱主任砲射擊規則其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ取扱ニ係ル備品ヲ消耗シタルトキハ備品消耗報告(書式第九號)正副二通ヲ作り兵備品會計官吏ニ出スヘシ兵備品會計官吏ハ之ヲ調査シ副管ヲ海軍艦政本部ニ送付スヘシ

第三十八條 兵備品取扱主任海軍兵器造修試驗検査規則ニ依リ其ノ取扱ニ係ル備品ノ試験ヲ要求スルトキハ還納ノ手續ヲ爲スヘシ

附則 第三十九條 本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス別表第一號

トキハ還納ノ手續ヲ爲スヘシ
附則
第三十九條 本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス
別表第一號

備品

砲銃ノ部 砲銃及其ノ附屬器具、實用彈藥及附屬要具、銃兵器具、彈藥庫内器具、艦内器具、軍樂器

水雷ノ部 發射管、發射機及其ノ附屬器具、空氣壓搾唧筒及其ノ附屬器具、水雷及其ノ附屬器具、通信器及其ノ附屬器具、探海電燈及其ノ附屬器具、發電機、電動機及其ノ附屬器具、移動白熱電燈、白熱電燈用器具、試驗器具類、水雷諸要具、救難浮標用器具、實用火工品及爆發物

第一種消耗品

砲銃ノ部 演習用彈藥類、測壓器用銅柱類、目塗劑ノ類、禮砲用空包
水雷ノ部 演習用爆發物及火工品類、紙板、白金線、兵器簿諸要具ノ部中ニ記載ノ消耗兵器、白熱電燈、覆硝子類、安全溶解片及線類、白熱電燈線、赤光燃料、救難浮標用火莖及料藥罐ノ類、演習用敷設水雷

第二種消耗品

砲銃ノ部 革製環座、發火裝置隔緣環、常備用空包、夜中照準器用白熱電燈、同用線硝子、軍樂器用銅針、鉦、發條、押金、硝子ホヤ、廢物彈丸

水雷ノ部 夜中照準器用白熱電燈、同用綠硝子、水雷用護謨問座及革問座、小裝鎧電纜、單心裝鎧電纜、無線電信用現波粉、同用電鎗用觸著片、同用硝子蓋、探海電燈用電纜、地板大、發電機及電動機用集電子、壓搾唧筒用革問座、注油機硝子類、

別表第二號

主管別	品名
航海	信號器及其ノ附屬器具等
砲術	砲、銃、水壓駐退機、軍樂器、發砲電路及其ノ附屬器具等
水雷	水雷、發射管、發射機、探海電燈、電氣通信器及其ノ附屬器具並電氣試驗器具等
機關	空氣壓搾唧筒、發電機電動機、水壓唧筒機、大砲水壓旋回機、電燈、機關ニ屬スル電氣器具及其ノ附屬器具等
備考	試驗器具及消耗兵器ハ各主管相互流用スルコトヲ得

別表第三號

一指	揮杖	一諸掃	除箭	一前同	螺器	一舌	類類
一鉤	類	一鋼針	類	一發條	類	一押金	類類
一「ハ、ス」掛	革	一太鼓	替皮	一太鼓	掛革	一太鼓	雨覆
一太鼓	日覆	一太鼓	撥	一太鼓	緣	一太鼓	縮綱
一大太鼓	縮革	一大太鼓	臺	一小太鼓	響線	一樂譜	臺

一樂譜 臺袋 一樂譜臺用硝子ホヤ 一硝子ホヤ格納筐 一譜冊入胴亂
 一行進用譜入胴亂 一譜 挾 一譜 建 一軍樂器喪章

(書式略ス)

海軍戰利品取扱規程

明治三十七年三月
海軍 達五十六號

海軍戰利品取扱規程左ノ通定ム

海軍戰利品取扱規程

- 第一條 日露戰役ニ關シ海軍ニ於テ獲得シタル戰利品ノ取扱ハ本規程ニ依ル
- 第二條 戰利品ヲ獲得シタル艦團其ノ他各部ノ長艦隊所屬艦船部隊ノ長ハ該司令長官ノ指揮ヲ受ケハ其ノ品名、員數ヲ記載シタル報告書ヲ作り現品ヲ添ヘ最寄鎮守府司令長官ニ送付スヘシ但シ艦隊司令長官ニ於テ必要アリト認めタル戰利品ハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ出征地ニ於テ其ノ儘使用又ハ消費スルコトヲ得
- 第三條 前條ニ依リ戰利品ノ送付ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ該品ノ處分結了迄部下官逕ラシテ適宜之ヲ保管セシムヘシ
- 第四條 戰利品中艦船ノ處分ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第五條 戰利品中通貨及金銀塊ハ鎮守府司令長官經理部長ヲシテ之ヲ經理局長ニ送付セシメ經理局長ハ之ヲ國庫ニ納入ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 戰利品中兵備品又ハ通常物品トシテ海軍ニ於テ使用ノ見込アルモノハ鎮守府司令長官其ノ用途ヲ定メ見積代價ヲ付シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ各其ノ元受ニ立テシムヘシ
- 第七條 海軍ニ於テ使用ノ見込ナキ物品ト雖モ鎮守府司令長官ハ之ニ見積代價ヲ付シ海軍大臣ニ報告シ總テ一旦通常物品ノ元受ニ立テシムヘシ
- 前項物品ノ處分ニ關シテハ鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

● 捕獲品取扱規程

明治三十七年三月
海軍省達第五十七號

捕獲品取扱規程左ノ通定ム

捕獲品取扱規程

- 第一條 日露戰役ニ關シ捕獲審檢所ニ於テ沒收ト確定シタル捕獲品ノ取扱ハ本規程ニ依ル
- 第二條 捕獲審檢所ニ於テ沒收ト確定シタル捕獲品ハ捕獲審檢令第二十九條第二項ニ依リ保管シタル
鎮守府司令長官捕獲審檢所檢察官ヨリ之カ引渡ヲ受クヘシ
- 第三條 前條ニ依リ捕獲品ノ引渡ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ該品ノ處分結了迄部下官憲ヲシテ適宜
之ヲ保管セシムヘシ
- 第四條 捕獲品中船舶ノ處分ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第五條 捕獲品中通貨及金銀塊ハ鎮守府司令長官經理部長ヲシテ之ヲ經理局長ニ送付セシメ經理局長
ハ之ヲ國庫ニ納入ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 捕獲品中兵備品又ハ通常物品トシテ海軍ニ於テ使用ノ見込アルモノハ鎮守府司令長官其ノ用
途ヲ定メ見積代價ヲ付シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ各其ノ元受ニ立テシムヘシ
- 第七條 海軍ニ於テ使用ノ見込ナキ物品ト雖モ鎮守府司令長官ハ之ニ見積代價ヲ付シ海軍大臣ニ報告
シ總テ一旦通常物品ノ元受ニ立テシムヘシ
- 前項物品ノ處分ニ關シテハ鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

●特別使用文具ヲ定ム

明治二十四年六月
海軍省達第百十八號

本年三月勅令第二十七號ニ依リ常省ニ於テ特別使用ニ供スル文具ヲ左ノ通り定ム

備										品	目	使用ノ目的
硯箱品附共屬	朱硯箱石共	糊壺	イソキ壺	定規各種	尺度各種	コンパス	烏口	文鎖	鉄	彫刻用印刷用真切用	軍法會議審判廷用望樓用衛兵扣所用患者用 限ル 囚人用 監倉禁錮 場ニ限ル 教場用學術試驗用	
	同上	同上	製圖用學術試驗用複寫用外國人用筆榻版用	製圖用彫刻用印刷用教場用學術試驗用物件検査用	同上	製圖用彫刻用教場用學術試驗用	同上	同上				

產物品會計官吏ニ交付スヘシ

第九條 林產物品會計官吏前條ノ交付ヲ受ケタルトキハ現品ヲ受取人ニ引渡シ其ノ領證收ヲ致シ直チニ引渡濟報告ヲ大林區署長ニ送付スヘシ

第十條 大林區署長ハ物品會計規則第十條ノニ依リ毎年三月検査員ヲシテ林產物品會計官吏ノ保管ニ屬スル物品及帳簿ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ調製セシムヘシ林產物品會計官吏交替ノ場合モ亦同シ一物品出納命令官必要ト認ムルトキハ臨時ニ保管物品ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 林產物品會計官吏ハ毎月一回以上各貯藏所ノ現品ヲ帳簿ニ照合シ其ノ狀況ヲ審査シテ調書ヲ調製シ大林區署長ニ送付スヘシ但シ遠隔ナル貯藏所ノ物品ハ其ノ現在數ヲ保證シタル所屬官吏ノ保證書ヲ調査ニ添附スヘシ

第十二條 林產物品會計官吏ハ明治三十四年^四會計検査院達第一號物品出納證明規程ニ依リ林產物品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度五月三十一日マテニ大林區署長ニ送付スヘシ
林產物品會計官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ取扱タル計算書ヲ調製シ六十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 大林區署長前條ノ計算書ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ會計検査院ニ送付スヘシ

第十四條 大林區署長ハ毎年度林產物品出納報告書ヲ調製シ翌年度六月十五日マテニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第十五條 林產物品ノ保管及責任ニ關シテ明治三十三年農商務省訓令第十一號大林區署會計事務章程第五百七條、第六十一條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第十六條 大林區署長及林產物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設ケ林產物品出納ノ計算ヲ整理スヘシ

一 林產物品出納簿

一 林產物品内譯簿

前項ノ外必要アルトキハ適宜補助簿ヲ設ケタルコトヲ得

第十七條 林產物品會計官吏ヨリ大林區署長ニ送付スル書類ハ第三條ノ場合ニ於テハ委任ヲ受ケタル出納命令官ヲ經由スヘシ

第十八條 此ノ規程ニ因ル様式並記入方法ハ山林局長之ヲ定ムヘシ
附則

第十九條 明治二十二年^九丙第四〇七號達林產物品會計規程及明治二十五年^一農商務省訓令第一號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

● 獣疫費ニ關スル物品ノ出納取扱方

明治三十一年二月
農商務省訓令第三號

警視廳 北海道廳

府縣 但東京府ヲ除ク

常省所管獣疫費ニ屬スル物品ノ出納ハ其廳所管物品ト同一ニ取扱フヘシ

● 鑛山監督署物品出納規程

明治二十五年五月
農商務省訓令第十七號

鑛山監督署

鑛山監督署物品出納規程左ノ通相定ム

鑛山監督署物品出納規程

- 第一條 鑛山監督署所用物品出納ノ命令ハ鑛山監督署長之ヲ執行スヘシ
- 第二條 物品會計規則第十一條ノ検査官吏及ヒ第十五條第二項但書ノ官吏ハ鑛山監督署長之ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 物品會計官吏購入其他ノ事由ニヨリ物品ヲ接受シタルトキハ證據書類ニ照シ調査納入スヘシ
- 第四條 物品ノ交付ヲ受ケントスル者ハ物品會計官吏ニ請求書ヲ差出スヘシ
- 第五條 物品ヲ交付スルトキハ共用ニ係ルモノハ共用品取扱主任各自ノ使用ニ係ルモノハ各自ノ領收證ヲ徴スヘシ
- 第六條 物品ヲ返納セントスルトキハ其事由ヲ詳記セル返納書ヲ添ヘ物品會計官吏ハ納付スヘシ
- 第七條 物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設クヘシ
- 一 備品出納簿
 - 二 消耗品出納簿
 - 三 供用品書留簿
- 第八條 貯藏ノ物品ハ物品會計官吏共用ニ係ル物品ハ共用品取扱主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ
- 第九條 物品會計官吏ハ共用又ハ各自保管ノ物品ト雖モ取締上ニ關シテ總テ監督ノ任アルモノトス
- 第十條 貯藏ノ物品ハ適宜帳簿ヲ設ケ品種數量ヲ明瞭ニ登記シ倉庫ニ格護スヘシ